

二届出テ檢査ヲ受クヘシ

但廢場又ハ賣買讓與シタルルハ直ニ其旨届出スヘシ

第二條 劇場觀物場ハ巾六尺以上ニテ四ヶ所以上ノ出入口巾四尺以上ニシテ二ヶ所以上ノ階梯及窓牖ヲ設ケ棧敷構造ヲ堅牢ニシテ且適宜ノ消防火具ヲ備フヘシ

第三條 便所ハ臭氣ノ客座及ヒ公道ニ及サル處ニ設ケ尿管ヲ受容スヘキ部分ハ石敲キ陶器等ヲ以テ構造スヘシ

第四條 劇場觀物場ヲ開カントスル時ハ其前日迄ニ興行ノ種類(演劇ハ其筋書俳優ノ姓名觀物ハ角力足藝輕業獨樂廻曲馬力持其他ノ技藝及天產物禽獸等ノ名稱及藝人ノ姓名)場所及期日日數ヲ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ但興行ヲ止メ又ハ日延若クハ休業スルトキハ直ニ其旨届出ヘシ

第五條 興行中ハ場ノ内外ヲ問ハス毎日清潔ニ掃除スヘキハ勿論便所ハ特ニ時々掃除ヲ爲シ防臭劑ヲ散布スヘシ

第六條 劇場ニ於テハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

- 一 勸善懲惡ノ趣意ヲ失フヘカラス
  - 二 猥褻ノ所爲ニ涉ルヘカラス
  - 三 棧敷ニハ定員外ノ看客ヲ入ルヘカラス
- 但定員ハ豫メ警察署又分署ニ届出ツヘシ

- 四 通行人ニ對シ強テ入場ヲ勸ムヘカラス
  - 五 藝人等觀客ノ座席ニ往來シ又ハ觀客ヲ樂屋ニ入ラシムヘカラス
  - 六 興行ハ日出ヨリ午後第十二時ヲ限ルヘシ
  - 七 全場見透シ易キ箇所ヲ撰ミ警察官吏ノ監視席ヲ設クヘシ
- 第七條 觀物場ニ於テハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ
- 一 前條ノ第四第六項
  - 二 前條ノ第二第七項
  - 三 事實ニ相違シタル事ヲ揚言スヘカラス
  - 四 不具異様ノ人身及臭氣アル腐敗物ヲ出スヘカラス
  - 五 看板ト相違シタル實物ヲ出スヘカラス
- 第八條 一時小屋懸ナシ又ハ人家ヲ用ヒ劇場觀物場ヲ開カントスル者ハ第六條第三項ヲ除クノ外第四條以下ノ各條ヲ遵守スルハ勿論危險ヲ防キ空氣ヲ通シ及火災ノ節出入ニ便ナラシムル様注意スヘシ
- 第九條 路上ニ於テ興行スル觀目鏡居合拔キ萬歲等ノ類ハ第六條第二項及左ノ各項ヲ遵守スヘシ
- 但街路取締規則ヲ施行スル市街ニ於テハ其規則ニ從フヘシ
- 一 通行ノ妨ヲ爲スヘカラス
  - 二 猥リニ人家ニ立入り又ハ強テ金錢等ヲ請フヘカラス

第十條 届書ニ相違セル興行ヲナシ又ニ猥褻ニ涉リ若シハ世安ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官吏ニ於テ一時興行ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條第三第四第六項第七條第一項第九條ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

第六條 第一第二第三第五第七條第二第三第四第五項第八條ニ違背シ命ニ從ハサル者亦同シ

附則

一本則ハ明治廿年八月一日ヨリ施行ス

一從來ノ場所ハ此際願出許可ヲ受クヘシ

但第二條第三條ノ制限ニ適セスト雖モ本則施行ノ日ヨリ一ケ年以内ハ特ニ許可スルコトアルヘシ

一明治十五年一月甲第十二號布達劇場其他觀物場取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第三款 遊戲場取締規則

▲三重縣令第六十三號 (明治二十年六月廿九日)

遊戲場取締規則左ノ通相定ム

遊戲場取締規則

第一條 遊戲場トハ左ニ列記スルモノヲ云フ

- 一 室内射的場
- 一 大弓半弓楊弓場
- 一 借馬場
- 一 球突場

第二條 遊戲場營業ヲナサントスル者ハ其種類ヲ記シタル願書ニ通テ作リ營業場ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ警察署ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第三條 室内射的大弓借馬營業場ヲ新造若クハ改造セントスルキハ建築方法書ヲ添ヘ警察署ニ願出認可ヲ受ケ落成ノ上ハ更ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第四條 免許證ヲ遺失毀損シ又ハ改氏名其他免許證面ニ異動ヲ生シタルハ其事由ヲ具シ警察署ニ願出免許證ノ訂正若クハ再渡ヲ受クベシ

但廢業ノ節ハ直ニ其旨届出免許證ヲ返納スヘシ

第五條 營業ニ關スル願届ハ分署部内ノ者ハ其分署ヲ經テ差出スヘシ

第六條 左ノ雛形ノ看版ヲ製シ店頭ニ掲ク可シ

用材適宜 堅二尺五寸 横七寸

室内射的屋號

○又ハ何々 何ハ誰

第七條 室内射的及大弓營業者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

- 一 流丸流箭等ノ危険ヲ防ク爲メ堅牢ナル的阜(高壹丈以上巾一丈二尺以上兩袖長八尺以上)ヲ築造スルカ又ハ標的ノ背後及左右兩側トモ八分以上ノ厚板若クハ五寸以上ノ厚壁ニテ張立ツ可シ
- 二 射程距離ハ十間以内トシ發射ノ位置ヲ定メ限界ヲ設ケ安リニ人ノ進入ヲ禁スヘシ
- 三 射手彈藥ノ裝填弓箭ノ執用及照準發射ノ方法不慣ノ者ニハ射法等傳授ノ後ニアラサレハ發射セシムヘカラス
- 四 十歳未滿ノ幼者酩酊者瘋癲白痴ト認ムルモノハ場内ニ入ラシムヘカラス

第八條 借馬營業者ハ前條第四項及左ノ各項ヲ遵守スヘシ

- 一 馬場ノ周回ハ堅固ナル埒ヲ設クヘシ
- 二 馬場ハ凸凹ナキ様鏝平シ且時々清潔ニ掃除スヘシ
- 三 場外ニ於テ馬場類似ノ所業ヲナスヘカラス

但特ニ警察署又ハ分署ノ認可ヲ經タル場所ハ此限ニアラス

第九條 遊戯料ハ來客ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十條 賭博ニ類シ又ハ猥褻ニ涉ル所業ヲナシ又ハナサシムヘカラス

第十一條 通行人ニ遊戯ヲ勸メ又ハ來客ヲ宿セシメ若クハ酒肴ヲ出スヘカ

ラス

第十二條 楊弓場ニ於テ婦女ヲ雇入レタルトキハ其住所氏名年齢從前ノ被雇先ヲ記シ又雇解シタル時ハ其氏名ヲ記シ五日以内ニ警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

但通勤日雇等ニ係ルモノハ其約束及解雇ノ日ヨリ五日以内ニ本文ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 夜間ハ午后十二時限閉店スヘシ

第十四條 第二條第三條第四條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條

第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

一本則ハ明治二十年八月一日ヨリ施行ス

第四款 寄席取締規則

▲三重縣令第六十二號 (明治十年六月廿九日)

寄席取締規則

第一條 寄席ヲ新築若クハ改造セントスル時ハ其位置及建築方法書并近傍圖面ヲ添ヘ警察署分署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受ケ落成ノ上ハ更ニ届出檢査ヲ受クヘシ

但廢席或ハ賣買讓與シタルトキハ直ニ其旨届出ツヘシ

第二條 寄席ハ二ヶ所以上ノ出入口階梯窓扉ヲ設ケ棧敷ノ構造ヲ堅牢ニス

ハシ

第三條 寄席ノ興行ハ軍談講釋落噺人情噺淨瑠璃唱歌音曲噺物真似手品操人形猿狂言輕口俄等ノ類トス

第四條 興行チナサントスルキハ其前日迄ニ興行ノ種類(軍諸講釋等其名稱ヲ列記ス)藝人ノ姓名場所及期日日數ヲ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ但興行チ止メ又ハ日延若クハ休業スルトキハ直ニ其旨届出ヘシ

第五條 場内ニハ警察官吏ノ監臨席ヲ設クヘシ

第六條 興行中ハ場ノ内外ヲ問ハズ毎日清潔ニ掃除スヘキハ勿論便所ハ特ニ時々掃除ヲ爲シ防臭劑ヲ散布スヘシ

第七條 勸善懲惡ノ趣意ヲ失ヒ又ハ猥褻ノ所爲ヲナシ若クハ通行人ヘ對シ強テ入場ヲ勸ムヘカラス

第八條 興行ハ日出ヨリ午後第十二時ヲ限ルヘシ

第九條 一時小屋掛チナシ又ハ人家ヲ用ヒ興行チナサントスル者ハ第四條以下ノ各條ヲ遵守スルハ勿論危險ヲ防キ空氣ヲ通シ及火災ノ節出入ニ便ナラシムル様注意スヘシ

第十條 届書ニ相違セル興行チナシ又ハ猥褻ニ涉リ若クハ世安ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官吏ニ於テ一時興行ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 第一條第二條第四條第六條第八條ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑

ニ處セラルヘシ第五條第七條第九條ニ違ヒ命ニ從ハサル者亦同シ

附則

一本則ハ明治廿年八月一日ヨリ施行ス

第五款 劇場觀物場寄席等諸規則ニヨリ願書

受理後ノ手續

▲三重縣令第八百四十三號 (明治二十年七月十二日)

警察署

劇場觀物場取締規則寄席取締規則ニ依リ願書ヲ授受セハ劇場觀物場寄席及通路ノ廣狹等ニ應シ出入口階梯ノ構造宜キヲ得ルヤ棧敷花道場内通路窓扉等ハ危險ヲ防キ大氣ヲ通スルニ足ルヤ又其近傍人家ノ疎密距離河川溜池等ノ有無淺深等ニ依リ建築用材就中覆葺材料ノ防火上適否并ニ其位置ノ當否ヲモ檢査シ許否ノ意見ヲ附シ分署長ハ本署長ニ本署長ハ本部長ニ差出ヘシ

第六款 遊戯場營業願取扱手續

▲三重縣訓令第八百四十二號 (明治二十年七月十二日)

警察署

遊戯場營業願取扱手續左ノ通相定ム

遊戯場營業願取扱手續

- 第一條 遊戯場願書ヲ受クレハ速ニ調査ヲ加ヘ許否ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二條 分署ニ於テ該願書類ヲ受クレハ之ヲ調査シ不都合ナシト認ムルトキハ該書欄外右角ニ捺印シ意見アルトキハ詳細ニ添申スヘシ
- 第三條 營業者臺帳ヲ製シ種類ニ部門ヲ分テ記入シ主任認印スヘシ
- 第四條 種類毎ニ番號ヲ起記スヘシ其番號ハ數年通シテ之ヲ用ユヘシ但廢業ニテ欠番號ヲ生スルトキハ新規營業者アル毎ニ之ヲ補填スヘシ
- 第五條 營業免許證ハ免許ノ指令書ヲ以テ代用スヘシ
- 第六條 免許證ノ再渡ヲ申請スルトキハ再渡願書ニ免許ノ指令ヲ附シ其訂正ヲ申請スルトキハ朱書訂正シテ主任認印シ其事由年月日ヲ臺帳ニ記入スヘシ
- 但免許證ヲ返納セシトキハ臺帳ヲ更正スヘシ
- 第七條 免許證ヲ亡失シタル者アルトキハ速ニ其事由年月日等ヲ具シ該免許證ノ廢本一通ヲ添ヘ本部長ニ報告スヘシ
- 第七款 富又ハ賭博類似ノ所業差止
- ▲天甲第三十五號 (明治十一年三月十三日)
- 諸商職業ニ事寄セ富又ハ賭博等ニ類似ノ所業致者モ有之哉ニ相聞甚ニ不都合ニ付爾後右等不所業ノ者ハ相當處分ノ上該商職業ハ爲差止候條此旨布達

候事

第八款 鷄鬪

- ▲甲第六號 (明治十六年二月三日)
- 雞市ト唱ヘ雞ヲ持寄り互ニ鬪雞ヲ爲スヲ追々流行シ爲メニ産業ヲ怠リ風俗ヲ敗ル等種々ノ弊害有之ニ付右ノ所業自今禁止候條此旨布達候事
- 第九款 觀物ニ殘酷ノ所業ヲナスモノ取締方
- ▲警規第一十四號 (明治二十二年十一月二十日)

警察署 分署

近來神佛祭典等ノ際觀物興行ヲ爲ス者ノ中禽獸蛇蝎ノ類ヲ生存ノ儘斷截シ又ハ之ヲ噬嚼シ其他殘酷ノ所業ヲ爲シ衆庶ノ觀覽ニ供スル者有之右ハ風俗上最可厭モノニ付向後同様ノ技ヲ演セントスル者有之節ハ差止ムヘシ

第二章 貸坐敷及娼妓

- 第一款 愛知縣在籍ノ者ニシテ本縣ニ於テ營業セントスル者ノ出願ニ付
- ▲警第四百四十五號 (明治十八年十月十九日)

警察署

愛知縣在籍ノ者ニテ本縣下ニ來リ貸座敷又ハ娼妓營業ヲナサントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ於テ添翰致候等ニ付自今該添書ナキモノハ營業出願スルモ許可スヘカラス  
右相達候事

第二款 本縣下ノ者ニシテ福井縣ニ於テ營業

ヲナサントスル者ニ付

▲警第二十八號 (明治十六年六月一日)

郡役所

當縣下ノ者ニシテ福井管内ニ於テ貸座敷及藝娼妓營業ヲ爲サント欲スル者ハ本管郡役所ノ添翰ヲ以テ願出ヘク又同縣下ノ者ニシテ各府縣管内ニ於テ前同業ヲ營マント欲スルモノハ本管郡役所或ハ警察署ノ添翰ヲ請フヘク旨相達候趣同縣ヨリ申越候條該縣ノ者カ本縣下ニ於テ營業ヲ願出タルトキハ添翰ヲ証トシ許否シ本縣ノ者カ福井縣ニ於テ營業ヲスル者添翰ヲ請フトキハ相當處分スヘシ此旨相達候事

第三款 千葉縣在籍ノ者ニシテ他管下ニ於テ

貸座敷娼妓藝妓ヲ爲ントスル者ニ付

▲警第四十三號 (明治十六年六月二十一日)

郡役所

千葉縣下在籍ノ者ニシテ他管下ニ於テ貸座敷及藝娼妓營業ヲ爲サントスル者ハ本管郡役所ノ添翰ヲ以テ出願スヘキ旨管下ヘ告示ニ及ヒ置候旨該縣ヨリ通牒有之候條右添翰ヲ証トシ許否スヘシ此旨相達候事

第四款 本縣管内ノ者ニシテ他府縣下ニ於テ

娼妓渡世ヲ爲ントスル者ニ付

▲警第十四號 (明治十六年八月四日)

郡役所

本縣管内之者ニシテ他府縣下ニ於テ娼妓渡世致度趣ヲ以テ添翰之儀願出候者有之候トキハ其場所ニ於テ添翰付與候様可致此旨相達候事

第五款 娼妓貸坐敷賦金規則

▲三重縣令第一號 (明治二十三年一月二十四日)

娼妓貸座敷賦金規則左ノ通改正シ本年四月一日ヨリ施行ス

娼妓貸座敷賦金規則

第一條 娼妓貸座敷營業ノ場所ヲ四等ニ分テ其賦金ノ額ヲ定ムル左ノ如シ  
一等場所 一ヶ月 (金貳圓娼妓)(金三圓貸座敷)

桑名町 四日市町 津市 松阪町 宇治山田町 大守古市

二等場所 一ヶ月 (金壹圓五拾錢娼妓)(金貳圓五拾錢貸座敷)  
 長島村 石藥師村 一身田村 白子町 神戸町 關町  
 龜山町 荻野村 久居町 宇治山田町 (大字市ノ木、同大世古、同曾根)  
 上野町 鳥羽町大字鳥羽 名張町 尾鷲町大字中井  
 三等場所 一ヶ月 (金壹圓娼妓)(金貳圓貸座敷)  
 上野村 若松村 田丸町 神社町 濱島村大湊町 椋本村  
 引本村大字引本 的矢村大字的矢  
 四等場所 一ヶ月 (金七拾錢娼妓)(壹圓五拾錢貸座敷)  
 的矢村大字渡鹿野大字三ヶ所 安乘村 鵜倉村 鳥羽町大字小濱 尾鷲町大字天満 引本村大字須賀村 荒阪村  
 第二條 賦金ノ納期ハ其月ノ末日トス  
 但シ廢業スルモノハ其時々之レヲ收納スヘシ  
 第三條 新規營業者及ヒ廢業者ノ賦金ハ左ノ區分ニ依リ之レヲ收納スヘシ  
 其月十五日以前新規營業ニ係ルモノハ全月分廢業ニ係ルモノハ半月分ヲ收納スヘシ  
 其月十六日以后新規營業ニ係ルモノハ半月分廢業ニ係ルモノハ全月分ヲ收納スヘシ

第四條 娼妓及ヒ貸座敷營業者等級ニ差違アル場所へ移轉シタルトキ其月ノ賦金ハ納期現在ノ等級ニヨリ收納スヘシ  
 第五條 娼妓梅毒ニ罹リ入院スル者及其他ノ疾病(妊娠ヲ包含ス)ニ罹リ警察官ノ許可ヲ得テ外宿スル者其月十五日以上ニ及フトキハ半月分ノ賦金ヲ免除シ其全月ニ及ヒ若クハ入院外宿中廢業スルルハ全月分ノ賦金ヲ免除ス  
 水火風震等ノ災ニ罹リ家屋亡失毀壞スルカ又ハ亡失毀壞セザルモ實際營業ヲナシ能ハザル貸座敷及其災害ノ爲メ營業ヲ爲シ能ハザル娼妓ハ申立ニヨリ半月分若クハ全月分ノ賦金ヲ免除スルコトアルベシ  
 第六條 娼妓及ヒ貸座敷營業者ハ其場所毎ニ賦金取纏人ヲ撰定シ雙方連署ノ書面ヲ以テ其旨郡役所へ届出ツヘシ  
 但取纏人ヲ變換シタルルハ又ハ新規營業者アルルモ亦同シ  
 第七條 賦金ノ收納ハ郡市役所ヨリ各人ニ對スル納額告知書ヲ賦金取纏人ニ向テ發付スヘシ  
 第八條 賦金取纏人納額告知書ヲ受ケタルルハ之レヲ各納人ニ配付シ納期日迄ニ其納金ヲ取纏メ地方税金取扱所へ納付スヘシ  
 第九條 賦金收納期日ヲ過キ尙之レヲ納メサルモノハ鑑札ヲ取上ケ營業ヲ差止ムヘシ

第十條 前條ニ因リ營業差止メタル者及ヒ廢業ノ際賦金ヲ納メサルモノハ本縣管内ニ於テ二ヶ年間營業ヲ許サス

第六款 娼妓貸座敷取締規則

▲三重縣令第二十七號 (明治二十七年三月二十七日)

娼妓貸座敷取締規則左ノ通改定ス

娼妓貸座敷取締規則

第一章 通則

第一條 娼妓貸座敷ノ營業ハ別ニ指定スル土地ニ限り之ヲ免許ス但指定區域内ト雖モ場所ニ依リ貸座敷ノ新開業ヲ免許サセルコトアルヘシ

第二條 娼妓營業ヲナサントスル者ハ其實情ヲ詳記シ稼地ヲ記シタル願書ヲ作り父母(父母アラサルトキハ最近ノ親戚二名)及證人並ニ寄寓スベキ貸座敷主連署ノ上戸籍寫ヲ添ヘ警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 十六歲未滿ノ者ハ娼妓タルコトヲ得ス

第四條 貸座敷營業ヲナサントスル者ハ願書ニ住所族籍氏名年齢樓名屋號營業用ノ家屋番地ヲ記シ警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ  
第五條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ免許ヲ與ヘス

一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二 白痴瘋癲ノ者

三 幼者ヲ畧取誘拐及猥褻姦淫若クハ強盜竊盜詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者

四 公權剝奪停止中ノ者

第六條 左ノ各項ニ當ル者ハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ已ニ免許ヲ與ヘタル後ト雖モ其免許ヲ取消スコトアルヘシ

一 正當ノ事由ニ由リ組合ノ決議ヲ以テ組合ニ加入ヲ拒マレ又ハ組合ヲ除名セラレタル者

二 取締規則又ハ組合規約ニ違ヒ再三處分ヲ受ケ將來改悛ノ狀ナキ者

第七條 營業者ノ開廢轉居改氏名ニ關スル願書ハ取締人ノ加印ヲ受ケ差出スヘシ

第八條 甲警察署分署所轄管内ヨリ乙警察署分署所轄内ニ移轉セントスル者ハ鑑札ヲ添ヘ其旨甲署ニ届出添書ヲ受ケ乙署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第九條 營業ノ場所家屋ヲ變換シテ營業セントスル時ハ其事由ヲ記シ鑑札ヲ添ヘ警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受クヘシ其他亡失毀損シ又ハ改名等ニテ鑑札面ニ異動ヲ生シタル時ハ同署ニ願出鑑札ノ訂正若クハ再渡ヲ受



ケ廢業ノ節ハ届出鑑札返納スヘシ

但娼妓ノ寄寓所ヲ變換スル願書ニハ雙方ノ貸座敷主又廢業届ニハ證人及貸座敷主連署ヲ要ス

第十條 貸座敷ハ鑑札ニ記載スル家屋娼妓ハ鑑札ニ記載スル營業地ノ貸座敷又ハ港灣ニアラサレハ營業スルヲ許サス

第十一條 遊客ニ關シ取締上警察官吏ノ尋問ヲ要スル件ハ別段ノ命令ニ依リ娼妓ニ在テハ貸座敷主ニ貸座敷ニ在テハ警察官吏ニ申告スヘシ

第二章 娼妓

第十二條 免許鑑札ヲ受ケタル時ハ身体ノ検査ヲ受クヘシ

検査未済ノ者ハ營業スルヲ許サス

第十三條 娼妓ハ平常貸座敷内ニ寄寓スヘシ

但港灣稼ノ者ニ限り其地ニ自宅ヲ有スル者ハ特ニ自宅居住ヲ許スコトアルヘシ

第十四條 鑑札ハ他人ニ貸與若クハ預置クヘカラス

第十五條 梅毒外ノ疾病ニ罹リ寓居ノ貸座敷ニ於テ治療シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ且醫師ノ診斷書ヲ添ヘ貸座敷主連署シ警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第十六條 娼妓妊娠シタル時ハ六ヶ月目ニ至リ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ休業ヲ

届出ヘシ

但分娩後六十日ヲ經過スルニアラサレハ營業スルヲ得ス

第十七條 娼妓ハ梅毒検査及親屬ノ吉凶ニ關シ又ハ看病墓參若クハ官署ニ出頭スルモノ、外免許區域外ニ出ルコトヲ得ス

但本條ノ場合ト雖モ免許區域外ニ出ル時ハ必ス貸座敷主ヲ經テ取締人ノ承認證ヲ受クヘシ

第十八條 前條ノ外特別ノ事情アリテ免許區域外ニ出ントスル時ハ其事由ヲ詳記シ貸座敷主ト連署シ取締人ヲ經テ警察署又ハ分署ニ願出認可ヲ受クヘシ

第十九條 娼妓ハ言語動作ヲ以テ往來人ニ遊興ヲ勸ムヘカラス

第二十條 貸座敷主ニ於テ規則第二十四條ノ所爲アルトキハ娼妓ハ口頭又ハ書面ヲ以テ警察官吏ニ訴出ルコトヲ得ヘシ

第三章 貸座敷

第二十一條 警察署又ハ分署ヨリ指定スル書式帳簿ヲ製シ遊客ノ住所姓名年齢ヲ記シ一ヶ年間保存スヘシ

第二十二條 貸座敷ニ寄寓セシムル娼妓ハ其地ニ於テ營業免許ヲ受ケタル者ニ限ルヘシ

第二十三條 遊客ノ需メナキ飲食物又ハ藝妓等ヲ強ユヘカラス

- 第二十四條 貸座敷主ハ娼妓ニ對シ不當ノ失費ヲ強ヒ又ハ當然ノ理由ナクシテ轉寓又ハ廢業ヲ故障シ苛酷ノ取扱ヲナスヘカラス
- 第二十五條 娼妓ノ遵守スヘキ規則ハ常ニ教示スヘシ若シ規則ニ背キ又ハ規約ニ違フモノアルトキハ警察署又ハ分署ノ指揮ヲ請フヘシ濫リニ矯正ノ處置ヲナスヘカラス
- 第二十六條 娼妓若シ疾病アラハ速ニ治療ヲ加ヘシメ微毒其他傳染病ニ罹リタルトキハ相當ノ手續ヲナシ遊客ノ招キニ應セシムヘカラス
- 第二十七條 第十六條ノ場合ニ於テハ娼妓ニ營業ヲナサシムヘカラス
- 第二十八條 何人ニ限ラス要用アリテ遊客ノ姓名等ヲ尋問シ又ハ面會セントスル者アル時ハ速ニ之ヲ指示シ若クハ面會セシムルノ手續ヲナスヘシ
- 第二十九條 遊客ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫リニ客室ニ立入ラシムヘカラス
- 第三十條 遊興費又ハ其抵當トシテ遊客ノ衣類物品ヲ受領スヘカラス若シ止テ得サル場合ニ於テハ警察官吏ニ届出其承認ヲ受クヘシ
- 第三十一條 無錢遊興ヲ名トシテ遊客ヲ抑留スヘカラス  
但遊客ニ於テ不法ノ所爲アル時ハ直ニ警察官吏ニ訴出ルコトヲ得ヘシ
- 第三十二條 娼妓ニ見世ヲ張ラセ若クハ軒前ニ出シ往來人ニ遊興ヲ勸ムルコトヲ得ス

- 第三十三條 雇人ヲ店頭ニ出シテ往來人ニ遊興ヲ勸メ又ハ車夫其他ノ者ト謀テ客ヲ誘引スル等ノ所爲アルヘカラス
- 第三十四條 何等ノ方法名義ヲ以テスルニ拘ハラズ遊興ヲ勸ムルノ意アル廣告引札等ヲ爲スヘカラス
- 第三十五條 婦女又ハ十六歳未滿ノ男子ハ遊興セシムヘカラス
- 第三十六條 娼妓ノ免許鑑札ハ貸座敷主ニ於テ預リ置クヘカラス
- 第三十七條 娼妓轉寓廢業又ハ他出セントスル者アル時ハ正當ノ理由ナクシテ故障スヘカラス
- 第三十八條 娼妓ハ第十七條及第十八條ニ掲ケタル場合ヲ除クノ外免許區外ニ出スヘカラス
- 第三十九條 寓居ノ娼妓逃亡失踪シ又ハ立歸リタル時ハ貸座敷主ヨリ速ニ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第四十條 同一ノ貸座敷主ニシテ家屋ヲ異ニシ營業セントスル時ハ各別ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第四十一條 貸座敷營業者ハ宿屋ヲ兼業スルヲ許サス  
但家屋ヲ異ニスルモノハ此限ニアラス
- 第四十二條 便所其他汚物ノ溜場ハ客室公道ニ最モ隔リタル場所ニ設ケ且ツ汚物ノ地中ニ浸透セサル様堅固ノ物質ヲ以テ構造シ日々清潔ニ掃除ス

ヘシ

但夏季ニハ防臭劑ヲ散布スヘシ

第四十三條 遊客ノ遺留品ハ速ニ通知若クハ送り届クヘシ若シ其主分明ナラサルモノハ直ニ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第四章 微毒検査

第四十四條 微毒トハ眞症假症ノ微毒ハ勿論近似雜症及疥癬等ヲ汎稱ス

第四十五條 娼妓ハ檢査期日定時ノ檢査ヲ受クベキ場所ニ出頭シ身体ノ檢査ヲ受クベシ若シ其期日ニ不參遲參シ檢査ヲ受ケサル者ハ臨時檢査ヲ經ルニアラサレハ營業スルヲ得ス

第四十六條 檢査期日ニ至ラスト雖モ微毒ヲ發シ又ハ其疑ヒアルモノハ臨時檢査ヲ受クヘシ

第四十七條 第十六條ニ掲ケタル場合及微毒外ノ疾病ニ罹リ又ハ妊娠出産ニ依リ歩行スルヲ得サル者ノ外ハ期日ニ不參シ又ハ遲參スルヲ得ス

第四十八條 不參又ハ遲參ノ娼妓ハ其事由ヲ詳記シ貸座敷主ト連署シ出頭時間迄ニ檢査所ニ届出ヘシ若シ本人ニ於テ其届ヲナサ、ル時ハ貸座敷主ヨリ届出ヘシ

第四十九條 前條不參ノ事由疾病ニ關スル時ハ醫師ノ診斷書(體質原由病名症候經過豫後處方ヲ詳記ス)ヲ添フヘシ若シ診斷書ヲ求ムル暇ナキ場

合ハ其事由ヲ詳細届置キ後速ニ其手續ヲナスヘシ

第五十條 次回ノ期ニ不參遲參シ檢査ヲ受ケサル者ハ第四十八條第四十九條ノ手續ニ依リ届出ヘシ其三回以上ニ渉ルモノ亦同様タルヘシ

第五十一條 微毒檢査所及檢査期日時限ハ警察署又ハ分署ヨリ指示ス

第五十二條 入院ヲ命セラレタル娼妓ハ其命セラレタル日時ニ入院スヘシ入院中ハ總テ院内ノ規則ニ從フヘシ

第五章 營業組合

第五十三條 營業者ハ營業上ノ協同一致ヲ計ルタメ警察署ノ指定スル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第五十四條 組合ハ組合規約ヲ定メ警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ其規約ヲ變更セントスル時亦同シ

第五十五條 組合ニハ取締役人正副各一名ヲ置キ取締所ヲ設ケ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ其變更シタル時亦同シ

但シ組合ノ便宜ニ依リ副取締ヲ置カサルコトヲ得

第五十六條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人タルコトヲ得ス  
一 年齢二十五歳以上ノ者

二 組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者

三 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

第五十七條 取締人ハ營業ニ關スル諸規則命令ニ從ヒ組合營業者ノ取締ヲ爲スヘシ

第五十八條 營業者ハ其地ノ組合ニ加入スヘシ組合ニ加入セサル者ハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ

第六十條 組合規約中ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

但違約者ノ處分ハ違約金停業除名ノ三種トナスヘシ

一 取締人ノ任期及撰舉方法

一 組合費用ノ收支方法

一 違約者處分方法

一 右ノ外營業上必要ノ事項

第六十一條 組合ノ決議ニ依リ同業者ノ組合加入ヲ拒ミ又ハ規約ニ依リ處

分シタルモノアル時ハ其事由及氏名ヲ警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出

ツヘシ

前項ノ決議若クハ處分ニシテ正當ナラスト認ムルトキハ取消ヲ命スルコ

トアルヘシ

第六十二條 各地組合ノ便宜ニ依リ數組合ノ聯合組合ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 前條聯合組合ヲ設ケントスルハ聯合組合ノ名稱規約及總取

締人正副各一名ヲ定メ警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 罰則

第六十四條 第四條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第

十八條第十九條第二十一條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條

第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十

三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條

第四十一條第四十二條第四十三條第四十五條第四十六條第四十八條第四

十九條第五十條第五十二條第五十九條ニ違背シタル者ハ一日以上十日以

下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

一 本則ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

二 貸座敷營業者ニシテ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ此際出願ニ及ハ

ス

但娼妓ハ本則施行期日ニ於テ從前免許ノ効ヲ失ハサルモノ亦同シ

第七款 娼妓貸座敷營業ヲ許スヘキ場所

▲三重縣令第二十八號 (明治二十七年三月二十七日)

娼妓貸座敷取締規則第一條ニ依リ娼妓貸座敷營業ヲ許スヘキ場所左ノ通指

定ス

娼妓貸座敷營業ヲ許スヘキ場所

郡市名	區域及其町村浦並港灣名	同	同
桑名郡	桑名町 / 内大字 船馬町、本町、川口町、江戶町、舟町、片町	長島村 / 内字中町下町	
三重郡	四日市町 / 内大字 北町、南町	四日市町 / 内大字高砂町	菰野村
鈴鹿郡	龜山町 / 内大字東町	關町 / 内大字中町	石藥師村
奄藝郡	白子町 / 内大字江島 一身田村	棕本村	上野村
河曲郡	神戸町 / 内大字常磐町	神戸町 / 内大字十日市町	若松村 / 内大字南若松
津市	津市 / 内大字贊崎町	津市 / 内大字藤枝町	
一志郡	久居町 / 内大字旅籠町		
飯高郡	松坂町 / 内大字愛宕町	松坂町 / 内大字川井町	
	宇治山田 / 内字北町 / 一ノ木町 / 内字北町		

度會郡	菅志郡	英虞郡	北牟婁郡	南牟婁郡	阿拜郡	名張郡
町 / 内大字 大世古町 / 内字新道 / 内字新町 / 内字新町	鳥羽町 / 内大字 小濱及其港 / 鳥羽 / 内字本町大里町 / 鳥羽港	濱島村大字濱島及其港	引本村 / 内大字引本浦及其港	荒阪村 / 内大字二木島浦及其港	上野町 / 内大字桑町	名張町 / 内字八町
宇治山田町 / 内大字右	的矢村 / 内大字的矢及其港	安乘村及其港	屏鷺町 / 内大字天溝浦及其港		上野町 / 内大字出端町	
神社町 / 内大字神社及其港	的矢村 / 内大字的矢及其港		引本村 / 内大字須賀利浦及其港			
田丸町 / 内大字田丸 / 内字勝田町						

第八款 娼妓紹介人取締規則

▲三重縣令第二十九號 (明治二十七年三月二十七日)

娼妓紹介人取締規則左ノ通相定ム

娼妓紹介人取締規則

- 第一條 娼妓紹介人トハ娼妓タラントスル者ト貸座敷主トノ間ヲ紹介スル者ヲ云フ
- 第二條 紹介人タラントスル者ハ警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受クヘシ但廢業シタトキハ五日以内ニ免許證ヲ返納スヘシ
- 第三條 紹介人ハ貸座敷免許區域内ニ住居スルモノニ限リ一免許區ニ三名以内之ヲ許ス
- 第四條 左ノ各項ニ觸ル者ハ紹介人タル免許ヲ與ヘス已ニ免許ヲ與ヘタル後ト雖モ其免許ヲ取消スコトアルヘシ
  - 一 女子又ハ二十五年以下ノ男子
  - 二 白痴瘋癲者
  - 三 強盜盜詐欺取財賍物ニ關スル罪又ハ幼者ヲ畧取誘拐スル罪ヲ犯シタル者
  - 四 公權剝奪及停止中ノ者
  - 五 資産若クハ性質品行ノ良否ニヨリ不適當ト認ムル者

第五條 紹介人他ノ警察署又ハ分署所轄ノ免許地ニ轉居シテ營業セントス

ルトキハ舊營業地ノ警察署又ハ分署へ廢業ヲ届出テ更ニ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受クヘシ

但同一警察署又ハ分署管内ニ於テ轉住若クハ氏名ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ

第六條 紹介人ハ其家族若クハ雇人ヲシテ紹介ノ業務ヲ補助セシメントスル時ハ其本籍氏名年齢ヲ詳記シ警察署又ハ分署へ届出認可ヲ受クヘシ

第七條 紹介人ハ娼妓營業ヲ爲サントスル者ニ對シ直接本籍住所氏名年齢及娼妓ヲ爲スノ事由ヲ聞糺シ己ムヲ得サル者ト認ムル者ニ限リ紹介スヘシ

第八條 紹介人ハ娼妓タラントスルモノヲ養女ト爲シ又ハ寄寓セシムルコトヲ得ス

第九條 紹介人ハ直接間接ヲ問ハス娼妓タラントコトヲ勸誘スヘカラス

第十條 紹介人ハ其紹介ヲ爲シタルモノ、娼妓營業願書へ連署スヘシ

第十一條 紹介料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ紹介ノ事ニ依リ金品ヲ收受シ又ハ請求スルコトヲ得ス

第十二條 紹介手数料ノ額ヲ定メ警察署又ハ分署へ届出認可ヲ受クヘシ

第十三條 紹介人ハ紹介名簿ヲ作り紹介ヲナシタル都度貸座敷主及本人并

ニ其父兄等ノ住所氏名身分年齢紹介料ヲ詳記スヘシ  
 第十四條 紹介人ニ於テ組合ヲ設ケントスルトキハ組合規約ヲ定メ警察署  
 又ハ分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ  
 第十五條 第二條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シタル者及第  
 十三條ノ記載ヲ怠リ若クハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ三日以上十日以下  
 ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

一本則ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第九款 娼妓貸坐敷取締規則取扱手續

▲三重縣訓令甲第十九號 (明治二十七年三月二十七日)

警察署  
警察分署

娼妓貸座敷取締規則取扱手續左ノ通相定ム

娼妓貸座敷取締規則取扱手續

第一條 娼妓貸座敷營業願書ヲ受領シタルトキハ速ニ許否ノ手續ヲナスヘシ

但規則第六條ニ依リ免許ヲ與ヘス又ハ免許ヲ取消サントスルトキハ事由ヲ具シ指揮ヲ待ツテ處分スヘシ

第二條 規則第二條ノ娼妓營業願ニシテ左ノ各項ニ該當スルモノハ免許ヲ與フヘカラス

- 一出願ニ際シ故ラニ養女又ハ同居ノ名義ヲ假託シタル者
  - 一妊娠六ヶ月以上ノ者又ハ分娩後六十日ヲ經過セサル者
  - 一貸座敷ノ女子ニシテ自宅ニ於テ營業セントスル者
  - 一一家ノ生計困難ヲ支持スル爲メニアラサル者
  - 一誘拐等ニ罹リ其意ニアラスシテ出願スル者
- 第三條 營業者臺帳ヲ製シ免許地及種類毎ニ部門ヲ分ツテ記入スヘシ
- 第四條 鑑札ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ

厚紙 横二寸五分

縦三寸五分

第何號 何國郡市町村何番地(樓名) (屋號)何ノ誰方寄留	娼妓 何ノ誰	裏 三重縣某署印
當何月何年何月 何郡町村(何々港)稼	娼妓ノ一 例ヲ示ス ノミ	明治何年月日

第五條 鑑札ヲ與フルモノニハ指令書ヲ交付セズ

第六條 規則第十一條ノ命令ハ概子左ノ標準ニ依ルヘシ

一 遊客ノ所業不審ナルヲ見聞セシトキ

一 遊客ヨリ金錢物品ヲ預リ若クハ貰受ケタルトキ

一 遊客ノ内豫テ示シタル人相ニ符合シ若クハ類似スルトキ

一 身分不相應ノ金錢物品ヲ所持シ若クハ金錢ヲ濫費シタルトキ

一 遊客六種傳染病若クハ變死ニ罹リ又ハ其所有品紛失シタルトキ

一 遊客暴行不法ノ所爲アルトキ

第七條 規則第五十三條ノ組合區域ハ成ルヘク一免許地トナスヘシ

第八條 規則第五十四條ノ規約ヲ受ケタルトキハ左ノ名項ヲ調査シ意見ヲ

付シ進達スヘシ

一 組合同約成立ニ付營業者間ニ苦情ナキヤ

一 組合ニ關スル費用ノ賦課公平ナリヤ

一 組合違約金過重ナラサルヤ

第九條 規則第五十五條ノ届ヲ受ケタルトキハ寫ヲ以テ警部長ニ報告スヘシ

シ

第十條 規則第六十一條ノ届ヲ受ケタルトキ正當ナラスト認ムルモノハ詳

細ノ意見ヲ附シ進達スヘシ

但違約金處分ノ届書ハ正當ナラスト認ムルモノ、外其畧ニ留置キ進達

スルニ及ハス

第十一條 規則第六十三條ノ届ヲ受ケタルトキハ總取締人ノ身元並ニ同業者間ノ信否如何等ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ

### 第三章 驅黴

#### 第一款 黴毒病院費出納順序

▲三重縣訓令甲第百十七號 (明治二十三年十二月十九日)

三重朝明度會阿拜山田北牟婁郡役所

黴毒病院四日市上野山田尾鷲警察署

明治廿二年三月訓令第四十號黴毒病院費取扱手續左ノ通り改正ス

#### 黴毒病院費出納順序

第一條 黴毒病院費及ヒ之ニ屬スル雜收入ハ郡役所(黴毒病院所在地ノ郡役所以下皆同シ)ニ於テ出納ヲ執行スルモノトス

第二條 黴毒病院費ハ毎月概算ヲ以テ縣廳ヨリ郡役所ヘ交付スヘシ黴毒病院ニ於テ費金ノ仕拂ヲ要スルトキハ其都度正當受取人ノ請求書若クハ精算書ヲ調査シ受取人ノ住所姓名及金員事由ヲ詳記シ郡役所ヘ請求スヘシ  
第三條 郡役所ニ於テ費金ノ交付ヲ受ケタルトキハ臨時寄托ヘ收入シ仕拂請求ヲ受クル都度之ヲ支出シ領收證(領收證ヲ得難キモノハ仕拂證明書



ヲ以テ之ニ換フ)ヲ徵シ一ヶ月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ徵毒病院へ送付スヘシ

第四條 徵毒病院ニ於テハ一ヶ月毎ニ其支出ヲ要セシ金員科目ヲ摘載シタル計書ヲ製シ之ニ前條ノ領收証(内譯ヲ要スルモノハ仕譯証又ハ精算書ヲ添付ス)ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ縣廳へ進達スヘシ

第五條 徵毒病院費ニ屬スル雜收入ハ其收入スヘキ事由及金額并ニ住所姓名ヲ詳記シ郡役所へ通報スヘシ郡役所ニ於テハ該通報書ニヨリ地方稅雜收入收納規則ニ從ヒ之レガ收納ヲ了スヘシ

第六條 徵毒病院ニ於テハ毎年六月三十日迄ニ前年度雜收入精算書(明治廿九年九月訓令第一千二百十九號書式ニヨル)ヲ調製シ縣廳へ進達スヘシ

第七條 徵毒病院ニ於テハ各年度毎ニ左ノ簿冊ヲ設備スヘシ若シ之レヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ具シ縣廳へ伺出ツヘシ  
某年度金錢受拂簿 (書式從前ノ通)

本簿ハ徵毒病院并ニ雜收入等收支ヲ要スルモノニシテ經費ハ各科目ニ口別シ豫算額ヲ元ノ部ニ記入シ其支出ヲ要スル金額ハ拂ノ部ニ記入シ差引殘高ヲ殘ノ部ニ記入スヘシ又雜收入ハ郡役所へ通報書ニヨリ記入シ常ニ豫算殘高若クハ收入金ヲ明瞭ナラシムルモノトス  
第八條 前條ニ揚ルモノ、外ハ一般ノ規定ニヨル

第二款 徵毒檢查手續

▲三重縣訓令甲第百十七號 (明治廿三年十二月十九日)

梅毒檢查所々在地	郡	役	所
全	上	警	署
全	上	分	署
			徵毒病院

徵毒檢查手續左ノ通相定ム

徵毒檢查手續

第一條 娼妓檢徵ハ毎月四回トシ其期日ハ警察署長又ハ分署長ニ於テ適宜量定シ之ヲ營業者ニ指定スベシ

但祭祝日ニ該當スルハ順延スルモ妨ケナシ

第二條 帶徵娼妓ニ入院ヲ命スヘキ徵毒病院所轄區域左ノ如シ  
四日市徵毒病院

- 桑名郡 桑名町 長島町
- 三重郡 四日市町 菟野村
- 河曲郡 神戸町
- 鈴鹿郡 石藥師村
- 津徵毒病院

河出郡 若松村  
 奄藝郡 白子町 上野村 棕本村 一身田村  
 鈴鹿郡 龜山町 關町  
 津市  
 一志郡 久居町  
 飯高郡 松坂町  
 宇治山田徵毒病院  
 度會郡 宇治山田町 神社町 大湊町 鵜倉村  
 荅志郡 鳥羽町 的矢村 安乘村  
 英虞郡 濱島村  
 尾鷲徵毒病院  
 北牟婁郡 尾鷲町 引本村  
 南牟婁郡 荒坂村  
 上野徵毒病院  
 阿拜郡 上野町  
 名張郡 名張町  
 第三條 娼妓ニハ徵毒検査票第二號雛形(別冊)ヲ豫メ渡シ置キ檢徵期日ニ携帶シ檢徵醫ニ差出シ検査了ル毎ニ醫員ノ認印ヲ受ケシムヘシ

但検査票ヲ渡シタル后移住改姓名等異動ヲ生シタルトキハ出張ノ檢徵醫又ハ世話掛ヲシテ訂正セシムヘシ  
 第四條 娼妓入院又ハ全治退院ヲ命セラレタルトキハ貸座敷主ヨリ入院退院ノ月日稼地氏名年齢及鑑札番號等ヲ明記シ其旨警察署ニ届出シムヘシ  
 第五條 檢徵ノ際ハ檢徵醫世話掛及付添婦人ノ外濫リニ室内ニ入ルヲ禁スヘシ  
 第六條 免許地貸座敷主(貸座敷アラサル地ハ娼妓)ニ檢徵世話掛ヲ撰舉セシメ檢査所ニ出張シテ檢徵醫ノ指示ニ從ヒ檢徵ニ關スル一切ノ世話ヲナサシムヘシ  
 但手當ヲ給スルト否トハ同業者ノ協議ニ任スヘシ  
 第七條 徵毒檢査ハ檢徵醫ニ於テ執行セシムルニ付期日出張セシムヘシ  
 第八條 檢徵醫ニハ娼妓人名簿ヲ製シ出張ノ都度對査シテ遺漏ナカラシムヘシ  
 但有毒ニシテ入院ノモノハ名簿ニ附箋ヲ爲シ退院ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ剝取ラシムヘシ  
 第九條 警察署ニ於テハ新ニ娼妓營業若クハ廢業等ニテ異動ヲ生シタルトキハ其人名及鑑札番號營業地名等ヲ檢徵醫ニ通知シ名簿ヲ訂正セシムヘシ

第十條 檢徽ハ檢徽室ニ於テ身体ノ下部ノミナラス其全身ヲ精密ニ檢査セシムベシ

第十一條 前條檢査ニ於テ無毒ノモノハ受檢者携帶ノ檢査票ニ認印ヲ捺シ有毒ノ者ハ入院印及認印ヲ捺シ期日ヲ指定シテ入院ヲ命セシムヘシ

第十二條 檢徽醫ニ於テ有毒者ニ入院ヲ命シタルトキハ其娼妓ノ稼地姓名病名症候入院ヲ命シタル月日時ヲ記シタル書面ヲ作り速ニ所屬病院ニ通知セシムヘシ

第十三條 有毒者ハ即日入院ヲ命セシムヘシ  
但道路懸隔即日入院シカタキ場所ニ限り八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルヲ得

第十四條 檢徽病院ニ入院ヲ命スル病症左ノ如シ  
但檢徽醫ニ於テ雜症中全ク傳染ノ虞ナシト確認スルモノハ此限ニアラス

- 一 眞症檢毒
- 局發症 硬性下疳 汎發症 蕁麻疹 錢苔癬 鱗屑斑
- 以上斑狀檢毒
- 粟粒疹 扁豆疹 滋疹 扁平贅肉
- 以上疹狀檢毒

水泡 小膿泡 大膿泡

以上泡狀檢毒

水脈腺硬腫 檢毒腺腫 虹彩炎 骨膜炎

以上微狀炎症

一 假症檢毒

局發症 軟性下疳 便毒

一 雜症

痲疾 白帶下及腔炎 子宮口潰瘍 剝脫痔疾

一 疥癬

第十五條 期日不參ノ娼妓アルトキハ不參及遲參ノ事由ヲ詳記シタル届書ヲ領シ警察署ニ差出サシムベシ

第十六條 前條ノ場合ニ於テハ時宜ニ依リ本人所在ノ家宅ニ就キ檢徽セシムルヲ得ベシ

第十七條 檢毒檢査所ハ左ニ掲記スル場所ニ限り檢査所々轄區域内同業者協議ノ上申請セシメ檢査所ニ適當ノ準備ヲナサシメタル上指示シ其旨縣廳ニ報告スヘシ

郡 市 名

檢徽所ヲ設クヘキ場所

同上 附屬地

南牟婁郡	北牟婁郡		英虞郡	荅志郡		度會郡			飯高郡	一志郡		
荒坂村	引本村	尾鷲町	濱島村	的矢村大字渡鹿野	的矢村大字の矢	鳥羽町	田丸町	鵜倉村	大神湊町	宇治山田町	松坂町	久居町
荒坂村	引本村	尾鷲町	濱島村	安の矢村大字渡鹿野	三の矢村大字の矢	鳥羽町	田丸町	鵜倉村	大神湊町	宇治山田町	松坂町	久居町

五百九十一

津市	鈴鹿郡	河奄曲藝郡					三重郡	桑名郡				
津市	龜山町	關町	石藥師村	棕本村	一身田村	上野村	若松村	神戶町	菰野村	四日市町	長島村	桑名町
津市	龜山町	關町	石藥師村	棕本村	一身田村	上野村	白若子松村	神戶町	菰野村	四日市町	長島村	桑名町

五百九十

阿	拜	郡	上	野	町	上	野	町
名	張	郡	名	張	町	名	張	町

第十八條 臨時徵毒検査所ハ豫メ警察署ニ於テ便宜指定シ縣廳及検査所々屬警察署ニ報告スヘシ

附則

一本則ハ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス  
 一明治二十年七月十五日警規第二十八號警規第二十九號ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

第三款 徵毒病院處務細則

▲三重縣訓令甲第百十八號 (明治二十三年十二月十九日)

徵毒病院處務細則左ノ通相定ム  
 徵毒病院所在地 警 察 署

徵毒病院處務細則

- 第一條 梅毒病院ハ部内帶梅毒娼妓ヲ診療スル所トス
- 第二條 梅毒病院ニ左之職員ヲ置ク  
 院長 一人  
 醫 員 若干人 (但シ上野尾鷲梅毒病院ニハ醫員ヲ置カス)

取 締 若干人

調劑生 若干人 (但シ上野尾鷲梅毒病院ニハ調劑生ヲ置カス)

看護人 若干人

第三條 院長ハ知事ノ命ヲ受ケテ院務ヲ幹理シ職員ヲ指揮監督ス

第四條 院長ハ職員出勤簿ヲ整理シ勤惰ヲ勘査シ其功過ヲ知事ニ具狀ス

第五條 院長ハ院務上ニ係ル諸申牒ニ署名スヘシ且職員一身上ニ係ル願伺届書ニ捺印シ意見アレハ添申ス

第六條 院長ハ取締以下ニ除服出仕ヲ命シ其旨知事ニ開申ス

第七條 院長ハ院內取締細目ヲ規定シ知事ノ裁決ヲ得テ之ヲ施行ス

第八條 院長ハ毎年末別紙第一二三號ノ表ヲ調製シ翌年一月十五日迄ニ差出スヘシ

第九條 院長ハ入院患者ノ名簿ヲ備置キ其住所姓名年齢并ニ出入院ノ年月日ヲ詳記スヘシ

第十條 院長ハ院務上ニ付意見アルトキハ之ヲ知事ニ開申ス

第十一條 醫員ハ院長ヲ補助シ其不在ノ時ハ院務ヲ代理ス

第十二條 取締及調劑生看護ハ院長ノ命ニ從ヒ院內取締藥劑看護其他ノ諸務ニ服ス

第十三條 梅毒病院(津ヲ除ク)ヨリ縣廳ニ差出ス諸申牒ハ總テ警察署ヲ經

由スヘシ  
第十四條 梅毒病院ハ津ハ警察部長其他ハ病院所在地警察署長ノ監督ヲ受  
クルモノトス

附則

一本則ハ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス  
一明治十九年(十二月廿七日)警規第五十一號明治二十年(三月廿九日)警規  
第十四號ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス  
(別紙)

第一號表

明治何年 自一月 何々梅毒病院患者表  
至十二月

眞		病		舊	患	者	新	患	者	合	計	轉	歸	療	治
		局發症	名												
梅毒狀	班狀	硬	性	廿年	廿五年	卅年	卅年	卅年	卅年	計 <td>瘡</td> <td>治</td> <td>未</td> <td>半</td> <td>日 </td>	瘡	治	未	半	日
錢苔癬	梅毒	瘡	下	以下	以下	以下	以下	以下	以下	計 <td>瘡</td> <td>治</td> <td>未</td> <td>半</td> <td>日 </td>	瘡	治	未	半	日
錢苔癬	梅毒	瘡	下	以下	以下	以下	以下	以下	以下	計 <td>瘡</td> <td>治</td> <td>未</td> <td>半</td> <td>日 </td>	瘡	治	未	半	日
錢苔癬	梅毒	瘡	下	以下	以下	以下	以下	以下	以下	計 <td>瘡</td> <td>治</td> <td>未</td> <td>半</td> <td>日 </td>	瘡	治	未	半	日
錢苔癬	梅毒	瘡	下	以下	以下	以下	以下	以下	以下	計 <td>瘡</td> <td>治</td> <td>未</td> <td>半</td> <td>日 </td>	瘡	治	未	半	日
錢苔癬	梅毒	瘡	下	以下	以下	以下	以下	以下	以下	計 <td>瘡</td> <td>治</td> <td>未</td> <td>半</td> <td>日 </td>	瘡	治	未	半	日
錢苔癬	梅毒	瘡	下	以下	以下	以下	以下	以下	以下	計 <td>瘡</td> <td>治</td> <td>未</td> <td>半</td> <td>日 </td>	瘡	治	未	半	日
錢苔癬	梅毒	瘡	下	以下	以下	以下	以下	以下	以下	計 <td>瘡</td> <td>治</td> <td>未</td> <td>半</td> <td>日 </td>	瘡	治	未	半	日
錢苔癬	梅毒	瘡	下	以下	以下	以下	以下	以下	以下	計 <td>瘡</td> <td>治</td> <td>未</td> <td>半</td> <td>日 </td>	瘡	治	未	半	日

性											
性		性		性		性		性		性	
梅毒狀		梅毒狀		梅毒狀		梅毒狀		梅毒狀		梅毒狀	
骨膜炎	虹彩炎	腫毒腺	硬腫	小脈腺	梅毒瘡	狼瘡樣	潰爛梅毒	大膿泡	水泡	平贅肉	淋疹



二併發病毒病名ヲ説明スルモノトス  
(第三號表)

明治何年梅毒病院表

病院名	所在地	設立年月日	病院種別	病室坪數	院長氏名	患者數	醫員數	藥局員數	看病人數
									男 女

(備考)

- 一 病院建築種別ハ木造平家木造二階家煉瓦造平屋煉瓦造二階屋ノ別ヲ掲ケ病院坪數ハ病院總建坪病室坪數ハ病室ノ總坪數ハ病室ノ總坪數ヲ記入スルモノトス
- 一 職員看病人ハ年末ノ現員ヲ記入スルモノトス
- 一 患者ハ本年(自一月至十二月)間延人員(毎日ノ現人員ヲ積算シタルモノ)ヲ掲クルモノトス

第四款 梅毒検査第四條届出ニ付

▲警訓第十五號 (明治二十七年四月二十日)

明治二十三年本縣訓令甲第百十七號梅毒検査手續第四條ノ届出ヲ受ケタル

時ハ該娼妓入退院ノ月日氏名鑑札番號等ヲ詳記シ速ニ該娼妓營業地所轄郡市役所へ通報スヘシ  
右娼妓營業地アル警察署分署ニ訓示ス

第五款 梅毒患者在院數報告表

▲三重縣訓令乙第四百四號 (明治二十七年七月二十七日)

梅毒病院

梅毒患者在院數報告別紙第一表ニヨリ取調毎月五日迄ニ差出スヘシ  
第一表

明治何年何月 梅毒患者在院數報告 何梅毒病院

娼妓營業地名	前月ヨリ越高	本月中入院數	本月中退院數	本月末患者數
何々	何	何	何	何
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
合計				



一 一ヶ月中最多人員 何十人  
 一 全 上 最少人員 何十人  
 一 一ヶ月平均人員 何十人  
 右及報告候也

年 月 日

三重縣知事宛

何梅毒病院長氏名印

(備考)

一本表ハ賄ニヨリ單人員ヲ以テ計算スヘシ但シ入退院ノ節一度食事ヲ爲シタルモノモ一人トス  
 一 前月越高トハ前月末日ノ現在員ニシテ翌月一日ニ越シタル人員本月申入院數トハ其月ノ一日ヨリ末日迄ニ入院シタル人員、本月中退院數トハ前同斷退院シタル人員、本月末患者數ハ其月末日ノ現在人員ヲ掲グルモノトス  
 一 一ヶ月中最多人員トハ其月中最モ入院患者ノ多キ日ノ人員、最少ノ人員トハ同斷最モ少ナキ日ノ人員、一ヶ月申平均人員ハ第二表ノ日々現在數ヲ一ヶ月分合計シ之ヲ其月ノ日數ニテ割リタル者ヲ掲ク  
 一 娼妓營業地ニ就テノ人員ハ入院患者名簿ニヨリ取調フヘシ  
 一本表ハ第二表ヲ根據トシ調査スルモノトス

(第二表)

何年何月 梅毒患者在院表

日別	種別		院退	院現在患者數
	前日ノ越高	入		
一 日	何 十 人	何 十 人	何	何 人
二 日	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
合計				

(備考)

一本表ハ兼テ調製シ置キ毎日異動ノ有無ニ拘ハラズ怠リナク記入スベシ  
 但入退院ナキトキハ其欄ニ豎ニ直線ヲ引キ現在數ノミヲ掲クヘシ  
 一本表ハ第一表調製ノ根據トシテ病院ニ備置クモノトス

第六款 警察醫服務心得

▲三重縣訓令乙第百二十五號 (明治二十八年三月六日)

警察署  
全分署  
警察醫  
娼妓貸座  
敷アル

娼妓貸座敷アル警察署所在地ニ警察醫ヲ置キ其服務心得左ノ通相定ム

警察醫服務心得

第一條 警察醫ハ所屬警察署長又ハ警察分署長ノ指示ニ從ヒ左ノ事務ニ服ス

一 娼妓梅毒ノ検査

一 娼妓梅毒検査所ノ事務及整理

一新タニ鑑札ヲ受ケ又ハ定日定時ノ検査ニ不參若クハ遲參シタル娼妓ノ

臨時檢梅

一 檢死檢症

一 傳染疾ノ疑似診斷

一 公衆衛生裁判醫學上ノ件ニ付所屬警察署長ノ顧問ニ應スル

第二條 警察醫ハ娼妓ノ檢梅傳染病ノ豫防其他公衆衛生上改良除害ノ方法

ニ注意シ意見アレバ縣知事ニ具申スルコトヲ得

第三條 警察醫ハ擔當部内娼妓ノ普通病者ヲ診察治療スヘカラス

但臨時至急ヲ要スルトキ若クハ止ムヲ得サル事故ノ爲メニ診察治療ヲ

托セラレタルトキハ其事由ヲ記シ所屬警察署長又ハ分署長ニ届出テ置クヘシ

第四條 警察醫ハ娼妓ノ梅毒豫防及攝生上ニ對シ注意ヲ促カスヘキ必要アルヲ認ムルトキハ檢梅世話掛ニ指示シ各娼妓ニ懇示セシムヘシ

第五條 娼妓檢徽ノ際肺病患者ノ有無ニ注意シ若シ肺病患者アリテ他ニ傳染ノ虞アリト認ムルトキハ診斷書ヲ添ヘ所屬警察署長又ハ分署長ニ申出ツヘシ

第六條 警察醫ハ娼妓檢徽ニ關スル諸器械ヲ整理保管スヘシ

第七條 警察醫ハ左記雛形ノ表ヲ作り翌月五日迄ニ縣廳ニ差出ヌヘシ

明治何年何月第何回娼妓檢徽表

地名	月日	健康者	入院ヲ命シタル患者	他ノ疾病		合計	肺病者
				事故ニテ檢査セサル者	入院中		
眞症							
假症							
症雜							
疥癬							
小計							
合計							
考備							

明治 年 月 日  
縣 知 事 宛

警察醫氏名印

明治何年何月臨時娼妓檢査表

地名	月	日	受檢人員	入院症	命シタル患者	雜症	疥癬	計	肺病患者
考備									

明治 年 月 日

縣 知 事 宛

警察醫氏名印

第八條 縣廳ニ差出ス書面ハ總テ所屬警察署又ハ分署ヲ經由スヘシ

附 則

一本則ハ明治二十八年四月二日ヨリ實施ス

一明治二十三年十二月本縣訓令甲第四百十九號ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

第七款 檢死檢証ハ警察醫囑托ノ件

▲警訓第四號 (明治二十八年三月六日)

明治二十八年三月六日本縣訓令乙第一二五號ヲ以テ警察醫服務心得相定メ  
ラレ候處檢死檢証其他ノ事柄ハ娼妓梅毒檢査事務ニ差支ナキ限り服務セラ  
シムル義ト心得ラルヘシ  
右娼妓貸座敷アル地ノ各署長ニ訓示ス

第八款 警察醫ノ給料旅費取扱方

▲三重縣訓令乙第四百五十九號 (明治二十六年七月廿四日)

娼妓貸座敷アル 警 察 署  
全 分 署

本年(三月)訓令乙第一二五號ヲ以テ警察署醫服務心得相定候處其給料旅費  
等左ノ通取扱フヘシ

但明治廿七年訓令乙第二百四十號ハ本年三月三十一日限り廢止ス

- 一 警察醫ハ檢査費ヲ以テ月俸ヲ給ス
- 二 警察署所在地外ニ於テ新ニ鑑札ヲ受ケ又ハ定日定時ノ檢査ニ不參若クハ  
遲參シタル娼妓ノ臨時檢査ハ警察署ニ於テ便宜ノ地ニ相當ノ醫師ヲ  
撰定シ置キ之ヲシテ檢査セシムヘシ  
但醫師人名ハ撰定ノ上直ニ警察部ニ報告スヘシ
- 三 警察醫病氣其他止ムテ得サル事故ノ爲メ定時若クハ臨時(警察署所在

- 地) 檢梅シ差支ヲ生シタルルハ警察署ニ於テ便宜醫師ヲ雇ヒ入レ定期及臨時檢梅共差支ナキ様取計フヘシ
  - 四 第二項第三項ノ場合ニ於テハ定期ハ日給金五拾錢以内臨時ハ受檢者一人ニ付金拾貳錢以内ノ檢査料ヲ支給スヘシ
  - 五 警察醫ノ旅費ハ梅毒檢査ノ事務ニ從事シタルトキ檢梅費ヨリ傳染病ノ事務ニ從事シタルトキハ傳染病豫防費ヨリ其他警察事務ニ從事シタルトキハ警察費ヨリ地方稅支辨ニ係ル給與規則(明治廿四年訓令甲第八十四號)ニ照シ支給スヘシ
- 但傳染病ニ從事シタルトキノ旅費ハ其都度警察部ニ請求スヘシ

○第五編 營業

第一章 質屋及古物商

第一款 營業鑑札下付方分署へ委任ノ件

▲三重縣訓令乙第四百五十九號 (明治二十六年七月二十四日)

警察 分署

左記營業鑑札ハ分署部内ノモノニ限り其下付方ヲ該分署ニ委任スルコトヲ得此場合ニ於テ警察署ハ豫メ相當ノ需用ヲ見積リ番號ヲ付シ署印ヲ押捺シタル用材又ハ用紙ヲ分署ニ送致シ置クヘシ分署ニ於テハ臺帳ヲ設備シ其他成規ノ手續ニ依リ警察署名ヲ以テ之ヲ取扱フヘシ

- 一 古物商免許鑑札
- 一 質屋免許鑑札
- 一 乗合馬車馭者馬丁鑑札
- 一 營業人力車輓子鑑札
- 一 娼妓貸座敷營業鑑札
- 一 獸肉商營業鑑札
- 一 牛羊乳販賣配付鑑札

### 第二款 質屋取締法令施行規則

▲三縣令第三十八號 (明治二十八年八月三十日)  
質屋取締法令施行規則左之通相定ム

#### 質屋取締法令施行規則

- 第一條 質屋取締法令及質屋取締法細則中行政廳ニ屬スル職權ハ警察署長分署長ヲシテ之ヲ行ハシム
- 第二條 免許ヲ受クヘキ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
  - 一 族籍住所氏名年齢前從前ノ職業
  - 一 族籍住所氏名ニ異動アリタル者ハ舊族籍住所氏名並現住地ニ移轉シタル年月日
  - 一 店舗ノ所在
- 第三條 管理人ノ届書ニハ其族籍住所氏名年齢從前ノ職業及管理スヘキ支店並質屋取締法第十九條ニ抵觸セサルモノタルコトヲ明記シ警察署又ハ分署ニ差出スヘシ
- 管理人ノ族籍住所氏名ニ異動アリタルトキ八十日以内ニ前項ノ手續ニ依リ届出ヘシ
- 第四條 營業者ハ警察署又ハ分署ノ指定スル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ
- 第五條 組合ニハ取締ヲ置キ其人名ヲ警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

シ變更シタルトキ亦同シ

第六條 組合ハ規約ヲ設ク左ノ事項ヲ規定シ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

變更シタルトキ亦同シ

一 取締人ノ任期及撰舉方法

二 組合費ノ收支方法

三 營業上必要ノ事項

第七條 質物ニハ帳簿ト符合スヘキ番號及質置主ノ姓名ヲ記シタル札ヲ付スヘシ

第八條 質屋取締法第六條ノ事項ハ設定變更ノ都度警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

但組合ニ於テ設定シタルトキハ組合取締ヨリ届出ルヲ得

第九條 營業者ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一 質物臺帳

二 流質物賣拂帳

三 品觸綴

第十條 帳簿ハ新調變換ノ都度紙數ヲ記シ警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ

帳簿廢棄ノ許可ヲ受ケントスル者ハ警察署又ハ分署ニ願出ヘシ  
第十一條 帳簿ハ左ノ區別ニ從ヒ記載スヘシ

一 質物臺帳

此帳簿ニハ質物ノ種類品質摸樣番號貸金額質入主ノ住所氏名質入  
受戻入換流質ノ年月日及利子ノ割合ヲ記載スヘシ但質屋取締法第  
四條但書及使ヲ以テ質入シタル場合ニ於テハ其旨ヲ記入スヘシ

二 流質物賣拂帳

此帳簿ニハ賣却セル流質物ノ種類品質摸樣番號代價買主ノ住所氏  
名賣却ノ年月日ヲ詳記スヘシ流質物ヲ自用ニ供スルトキハ其種類  
品質摸樣番號年月日及其事由ヲ記載スヘシ

第十二條 品觸ハ到達毎ニ遺漏ナク編綴シ滿三ヶ年間保存スヘシ

第十三條 質札及通帳便宜ノ箇所ニ質屋取締法第六條ノ事項ヲ記載スヘシ

第十四條 第三條第二項第七條第十條第一項第十一條第十二條ニ違背シタ  
ル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニヨリ處分ス

附則

一 來從免許ヲ得タルモノハ此際更ラニ免許ヲ受クルニ及ハス但從來ノ鑑札  
ハ返納スヘシ

一 從來ノ營業者ハ明治二十八年十二月三十一日迄從前使用ノ帳簿ヲ襲用ス

ルコトヲ得

第三款 古物商取締法令施行規則

▲三重縣令第三十九號 (明治二十八年八月三十日)

古物商取締法令施行規則左ノ通り相定ム

古物商取締法令施行規則

第一條 古物商取締法及古物商取締細則中行政廳ニ屬スル職權ハ警察署長  
分署長ヲシテ之ヲ行ハシム

第二條 免許ヲ受クヘキ願書ニハ左ノ各項ヲ記載スヘシ

一 族籍住所氏名年齢並從前ノ職業

一 族籍住所氏名ニ異動アリタル者ハ舊族籍住所氏名並現住地ニ移轉シタル年月日

一 營業ノ種類

一 營業所又ハ店舖ノ所在

第三條 營業ノ種類ヲ増加シ又ハ變更セントスル者ハ願書ニ其種類ヲ記シ  
差出スヘシ

營業物品ノ種類ヲ減少シタルトキハ前項ノ手續ニ依リ十日以内ニ届出ヘ  
シ

第四條 管理人ヲ置ク者ハ其届書ニ管理人ノ族籍住所氏名年齢並從前ノ職業

及其管理スヘキ營業所又ハ店舗並古物商取締法第十五條ニ抵觸セサルモノタルコトヲ明記シ差出スヘシ

管理人ノ族籍住所氏名ニ異動アリタルトキハ十日以内ニ前項ノ手續ニ依リ届出ヘシ

第五條 行商又ハ露店ノ鑑札ヲ受ケントスル者ハ願書ニ自己家屬又ハ雇人ノ別及營業ノ種類ヲ記載スヘシ

鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ鑑札面記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ其事由ヲ記シ鑑札ノ訂正又ハ再渡ヲ受クヘシ

廢業又ハ死亡シタルトキハ五日以内ニ其旨届出鑑札ヲ返納スヘシ

第六條 營業者ハ警察署又ハ分署ノ指定スル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第七條 組合ニハ取締ヲ置キ其人名ヲ警察署又ハ分署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ變更シタルトキ亦同シ

第八條 組合ハ規約ヲ設ケ左ノ事項ヲ規定シ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

變更シタルトキ亦同シ

一 取締人ノ任期及撰舉方法

二 組合費ノ收支方法

三 營業上必要ノ事項

前項ノ場合ニ於テハ相續人ヨリ營業免許ヲ願出ツルニ際シ調査ノ上大ナル不都合アラサル限りハ可成免許スルノ方針ヲ取ルヘシ

五 細則ノ規定ニ從ヒ定ムヘキ管理人ニ付テハ古物商取締法第十五條及質屋取締法第十九條ヲ適用スヘキハ勿論トス而シテ獨立ノ營業ヲ免許セラレサルカ爲メニ名ヲ他人ノ管理人ニ籍リ店舗ヲ張リ其實自己ノ責任ヲ以テ營業スルモノナキヲ保セス此ノ如キハ詐僞ノ手段ヲ以テ官ヲ誑クモノナルヲ以テ取締上注意ヲ要ス

六 届出ヲ要スル事項ハ法律之ヲ定ムト雖届出ノ期限ハ之ヲ定メス乃チ細則ニ定メタル期限ヲ懈怠シタル者始メテ法律ニ照シテ届出ヲ怠ルノ科ヲ論セラルヘシ細則中届出ノ義務ヲ規定シタル條項亦其例ヲ同フス

七 帳簿ノ廢棄許否ハ警察官ノ與フル者ナレハ巡查モ亦之ヲ許可スルノ職權ヲ有スト雖モ之ヲ巡查ニ一任スルハ宜シカラス必ラス警察署又ハ分署ノ權限ニ屬セシムルヲ可ナリトシ施行規則ニ定メラレタルモノナリ

八 帳簿ノ毀損又ハ亡失ノ届出ニ際シ事由ノ疏明ハ最モ嚴密ニ之ヲ查覈スヲ要ス否ヲサレハ警察官カ廢棄ヲ許可セサルノ恐アルカ爲ニ言ヲ毀損又ハ亡失ニ藉リテ法ヲ免ルノ虞ナシトセス

九 質契約質物處分方利子割合流質期限質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨

及其管理スヘキ營業所又ハ店舗並古物商取締法第十五條ニ抵觸セサルモノタルコトヲ明記シ差出スヘシ  
管理人ノ族籍住所氏名ニ異動アリタルトキハ十日以内ニ前項ノ手續ニ依リ届出ヘシ

第五條 行商又ハ露店ノ鑑札ヲ受ケントスル者ハ願書ニ自己家屬又ハ雇人ノ別及營業ノ種類ヲ記載スヘシ

鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ鑑札面記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ其事由ヲ記シ鑑札ノ訂正又ハ再渡ヲ受ケヘシ

廢業又ハ死亡シタルトキハ五日以内ニ其旨届出鑑札ヲ返納スヘシ

第六條 營業者ハ警察署又ハ分署ノ指定スル區域ニ從ヒ組合ヲ設ケヘシ

第七條 組合ニハ取締ヲ置キ其人名ヲ警察署又ハ分署ニ届出テ認可ヲ受ケヘシ變更シタルトキ亦同シ

第八條 組合ハ規約ヲ設ケ左ノ事項ヲ規定シ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケヘシ

變更シタルトキ亦同シ

- 一 取締人ノ任期及撰舉方法
- 二 組合費ノ收支方法
- 三 營業上必要ノ事項



第九條 商品ニハ帳簿ト符合スヘキ番號ヲ付スヘシ

第十條 古物營業者ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

- 一 古物買入讓受帳
- 二 古物賣拂讓渡帳
- 三 品觸帳

第十一條 市場營業者ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

- 一 古物賣立帳
- 二 品觸綴

第十二條 行商者ハ第十條第一第二ノ帳簿ヲ調製シ行商中ノ賣買讓受讓渡等ヲ記載スヘシ

第十三條 帳簿ハ新調變換ノ都度紙數ヲ記シ警察署分署ノ檢印ヲ受クヘシ帳簿廢棄ノ許可ヲ受ケントスル者ハ警察署分署ニ願出ヘシ

第十四條 帳簿ハ左ノ區別ニ從ヒ記載スヘシ

- 一 古物買受讓受帳

此帳簿ニハ買受讓受又ハ交換ニヨリ得タル物品ノ種類品質摸樣番號買主若クハ讓渡主ノ住所氏名代價若クハ給付シタル交換物ノ番號及年月日ヲ記載スヘシ但古物商取締法第七條但書ノ場合ニ於テハ其旨ヲ記入スヘシ

自用ノ物品又ハ寄藏ヲ受タル物品ヲ賣品ニ供スルトキハ其種類品  
質摸樣番號年月日及其事由ヲ記載スヘシ

二 古物賣拂讓渡帳

此帳簿ニハ賣却若クハ交換ニ因テ讓渡シタル物品ノ種類品質摸樣  
番號代價若クハ受取タル交換物番號及年月日ヲ記載スヘシ

賣品ヲ自用ニ供シ若クハ無償ニテ他人ニ讓與シタルトキハ其種類  
品質摸樣番號年月日及其事由ヲ記載スヘシ

三 古物賣立帳

此帳簿ニハ年月日賣主ノ住所氏名物品ノ種類品質摸樣代價ヲ記載  
スヘシ

第十五條 品觸ハ遺漏ナク編綴シ三ケ年間保存スヘシ

第十六條 露店ノ鑑札ハ開店中見易キ所ニ出シ置クヘシ

第十七條 第三條第二項第四條第二項第五條第二項第九條第十三條

第一項第十四條第十五條ニ違反シタル者ハ刑法第四百廿七條第八項ニ依  
リ處分ス

附則

一 従前免許ヲ得タル者ハ此際更ニ免許ヲ受クルニ及ハス店舗ヲ設クル者ハ  
古物商取締法第三條ノ届出ヲ爲シ行商及露店ノ營業ヲ爲ス者ハ古物商取

縮法細則第八條ニヨリ更ニ鑑札ヲ受クヘシ但從來ノ鑑札ハ此際返納スヘシ

一從來ノ古物商市場ハ古物商取縮法細則第九條ニヨリ更ニ規約ヲ定メ認可ヲ受クヘシ但從來ノ鑑札ハ此際返納スヘシ  
一從來ノ營業者ハ明治廿八年十二月卅一日迄從前使用ノ帳簿ヲ襲用スルコトヲ得

#### 第四款 質屋古物商營業願取扱手續

▲三重縣訓令乙第六百二號 (明治二十八年八月三十日)

警 察 署  
警 察 分 署

質屋古物商營業願取扱手續

質屋古物商營業願取扱手續

第一條 質屋古物商營業願書ヲ受ケタルトキハ速ニ處理スヘシ

第二條 左ノ各項ニ該當スル者ハ免許ヲ與フヘカラス

但第四項第五項ニ該當スル者ニシテ許可スルモ差支ナシト認ムル者ハ  
警部長ノ指揮ヲ受クヘシ

- 一 幼者又ハ白痴癡癡者ニシテ後見人ナキ者
- 二 非戸主ノ營業願書ニシテ戸主ノ連署セサル者

- 三 營業停止ノ處分ヲ受ケ未タ解停セサルニ廢業ヲ届出タル者
- 四 第一項ノ後見人ニシテ營業禁止ノ處分ヲ受ケタル者
- 五 強窃盜詐欺取財贓物ニ干スル罪ヲ犯シタル者
- 六 前項犯罪ノ嫌疑アル者
- 第三條 臺帳ヲ製シ部門ヲ分チ種目ヲ記入スヘシ
- 第四條 品觸ヲ發スルトキハ配布日限ヲ定メ取締ニ交付スヘシ
- 第五條 營業帳簿ハ記載物品ノ處分結了後四ケ年ヲ經過シタル者ニアラサレハ廢棄ノ許可ヲ與フヘカラス
- 第六條 古物商取締法第七條質屋取締法第四條ノ認可古物取締法第十三條質屋取締法第十五條ノ領置書式ハ左ノ例ニ準スヘシ

古物商 何 某

一何々  
一何々

右ノ品何縣何郡何町村番地何某ヨリ買得スル(交換)(質物トシテ受領スル)ヲ認可ス

年月日 何警察署 官 姓 名印  
領置証

一何々  
一何々  
右犯罪ノ嫌疑アル物品(遺失物)(傳染病毒汚染物品ト認ム)ニ付押收候也  
年月日 宛 何警察署 官 姓 名印

- 第七條 古物商取締法第十七條質屋取締法第十六條ノ處分ハ成ルヘク刑事ノ判決ヲ待テ執行スヘシ若シ之ヲ待ツ暇ナキトキハ假リニ徵收シテ交付シ置クヘシ
- 第八條 取締ヲ認可シタルトキハ其人名ヲ警部長ニ報告スヘシ
- 第九條 組合規約ヲ提出シタルトキハ意見ヲ具シ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第十條 行商露店ノ鑑札ハ左ノ雛形ニ據ルヘシ

行商露店 第何號 古物露店營業 住所 某

行商露店 第何號 古物露店營業 住所 某

用紙厚紙 木札 縦六寸五分

第十一條 營業禁止停止ノ處分ヲ必要ナリト認ムルトキハ意見ヲ警部長ニ具申スヘシ

第十二條 營業禁停止被處分者名簿ヲ調製シ部門ヲ分子索引ヲ付スヘシ

第五款 古物商質屋取締法實施ニ付參考箇條

▲警第二千八百二十五號 [明治二十八年八月三十日]

古物商質屋取締法實施ニ付御參考共可相成候簡條別紙及御送付候條各法規ニ對照御勘考相成度候此段申進候也

- 一 廳府縣令ヲ以テ警察署長分署長ニ委任セラレタル職權ニ屬スル處分ハ廳府縣ノ全管内ニ効力ヲ有スルナリ
- 二 法律及細則ニ警察官トアルハ普通ニ解釋スルガ如ク巡查迄ヲ包含スルモノトス
- 三 古物商取締法第二條ニ其物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシトアルヲ以テ營業物品ノ種類ヲ變更シタルトキハ更ニ營業ノ免許ヲ受ケシムルヲ要ス
- 四 營業免許ハ人ニ對シテ與フルモノナルヲ以テ營業者死亡スルトキハ免許ノ効力消滅スヘシ而テ營業者死亡後相續人未定ノ間ハ營業上ノ責任ニ當ル者ナキヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス尤モ債權者ハ遺產ニ對シテ其債權ヲ執行スルコトヲ得ルヲ以テ古物商又ハ質屋ノ生存中ノト取引シタル者ハ其權利ノ執行ヲ妨ケス民法財產取得編ハ未タ施行セラレズト雖出訴ノ場合ニ於テ民事訴訟法第四十六條救濟ノ途ヲ示セリ

- 前項ノ場合ニ於テハ相續人ヨリ營業免許ヲ願出ツルニ際シ調査ノ上大ナル不都合アラサル限りハ可成免許スルノ方針ヲ取ルヘシ
- 五 細則ノ規定ニ從ヒ定ムヘキ管理人ニ付テハ古物商取締法第十五條及質屋取締法第十九條ヲ適用スヘキハ勿論トス而シテ獨立ノ營業ヲ免許セラレサルカ爲メニ名ヲ他人ノ管理人ニ籍リ店舗ヲ張り其實自己ノ責任ヲ以テ營業スルモノナキヲ保セス此ノ如キハ詐僞ノ手段ヲ以テ官ヲ誑クモノナルヲ以テ取締上注意ヲ要ス
- 六 届出ヲ要スル事項ハ法律之ヲ定ムト雖届出ノ期限ハ之ヲ定メス乃チ細則ニ定メタル期限ヲ懈怠シタル者始メテ法律ニ照シテ届出ヲ怠ルノ科ヲ論セラルヘシ細則中届出ノ義務ヲ規定シタル條項亦其例ヲ同フス
- 七 帳簿ノ廢棄許否ハ警察官ノ與フル者ナレハ巡查モ亦之ヲ許可スルノ職權ヲ有スト雖モ之ヲ巡查ニ一任スルハ宜シカラス必ラス警察署又ハ分署ノ權限ニ屬セシムルヲ可ナリトシ施行規則ニ定メラレタルモノナリ
- 八 帳簿ノ毀損又ハ亡失ノ届出ニ際シ事由ノ疏明ハ最モ嚴密ニ之ヲ查覈スヲ要ス否ラサレハ警察官カ廢棄ヲ許可セサルノ恐アルカ爲ニ言ヲ毀損又ハ亡失ニ藉リテ法ヲ免ルノ虞ナシトセス
- 九 質契約質物處分方利子割合流質期限質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨

方質物出入時間ハ當事者ノ合意ヲ有效トスヘキモノニシテ取締法規ニ違背セサル限ハ警察權ヲ以テ立入ルヘキ限ニ在ラス

十 質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ質物ヲ返還スルト否トハ一ニ質屋ノ意見ニ任セタルナリ尤不正行為ニ因テ質札又ハ通帳ヲ所持シ且質屋其實ヲ認識シ若ハ認識シ得ヘキ場合ニ於テ質物ヲ該所持者ニ返還シタルトキハ正當ノ權利者ニ對シテ民法上ノ責任ヲ免ル、ヲ得サルナリ

十一 質屋流質物ヲ賣却スルニ當リ或ハ之ヲ市場ニ販賣シ或ハ之ヲ店頭ニ陳列シ若クハ廣告シテ購買者ヲ募リ或ハ行商若クハ糶賣スル等古物商ノ行為ト看做シ得ヘキモノハ古物商營業ノ免許ヲ受ケ古物商取締法ヲ遵守スルコトヲ要ス

### 第二款 宿屋取締規則

▲三重縣令第二十號 (明治二十七年三月二十一日)

明治二十年三重縣令第四十九號宿屋取締規則左ノ通改正ス

#### 宿屋取締規則

##### 第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類及營業用ニ供スル建物坪數間取ヲ記シタル明細圖面ヲ添ヘ警察署又ハ分署ニ願出免許證ヲ受ケヘシ

第三條 營業用ニ供スル建物ヲ新築又ハ改造セントスル時ハ其築造方法書ニ圖面ヲ添ヘ警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受ケ落成ノ上ハ更ニ届出檢査ヲ受ケヘシ

第四條 宿屋ノ開業廢業及營業者轉居改氏名ニ關スル願届ハ取締人ノ加印ヲ受ケ差出スヘシ

第五條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ免許ヲ與ヘス

- 一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者
- 二 白痴瘋癲ノ者
- 三 強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者
- 四 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認メタル者

第六條 左ノ各項ニ當ル者ハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ已ニ免許ヲ與ヘタル後ト雖モ其免許ヲ取消スコトアルヘシ

- 一 正當ノ事由ニ依リ組合ノ決議ヲ以テ組合ニ加入ヲ拒マレ又ハ組合ヲ除名セラレタル者
- 二 取締規則又ハ組合同約ニ違ヒ再三處分ヲ受ケ將來改悛ノ狀ナキ者

第七條 水火盜難等ニテ免許証ヲ亡失シ又改氏名其他免許証面ニ異動ヲ生シタル時ハ五日以内ニ警察署又ハ分署ニ願出其訂正又ハ再渡ヲ受ケヘシ

第八條 廢業ノ節ハ五日以内ニ警察署又ハ分署ニ届出免許証ヲ返納スヘシ



但營業者死亡ノ節ハ相續人又ハ最近ノ親族ヨリ五日以内ニ届出免許証ヲ返納スヘシ

第九條 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ何人タリトモ旅客ニ對シ強テ休泊ヲ勸メ又ハ誘引シ又ハ宿引体ノ所業ヲ爲スヘカラス

第十條 同業者又ハ其他ノ者ト謀リ方法ノ如何ヲ問ハス旅客ニ對シ不便ヲ與フルノ所業ヲ爲スヘカラス

第十一條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄托ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ若シ紛失シタル時ハ速ニ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十二條 宿泊人ノ遺留品アル時ハ速ニ通知若クハ送り届クヘシ其主分明ナラサル時ハ速ニ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十三條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫リニ其室内ニ立入ラシムヘカラス

第十四條 宿泊人疾病ニ罹リタル時ハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

但六種傳染病ニ罹リタル時ハ警察官吏ニ急報スヘシ

第十五條 宿泊人變死傷ニ罹リタル時ハ警察官吏ニ急報スヘシ

第十六條 宿泊料ノ抵償トシテ宿泊人ノ所有品ヲ受領スル場合ハ警察官吏ノ公認ヲ受クヘシ

第十七條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ルノ目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十八條 此規則及規約中ノ宿泊料其他宿泊人ニ關スル要領ハ宿泊人ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十九條 宿泊人及雇人ニ關シ取締上警察官吏ノ尋問アリタル時ハ事實ヲ申告スヘシ

第二章 旅人宿

第二十條 旅人宿ノ客室ハ旅客ノ安全健康ヲ保ニ充分ナル構造ヲ爲スヘシ

第二十一條 營業者ハ旅客ノ物品ヲ保管スルタメ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸棚ヲ設ケ置クヘシ

第二十二條 二階又ハ三階ニ多數客室ヲ有スル家ハ二個以上階子ヲ設クヘシ

第二十三條 便所及其他汚物ノ溜場ハ客室ニ最モ隔タル場所ニ設ケ容器及周圍ハ汚物ノ他ニ浸透セサル様堅固ニ構造シ日々清潔ニ掃除スヘシ

但夏季ニハ時々防臭劑ヲ注瀉スヘシ

第二十四條 臥具飲食器ハ清潔ヲ旨トシ殊ニ食物ニ注意スヘシ

第二十五條 正當ノ事由ナクシテ旅客ノ宿泊ヲ拒絶スヘカラス

第二十六條 同行ニアラサル宿泊人ハ双方ノ承諾ナクシテ一室ニ合宿セシムヘカラス

第二十七條 營業者ハ宿帳ヲ調製シ宿泊人ノ住所身分職業氏名年齢ヲ記載スヘシ

但十名以上ノ同行者ハ其中ノ一名ヲ記シ他ハ外何人ト畧記スルコトヲ得

第二十八條 宿帳ハ警察署又ハ分署ノ指定スル期日ニ検査ヲ受クヘシ

第二十九條 宿帳ハ一ケ年間保存シ營業者ニ變更等アリタル時ハ之ヲ受渡シ其期限間繼續保存スヘシ若シ亡失シタル時ハ速ニ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第三章 下宿屋及木賃宿

第三十條 營業者ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下宿人ノ族籍氏名年齢ヲ記シ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ下宿人轉宿シタル時亦同シ

第三十一條 市街地ニ於テ木賃宿營業ヲ許スヘキ場所ハ縣廳ニ於テ其區域ヲ指定スルコトアルヘシ

第三十二條 第二十六條第二十七條第二十八條ハ木賃宿ニモ亦之ヲ適用ス

第四章 營業組合

第三十三條 營業者ハ營業上ノ協同一致ヲ計ルタメ警察署ノ指定スル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第三十四條 組合ハ組合規約ヲ定メ警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受

クヘシ其規約ヲ變更セントスル時亦同シ

第三十五條 組合ニハ取締人正副各一名ヲ置キ取締所ヲ設ケ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ其變更シタル時亦同シ

但組合ノ便宜ニ依リ副取締人ヲ置カサルコトヲ得

第三十六條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人タルコトヲ得ス

- 一 年齢二十五歳以上ノ者
- 二 組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者
- 三 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

第三十七條 取締人ハ營業ニ關スル諸規則命令ニ從ヒ組合營業者ノ取締ヲ爲シ專ラ旅客ノ利便ヲ謀ルヘシ

第三十八條 營業者ハ其地ノ組合ニ加入スヘシ組合ニ加入セサル者ハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ

第四十條 組合規約中ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

- 但違約者ノ處分ハ違約金停業除名ノ三種トナスヘシ
- 一 取締人ノ任期及撰舉方法
- 一 組合費用ノ收支方法
- 一 違約者處分方法

一右ノ外營業上必要ノ事項

第四十一條 組合ノ決議ニヨリ同業者ノ組合加入ヲ拒ミ又ハ規約ニ依リ處分シタル者アル時ハ其事由及氏名ヲ警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

前項ノ決議若クハ處分ニシテ正當ナラスト認ムル時ハ取消ヲ命スルコトアルヘシ

第四十二條 各地組合ノ便宜ニ依リ數組合ノ聯合組合ヲ設クルコトヲ得

第四十三條 前條聯合組合ヲ設ケントスル時ハ聯合組合ノ名稱規約及總取締人正副各一名ヲ定メ警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五章 罰則

第四十四條 第二條第三條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十二條ニ違背シタル者及第三十八條ニ違背シテ營業ヲナシタル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ據リ處分ス第廿三條第廿四條ニ違背シ警察官吏ノ督促ニ從ハサル者亦同シ

附則

一 本則ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

二 従前ノ營業者ニシテ引繼キ營業ヲナサントスル者ハ更ニ願出ニ及ハサ

ルモノトス

第二款 宿屋取締規則取扱手續

▲三重縣訓令甲第十七號 (明治二十七年三月二十一日)

警察署

警察分署

宿屋取締規則取扱手續左ノ通相定ム

宿屋取締規則取扱手續

第一條 宿屋營業ノ願書ヲ受ケタル時ハ速ニ調査ヲ加ヘ許否ノ手續ヲナスヘシ

但規則第六條ニ依リ免許ヲ與ヘス又ハ免許ヲ取消サントスル時ハ事由ヲ具シ指揮ヲ待テ處分スヘシ

第二條 臺帳ヲ製シ種類毎ニ部門ヲ分チ營業者ノ住所氏名營業ノ場所及免許年月日ヲ記載スヘシ

第三條 營業免許証ハ許可ノ指令書ヲ以テ代用シ下付ノ際臺帳ト割印スヘシ

第四條 免許証ヲ亡失シ又ハ免許証面ニ異動ヲ生シ若クハ廢業ノ時ハ速ニ其事由年月日ヲ臺帳ニ朱記シ免許証ヲ再渡スル時ハ其旨ヲ記シ更ニ割印スヘシ

第五條 營業用ニ供スル建物ハ規則ニ依リ調査スルハ勿論旅人宿ニ在テハ成ルヘク左ノ數項ヲ完備セシムルヲ要ス

一 客室ハ清潔ニシテ長ク光線ヲ受ケ空氣流通シ濕氣若クハ臭氣ナカラシムルコト

二 客室ノ間仕切ハ壁又ハ板戸襖障子等ヲ用キ區別スルコト

三 客室ノ出入口ハ一方ニ定メ他ノ客室ヲ通行セサル様構造スルコト

四 客室ノ窓牖及檐側ニ雨戸ヲ設ケ不取締ナキコト

五 規則第二十一條ノ押入及戸棚ハ客室造作ノ摸樣ニ依リ每室若クハ數室ニ一個ヲ設ケシムルコト

第六條 宿帳ハ成ルヘク左ノ様式ニ依リ調製セシムヘシ

一面五行 (用半紙)

何月何日	住所	身分	職業	氏名	年齢
何日	何縣何國郡市町村番地	身分	職業	氏名	年齢

第七條 宿帳ハ官吏其他身元判明シ毫モ疑ナキ者ハ單ニ官名又ハ職業氏名ノミヲ記載セシムルモ妨ケナシ

但滞在者ハ其氏名ノ上ニ滞在下記シ住所其他ヲ畧スルコトヲ得

第八條 組合區畫ハ警察署所轄ノ區域ニ依ラシムヘシト雖モ土地ノ狀況ト

取締上ノ便否ヲ謀リ三區以下ニ分割スルモ妨ケナシ

但組合ハ旅人宿下宿屋木賃宿ヲ組トシ種類ヲ分ツヘカラス

第九條 組合取締所ハ警察署分署所在地ニ設ケシムルヲ要ス

第十條 組合規約認可願ヲ受ケタル時ハ左ノ各項ヲ調査シ意見アルモノハ意見書ヲ付シ進達スヘシ

一 組合規約成立ニ付營業者間ニ苦情ナキヤ

二 組合ニ關スル費用ノ賦課公平ナルヤ

三 違約金過重ナラサルヤ

第十一條 規約ニハ規約ニ依リ停業若クハ除名シタル者アル時ハ七日以内ニ其事由及氏名ヲ管内ニ於テ發行スル新聞紙ニ五日間以上組合名ヲ以テ廣告スルノ條項ヲ成ルヘク規定セシムヘシ

第十二條 規則第四十一條ノ届ヲ受ケタルトキ正當ナラスト認ムルモノハ詳細ノ事情ヲ具シ意見ヲ付シテ進達スヘシ

但違約金處分届ハ正當ナラスト認ムルモノ、外其畧ニ留置キ進達スルニ及ハサルモノトス

第十三條 規則第四十三條ニ依リ聯合組合ニ係ル認可願書ヲ受ケタルトキハ取締人ノ身元並ニ同業者ノ信否如何ヲ調査シ意見ヲ具シ速ニ進達スヘシ

### 第三章 湯屋及請宿

#### 第一款 湯屋取締規則

▲三重縣令第六十五號 (明治二十年六月二十九日)  
湯屋取締規則別紙之通相定ム

##### 湯屋取締規則

- 第一條 湯屋營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ建設ノ地名并ニ浴湯ノ種質(洗湯鹽湯鐵泉湯藥湯ノ類)構造ノ法ヲ詳記シ其位置ノ圖面ヲ添ヘ警察署ニ差出シ免許ヲ受クヘシ  
但願書ニ建設落成ノ期日ヲ記載スヘシ  
其構造ヲ變換セントスル者亦同シ
- 第二條 警察署ハ土地ノ狀況ニヨリ其願ヲ許否ス允許ヲ受ケタル者ハ建築落成ノ上檢査ヲ受クルニ非サレハ開業スルヲ許サス
- 第三條 廢業改氏名及湯質ノ變換ヲナシタルトキハ三日内ニ警察署ニ届出ヘシ
- 第四條 正當ノ事由ナクシテ落成ノ期ヲ遷延シ又ハ休業九十日以上ニ及ブ者ハ免許ノ効ヲ失フヘシ
- 第五條 營業ニ關スル願届ハ分署部内ノ者ハ其分署ヲ經由スヘシ

- 第六條 大焚場并烟出シハ煉化石ノ類ヲ以テ築造スヘシ但石炭ヲ用ヒサル烟出シハ漆喰塗ニナスモ妨ケナシト雖モ土ノ厚サ一寸五分以上タルヘシ
- 第七條 烟出シハ屋上ハ三尺以上突出セシメ其周圍二間以内ハ不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ
- 第八條 焚物置場ハ火焚場ヨリ三間以上ノ距離ヲ取り又焚物小出場ハ火焚場ヲ距ル三尺以上ノ所ニ不燃質物ノ障壁ヲ建テ之ヲ設クヘシ
- 第九條 火消並灰置所ノ構造ハ深サ三尺以上ノ坑穴ニ爲シ各箇隔日ノ使用ニ供スル爲メ中央ニ仕切ヲ設ケ其蓋ハ安全ナル不燃質物ヲ用ユヘシ但地質ニ依リ石煉化石ノ類ヲ以テ地上ニ構造スルモ妨ケナシ
- 第十條 火消所並灰置所ノ周圍三尺以内ニ焚物其他燃質物ヲ置クヘカラス
- 第十一條 灰又ハ消灰ハ投坑後升四時間ヲ經過シ火氣消盡シタル後ニ非ラサレハ坑外ニ出スヘカラス
- 第十二條 烟出及火焚場並ニ其ノ天井裏等ハ毎月一回休業シテ掃除ヲ爲スヘシ  
但其期日ハ豫テ警察署又ハ分署ニ届置クヘシ
- 第十三條 火焚場烟出シ火消所並灰置所等破損ノ個所アルホハ速ニ修理スヘシ
- 第十四條 浴湯ハ男女互ニ見透サ、ル様區域ヲ正シクシ十年未滿ノモノ、

外男女混淆セシムヘカラス

第十五條 浴場並ニ浴客ニ供スル二階等外部ヨリ見透ス場所ハ簾其他ノモノヲ以テ見隠ヲ設ケ又出入口ハ明ケ置クベカラス

第十六條 浴場及洗桶下水等ハ日々清潔ニ掃除スヘシ

第十七條 浴場ハ午後十二時限り閉止スヘシ但烈風ノ際ハ時間ニ拘ハラズ焚火ヲ止ムヘシ

第十八條 前日使用ノ分其他不淨ノ湯水ハ浴用ニ供スヘカラス但鑛泉藥湯等豫テ警察署ノ許可ヲ受クタルモノハ此限ニアラス

第十九條 浴客ノ衣類ヲ納ルニ供スル器物ハ少ナクモ其半數ニ鎖鑰及符ヲ付ケ置クヘシ

第二十條 浴室ノ衣類其他携帶品ハ紛失セサル様注意シ若シ遺留又ハ換易ノ物品アリタルハ其品名ヲ揭示ス五日以内ニ特主知レサルハ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

但不正ノ疑アル物品ナルハ速ニ届出ヘシ

第廿一條 入口ノ傍側ニ便所ヲ設クヘカラス

第廿二條 瘋癲人又ハ醉狂人ト認ムル者ハ入浴セシムルヘカラス又老幼者獨身入浴スルハ相當ノ補助若クハ注意ヲ加フヘシ

第廿三條 浴湯ニ在テ放歌高吟シ其他同浴人ノ妨害ヲナス者アラハ之ヲ制

止シ若シ肯セサル者ハ退場セシムヘシ

第廿四條 浴場火焚場等朽腐破壊不潔等ニテ危險又ハ風俗衛生上害アリト認ムルハ警察官吏ニ於テ一時營業ヲ差止ムルヲアルヘシ

第廿五條 同業者中ニ於テ組合若クハ規約ヲ設クルハ豫メ警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ其變更セントスルトキ亦同シ

第廿六條 第一條第二條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第二十條第廿一條第廿五條ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ第二條ニ背キ檢査ヲ受ケス第十六條第十七條第十八條第十九條ニ違ヒ命ニ從ハサル者亦同シ

附則

一本則ハ明治二十年九月一日ヨリ施行ス

一現今營業ノ者ハ此際更ニ願出免許ヲ受クヘシ

但第六條第七條ノ制限ニ適セスト雖一ケ年以内ハ特ニ免許スルコアルヘシ

第二款 湯屋營業願取扱手續

▲三重縣訓令第八百四號 (明治二十年六月二十九日)

警察署 分署

湯屋營業願取扱手續左ノ通相定ム

湯屋營業願取扱手續

- 第一條 湯屋營業願書ヲ受クレハ速ニ調査ヲ加ヘ許否ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二條 分署ニ於テ該願書ヲ受クレハ之ヲ調査シ不都合ナシト認ムルモノハ願書欄外右角ニ檢印シ意見アルトキハ詳細ニ添申スヘシ
- 第三條 營業者臺帳ヲ製シ本人ノ氏名營業地(屋號屋敷トモ)許可ノ年月日等ヲ記入シ主任認印スヘシ  
但廢業ノ節ハ臺帳ヲ更正スヘシ
- 第四條 番號ハ數年通シテ用ユヘシ其廢業ニテ欠番號アルトキハ新規營業者アル毎ニ之ヲ補填スヘシ
- 第五條 規約組合ヲ認可シタルトキハ寫一通ヲ具シ本部長ニ報告スヘシ
- 第六條 規約組合ヲ認可セス又認可スルノ後之ヲ取消サントスルトキハ其事由ヲ具シ本部長ニ伺出指揮ヲ受クヘシ
- 第七條 浴場ノ新造若クハ改造ヲ願出タルトキハ左項ニ依リ調査ヲ加ヘ不都合無之ニ於テハ許可ノ手續ヲナシ出來形檢査ノ上抵觸ノ分ハ改修セシムヘシ
- 一 男女ノ區域ハ湯壺中ハ勿論出入口ヨリ湯室ニ至ルノ間モ亦其仕切アルモノ

但其高サハ互ニ相見ルヲ得ザルヲ以テ度トス

- 二 湯壺ノ入口ハ堅牢ノ段階ヲ作り其見隠シハ凡ソ湯壺ノ上平面ト同様ニシテ健康ニ害ナキモノ
  - 三 下水疎通ノ溝渠完備セルモノ  
但浴湯ノ最寄ニ下水ヲ澀溜セサルモノ
  - 四 用水清淨ニシテ健康ニ害ナキモノ
  - 五 右ノ外規則ニ抵觸セサルモノ
- 第八條 營業ニ就テハ毎月一回以上左項ヲ視察シ相當ノ處置ヲナスヘシ
- 一 煙出ノ掃除行届ケルヤ
  - 二 火焚場天井烟出ノ破損等ハナキヤ
  - 三 薪炭灰等ノ取扱粗漏ナラサルヤ
  - 四 男女入込セサルヤ
  - 五 洗湯ハ毎日汲ミ替ルヤ
  - 六 下水ヲ澀溜シ又ハ溝渠ヲ疎通セサルヤ
  - 七 浴場及洗桶等ハ清潔ナルヤ
  - 八 見隠シ又ハ戸障子等破壞シ又ハ之ヲ明ケ放チ置カサルヤ
  - 九 午後十二時後閉場セス又烈風ノ節焚火ヲ止メサルヤ
  - 十 浴客ノ物品取締届ケルヤ

- 十一 右ノ外規則ニ抵觸セサルヤ
- 十二 右ノ外危險ノ虞ナキヤ又風俗衛生等ニ害ナキヤ

附則

- 一 浴場ノ新造改造ヲ願出ルルハ第七條第一項ノ制限ニ依ラシムヘシト雖  
凡既設ノモノニシテ不得已分ハ洗場ヨリ湯室迄ニ區域ヲ設ケシメ洗場  
ヨリ男女出入口ニ至ル迄ノ區域ハ本則施行ノ日ヨリ一ケ年以内猶豫ヲ  
與フルモ妨ケナシ
- 二 礦泉藥湯盥湯等ニシテ一般湯屋ト其情況ヲ異ニシ實際本則ニ據ラシ  
メ難キモノハ其事由ヲ盡シ本部長ニ伺出指揮ヲ受クヘシ
- 三 右第一項及本則ノ附則第二項ニ依リ免許ヲ與ヘタルルハ其期限ヲ臺  
帳ニ記入スベシ

第三款 雇人請宿取締規則

▲甲第卅三號 (明治十五年二月一日)

明治十四年(十二月)甲第二百號布達雇人請宿取締規則左之通改定候條此旨  
布達候事

但從來營業者ト雖トモ此規則ヲ遵守シ來ル二月二十八日迄ニ鑑札ヲ受ク  
ヘシ

雇人請宿取締規則

- 第一條 雇人請宿ヲ新規ニ開業セントスルトキハ所轄警察署へ願出鑑札ヲ  
受クヘシ改名代替等ノ砌リ營業繼續セントスル者亦同シ
- 第二條 水火盜難等ニ罹リ鑑札ヲ遺毀シタルモノハ其事由ヲ詳記シ第一條  
ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ
- 第三條 甲警察署所轄地ヲ離レ乙警察署所轄内ニ移住シ營業セントスルト  
キハ甲署へ鑑札返納シ更ニ乙所轄警察署へ願出鑑札ヲ受クヘシ尙ホ轉業  
廢業死亡又ハ他管下へ移住等ノ節ハ其段届出鑑札返納スヘシ  
但一警察署部内ニ於テ移住スルトキハ其移住地ヲ詳記シタル書面ヲ以  
テ直ニ届出鑑札ノ訂正ヲ受クヘシ
- 第四條 無鑑札ニテ營業シ若クハ鑑札ヲ他人ニ貸與ヘ又ハ他人ヨリ借受ク  
ルヲ禁ス
- 第五條 雇人請宿營業人ハ雇人名前帳ヲ作り其本籍姓名職業年齡并ニ年月  
日何所何某ノ雇人ニ口入セシコトヲ詳記シ變換ノ都度加除ヲ加ヘ他日調  
査ノ用ニ供スヘシ
- 第六條 本籍不分明ノモノハ決シテ口入ヲナスヘカラス若シ怪シキ者ト見  
認ルニ於テハ速カニ警察署又ハ分署へ密告スヘシ
- 第七條 雇人名前帳ハ時トシテ警察官吏臨檢スルコトアルヘシ
- 第八條 第一條第三條ノ場合ニ於テハ願濟届濟ノ上速カニ所管郡役所へ届



出ツヘシ

第九條 此業則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラル、ノ外警察署ニ於テ鑑札取上ケニケ年以内營業ヲ停止スルコアルヘシ

第四款 雇人受宿鑑札願出市町村長ノ奥印ヲ

要スル件

▲甲第四百十號 (明治十五年七月八日)

本年甲第卅三號布達雇人請宿取締規則ニ依リ鑑札願出ノキハ所屬市町村長ノ奥書印ヲ受ケテ差出スヘシ此旨布達候事

### 第四章 人力車及馬車

#### 第一款 營業人力車取締規則

▲三重縣令第三十六號 (明治二十七年四月二十四日)

明治二十年本縣令第四十九號營業人力車取締規則左ノ通改正ス

營業人力車取締規則

#### 第一章 通則

第一條 人力車營業ヲ爲サントスル者ハ警察署又ハ分署ニ願出免許証ヲ受ケルヘシ

第二條 營業者ハ車夫ノ住所族籍氏名年齢ヲ記シ警察署又ハ分署ニ願出人ニ付鑑札一個ヲ受ケヘシ

第三條 營業者自ラ車夫タル者ハ總テ車夫ノ例ニ從フヘシ

第四條 營業者及車夫ノ開廢轉居改氏名ニ關スル願書ハ取締人ノ加印ヲ受ケ差出スヘシ

第五條 車夫ノ鑑札ハ毎年一回警察署又ハ分署ノ指定スル期月ニ檢印ヲ受ケヘシ其檢印ヲ受ケサルモノハ無効トス

第六條 車体ハ毎年二回警察署又ハ分署ノ指定スル期月ニ檢査ヲ受ケ其證ヲ受ケヘシ其新造改造又ハ買受讓受ヲ爲シ或ハ新ニ營業セントスル時ハ定期ニ拘ハラス其檢査ヲ受ケ其證ヲ受ケヘシ

第七條 車体檢査證ハ車ノ隣込正面ニ附着スヘシ

第八條 免許證檢査證鑑札ハ之ヲ貸與若クハ他ニ預ケ置クヘカラス

第九條 檢査證アル車タリトモ第十二條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認ムル時ハ警察官吏ニ於テ其使用ヲ差止ムヘシ

第十條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ警察署又ハ分署ニ届出其書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

- 一 轉居改氏名其他免許證檢査證鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
- 二 免許證檢査證鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第十一條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ警察署又ハ分署ニ届出免許證檢査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

但營業者失踪逃亡若クハ死去シタル時ハ其相續人又ハ最近ノ親族ヨリ本文ノ手續ヲナスヘシ

一 廢業又ハ廢車シタル時

二 人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時

三 車夫ヲ解僱シ又ハ營業者其兼業ヲ止メタル時

四 車夫ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時

五 車夫タルノ資格ヲ失ヒタル時

第十二條 營業用ノ人力車ハ車体ノ構造堅牢完全ニシテ泥除及清潔ノ附屬品ヲ具備シタルモノタルヘシ

第十三條 車夫ハ年齢滿十六歳以上ノ男子ニシテ身体強壯ナル者ニ限ルヘシ

第十四條 取締規則ニ違背シテ再三處罰ヲ受ケ將來改悛ノ狀ナキ者ハ營業者若クハ車夫タルノ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ己ニ免許ヲ與ヘタル後ト雖モ其免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十五條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ車夫タルノ免許ヲ與ヘス

但第一項ノ竊盜罪第二項ノ傷及第三項ノ罪ヲ犯シタルモノニシテ改悛

ノ狀著ルシキ者ハ特ニ車夫タルヲ許スコトアルヘシ

一 強竊盜強姦及幼者ヲ容取誘拐スル罪ヲ犯シタル者

二 過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者

三 詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者

四 監視中ノ者

第十六條 人力車ノ賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ其變更セントスル時亦同シ

第十七條 營業者ハ一定ノ場所ニ人力車駐車場ヲ設ケ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ其變更シタル時亦同シ

但駐車場ニハ賃錢表ヲ揭示スヘシ

第二章 車夫心得

第十八條 車夫ノ服装ハ清潔ヲ旨トシ汚穢不体裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第十九條 袒裼裸体ヲ爲シ又ハ腹股臀部ヲ現ハシテ車ヲ輓クヘカラス

第二十條 車夫ハ鑑札及賃錢表ヲ所持シ警察官吏又ニ乗客ノ見ンコトヲ求メタル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十一條 車中ニハ常ニ提灯蠟燭摺附木ヲ用意スヘシ

第二十二條 路上ニ彷徨佇立シテ往來人ニ對シ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第二十三條 乗客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乗セ替ヘ又ハ濫リニ駐車スヘカラス

第二十四條 駐車場ノ外濫リニ車ヲ置クヘカラス

但往來ノ妨害トナラサル場所ニ一時駐車スルハ妨ケナシ

第二十五條 乗客ノ指定セサル宿屋飲食店及其他ノ場所ニ輓入ルヘカラス

第二十六條 制止ヲ肯ONSESシテ出火場其他人ノ群集シタル場所ニ輓入ルヘカラス

第二十七條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十八條 人力車ノ通行避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬及歩行者ニ行逢フ時ハ左ニ避クヘシ

二 貨車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスル時ハ後車ヨ懸リケ聲ヲナシ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

四 郵便用消防用ニ供スル車馬及灌水車又ハ葬送其他公式ノ行列ニ行逢フ時ハ速ニ避讓スヘシ

第二十九條 往來雜踏又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スル時ハ徐行シ且懸ケ聲ヲナシ街角ヲ過グル時ハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第三十一條 夜中ハ燈火ナクシテ車ヲ輓クヘカラス

但空車ノ時ハ此限ニアラス

第三十二條 客ヲ乗載シタル儘車ヲ離レスシテ使用ヲ爲スヘカラス

第三十三條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十四條 乗客ニ於テ徐行又ハ停車ヲ要スル時ハ前條ノ場合ヲ除クノ外其求メニ應スヘシ

第三十五條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アル時ハ直ニ還付スヘシ其主分明ナラサル時ハ速ニ警察署分署又ハ警察官吏ニ届出ヘシ

但乗客用辨ノ爲メ降車スルニ當リ其物品アル時ハ特ニ寄托ナキモ紛失セサル様注意スヘシ

第三十六條 一人乗ニ二人、二人乗ニ三人以上ヲ乗載スヘカラス

但十歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ七歳未満ノ者ハ定員外トス

第三十七條 左ニ記載シタル者ハ人力車ニ乗載スヘカラス

- 一 六種傳染病疥癬瘋癩患者
- 二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ發スル物品

第三十八條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ハ勿論約束外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第三十九條 客ノ求メアリタル時ハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

但暴行者及看護人ナキ瘋癲人ハ此限ニアラス

第三章 營業組合

第四十條 營業者ハ營業上ノ協同一致ヲ計ルタメ警察署ノ指定スル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第四十一條 組合ハ組合規約ヲ定メ警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ其規約ヲ變更セントスル時亦同シ

第四十二條 組合ニハ取締人正副各一名ヲ置キ取締所ヲ設ケ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ其變更シタル時亦同シ

但組合ノ便宜ニ依リ副取締人ヲ置カサルコトヲ得

第四十三條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラザレハ取締人タルコトヲ得ス  
一 年齢二十五歳以上ノ者

二 組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者

三 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

第四十四條 取締人ハ營業ニ關スル諸規則命令ニ從ヒ組合營業者ノ取締ヲ

ナシ專ラ行客ノ利便ヲ謀ルヘシ

第四十五條 營業者ハ其他ノ組合ニ加入スヘシ組合ニ加入セサル者ハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第四十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ

第四十七條 組合規約中ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

但違約者ノ處分ハ違約金停業除名ノ三種トナスヘシ

一 取締人ノ任期及撰舉方法

一 組合費用ノ收支方法

一 違約者處分方法

一 右ノ外營業上必要ノ事項

第四十八條 組合ノ決議ニ依リ同業者ノ組合加入ヲ拒ミ又ハ規約ニ依リ處分シタル者アル時ハ其事由及氏名ヲ警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

前項ノ決議若クハ處分ニシテ正當ナラスト認ムル時ハ取消ヲ命スルコトアルヘシ

第四十九條 各地組合ノ便宜ニ依リ數組合ノ聯合組合ヲ設クコトヲ得

第五十條 前條聯合組合ヲ設ケントスルトキハ聊台組合ノ名稱規約及總取締人正副一名ヲ定メ警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四章 罰則

- 第五十一條 第一條第二條第三條第六條第八條第十六條第三十八條第三十九條ニ違背シタル者及第四十五條ニ違背シテ營業シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
  - 第五十二條 第十七條第二十二條第二十三條第二十五條第三十五條第三十六條ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
  - 第五十三條 第十九條第二十條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
  - 第五十四條 第七條第十條第十一條第二十一條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十七條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス
  - 第五十五條 第十八條第二十四條ニ違背シテ警察官吏ノ制止ニ從ハサル者亦同シ
- 第五十五條 刑法又ハ三重縣違警罪目ニ正條アルモノハ各其本法ニ從フ
- 附則
- 一 本則ハ明治二十七年五月一日ヨリ施行ス
  - 二 従前ノ營業者ニシテ引續キ營業チナサントスル者ハ更ニ願出ニ及ハサルモノトス

第二款 乘合馬車取締規則

▲三重縣令第三十七號 (明治二十七年四月二十四日)

明治二十年本縣令第四十九號乘合馬車取締規則左ノ通改正ス

乘合馬車取締規則

第一章 通則

- 第一條 乘合馬車營業チ爲サントスル者ハ警察署又ハ分署ニ願出免許證ヲ受クヘシ
- 第二條 營業者ハ馭者馬丁ノ住所族籍氏名年齢ヲ記シ警察署又ハ分署ニ願出一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ
- 第三條 營業者自ラ馭者馬丁ノ業チナサントスル時ハ總テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ
- 第四條 馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年一回警察署又ハ分署ノ指定スル期月ニ檢印ヲ受クヘシ其檢印ヲ受ケサルモノハ無効トス
- 第五條 車体及馬匹ハ毎年二回警察署又ハ分署ノ指定スル期月ニ檢査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其買受讓受チナシ又ハ車体ヲ新造改造シ若クハ新ニ營業セントスル時ハ定期ニ拘ハラス其檢査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ
- 第六條 車体檢査證ハ車体内部ノ見易キ所ニ附着シ馬匹檢査證ハ其頸輪ニ結着スヘシ

第七條、免許證檢査證鑑札ハ之ヲ貸與若クハ他ニ預ケ置クヘカラス

第八條、檢査證アル車馬タリトモ第十三條第十四條ノ制限ニ適セス又ハ其車体器具ノ破損不潔ニ至リ若クハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ認ムルトキハ警察官吏ニ於テ其使用ヲ差止ムヘシ

第九條、左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ警察署又ハ分署ニ届出其書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

- 一 轉居改氏名其他免許證檢査證鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
- 二 免許證檢査證鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第十條、左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ警察署又ハ分署ニ届出免許證檢査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ、

但營業者失踪逃亡若クハ死去シタルトキハ其相續人又ハ最近ノ親族ヨリ本人ノ手續ヲナスヘシ

- 一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時
- 二 車馬ヲ賣買シ又ハ讓渡シタル時
- 三 馭者馬丁ヲ解傭シ又ハ營業者其兼業ヲ止メタル時
- 四 馭者馬丁ノ失踪逃亡若クハ死去シタルトキ
- 五 馭者馬丁其資格ヲ失ヒタルトキ

第十一條、馬車ヲ運轉スルニ馭車馬丁ヲ缺クヘカラス

第十二條、左ノ木札ヲ作り乗客ノ定員ヲ明記シ車内ノ見易キ所ニ附着スヘシ

用材適宜	豎八寸	横六寸
第何號(車体檢査證ノ番號)	何郡町村	之誰
乗客定員	何人	
但十歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人ノ割合トシ七歳未満ノモノハ定員外トス		

第十三條、車体ノ構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 車体ノ構造ハ堅牢完全ニシテ四個以上ノ車輪ヲ有シ及適當ノ駐車器ヲ備フヘシ
- 二 車体ノ外部ニ出タル車輪ニハ泥除ヲ設クヘシ
- 三 車体ノ前後ニハ硝子燈各一個ヲ備フヘシ
- 四 客座用ノ附屬品ハ總テ清潔ノモノタルヘシ
- 五 運轉器心棒發條力革手綱及其他ノ器具ハ堅牢強韌ノモノヲ用ユヘシ

第十四條 馬匹ハ三才以上ニシテ強壯ナルモノニ限ルヘシ

第十五條 馭者馬丁ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ

一 馭者ハ滿二十歳以上馬丁ハ滿十六歳以上ノ男子ニシテ身体強壯ナル者

二 馭者ハ馭術ニ熟達シタル者

第十六條 前條ノ資格ニ適合スルモノタリトモ醉狂又ハ暴行ノ癖アル者若クハ強窃盜強姦及過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ馭者馬丁タルノ免許ヲ與ヘス其他ノ犯罪タリトモ監視中ノ者亦同シ

但本條窃盜罪及傷罪ヲ犯シタル者ニシテ改悛ノ狀著ルシキ者ハ特ニ之ヲ許スコトアルヘシ

第十七條 營業者ニ於テ組合ヲ設ケントスルトキハ組合規約ヲ定メ警察署又ハ分署ヲ認可ヲ受クヘシ

第二章 馭者馬丁心得

第十八條 馭者馬丁ノ服装ハ清潔ヲ旨トシ汚穢不体裁ノ形裝ヲナスヘカラス

第十九條 馭者馬丁ハ常ニ鑑札ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見ンコトヲ求メタル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス若シ馭者避クヘカラス事故アル時

ハ馬丁ヲシテ馬車ノ管守ヲナサシムヘシ

第二十一條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲナスヘシ

第二十二條 乗客着席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第二十三條 乗客中粗暴ノ所爲アル時ハ之ヲ制止シ若シ肯セザル時ハ降車セシムシ

第二十四條 馭者臺ニ客ヲ乗載スヘカラス又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲナサスシテ物品ヲ載スヘカラス

第二十五條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス

但乗客ノ爲メ往來ノ妨害トナラサル場所ニ一時停車スルハ妨ケナシ

第二十六條 制止ヲ肯セス出火場其他群集ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス

第二十七條 他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス

第二十八條 往來人ニ對シ強テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲナスヘカラス

第二十九條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫リニ疾驅シ若クハ競争スヘカラス

第三十條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬及歩行者ニ行逢フ時ハ左ニ避クヘシ

二 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

- 三 前車徐行シ後車疾行セントスル時ハ後車ヨリ掛聲ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
- 四 郵便用消防用ノ車馬及灌水車並ニ葬送其他公式ノ行列ニ行逢フ時ハ避讓スヘシ
- 第三十一條 二車以上引續キ行進スル時ハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ
- 第三十二條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スル時ハ徐行シ掛聲ヲナシ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ
- 但街角ニ於テハ右ハ大廻リナシ左ハ小廻リヲナスヘシ
- 第三十三條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス
- 第三十四條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス
- 第三十五條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス
- 第三十六條 車体馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ
- 第三十七條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之レアル時ハ直ニ返付スヘシ其主分明ナラサル時ハ速ニ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第三十八條 一頭立馬車ハ六名二頭立八十名ヲ以テ定員トス
- 第三十九條 定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス

但十歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人ノ割合トシ七歳未満ノ者ハ定員外トス

第四十條 左ニ記載シタル者ハ乗載スヘカラス

- 一 六種傳染病疥癬癩病其他乗客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アル者
- 二 瘋癲人暴行亂醉者
- 三 汚穢物其他惡臭ヲ發スル物品

第三章 賃錢及駐車場

第四十一條 營業者ハ馬車ノ賃錢ヲ定メ警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ其變更セントスル時亦同シ

第四十二條 馬車ノ賃錢ハ之ヲ明記シ車内及駐車場ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第四十三條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ハ勿論約束外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十四條 營業者ハ一定ノ場所ニ駐車場ヲ設ケ警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ其變更セントスル時亦同シ

第四十五條 駐車場ノ地盛ハ可成石煉瓦敷キ又ハ厚板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設クヘシ

第四十六條 駐車場ハ日々掃除ヲナシ常ニ清潔ナラシムヘシ



第四章 罰則

- 第四十七條 第一條第二條第三條第五條第七條第四十一條第四十三條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
  - 第四十八條 第二十四條第二十八條第三十七條第三十九條第四十二條第四十四條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五十五錢以下ノ科料ニ處ス
  - 第四十九條 第十二條第十九條第二十九條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
  - 第五十條 第六條第九條第十條第十一條第十二條第二十二條第二十七條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第四十條ニ違背シタルモノハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
  - 第十八條第二十五條第三十六條第四十六條ニ違背シ警察官吏ノ制止又ハ督促ヲ受ケテ肯セサル者亦同シ
  - 第五十一條 刑法ニ正條アルモノハ各其本法ニ從フ
- 附則
- 一 本則ハ明治廿七年五月一日ヨリ施行ス
  - 二 従前ノ營業者ニシテ引繼キ營業ヲナサントスル者ハ更ニ願出ニ及ハサ

ルモノトス

第三款 營業人力車取締規則取扱手續

▲三重縣訓令甲第二十六號 (明治廿七年四月二十四日)

警察 署  
警察 分署

營業人力車取締規則取扱手續左之通り相定ム

營業人力車取締規則取扱手續

- 第一條 人力車營業者若クハ鑑札下渡等ノ願書ヲ受領セハ速ニ調査ヲ加ヘ許否ノ手續ヲ爲スヘシ
- 前項出願ニ對シ免許ヲ與フヘキモノニアラスト思料シ若クハ改悛ノ情著シキモノト認メ特ニ免許ヲ與ヘントスルトキハ其事由ヲ詳具シ指揮ヲ待ツテ處分スヘシ其免許ヲ取消サントスルトキ亦同シ
- 第二條 臺帳ヲ製シ種類毎ニ部門ヲ分ツテ記入スヘシ
- 第三條 營業免許證ハ指令書ヲ以テ代用ス其鑑札ヲ與フルモノハ指令書ヲ交付セス
- 第四條 鑑札及檢査證ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ

鑑札 用材適宜 竪四寸横三寸厚二分

第何號	何國何郡市町村番地 何組合何之誰車夫	何之誰	明治年月日	當何月何年何月	明治年月日	明治年月日
			明治年月日 某署	烙印		
						烙印

營業者自ラ車ヲ轆クモノハ何組合車夫ト記スヘシ

検査證 用材適宜 竪四寸 厚四分

第何號	何國何郡市町村何番地 何組合何之誰車	明治年月日	某署	烙印
	人力車検査證	明治年月日	某署	烙印

第五條 規則第六條ノ検査ハ期月ヲ指定セサルヲ以テ隣接各署協議シ可成  
一時ニ之ヲ行フヘシ

但規則第五條ノ検査ハ第六條定期中ノ一回ト同時ニ行フヘシ

第六條 前條検査ノ外巡查ヲシテ途中又ハ駐車場ニ於テ時々検査ヲ行ハシ  
ノ規則第十二條及第十八條ノ實行ヲ期スヘシ

第七條 規則第九條ノ使用ヲ差止ムル場合ハ車体ノ不完全ナルトキニ限り  
其附屬品ハ日限ヲ定メテ修補ヲ命スヘシ

第八條 規則第十二條ノ車体構造附屬品及第十八條ノ服装ハ不潔不体裁ナ  
カラシムル爲メ左ノ標準ニ依リ組合規約ヲ以テ一定セシムヘシ

一 車体ハ無地黒塗中張ハ清潔ニシテ染色ノ他ヲ汚染セサルモノタルコト

一 ゴム引又ハ桐油製ノ母衣前掛ヲ備フルコト

一 清潔ナル蒲團及膝掛(冬ハ毛布夏ハ白布)ヲ備フルコト

一 組合名及車体ノ番號ヲ記シタル提灯ヲ備フルコト

一 着服ハ可成紺黒又ハ白ノ法被筒袖股引半股引ノ類ヲ用ユルコト

一 冠リ物ハ帽子又ハ饅頭笠ヲ用ユルコト

一 雨具ハゴム引又ハ桐油製ノモノヲ用ユルコト

第九條 駐車場ハ營業者自己ノ費用ヲ以テ私有地ニ設ケシムヘシ

第十條 組合區畫ハ警察所轄ノ區域ニ依ラシムヘシト雖モ土地ノ狀況ト取

締上ノ便否ヲ謀リ三區以下ニ分割スルモ妨ケナシ

第十一條 組合取締所ハ成ルヘク警察署又ハ分署所在地ニ設ケシムルヲ要ス

第十二條 規則第四十一條ノ規約ヲ受ケタルトキハ左ノ各項ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ

- 一 組合規約成立ニ付營業者間ニ苦情ナキヤ
- 一 組合ニ關スル費用ノ賦課公平ナリヤ
- 一 組合違約金過重ナラサルヤ

第十三條 組合取締人組合取締所設置ノ届ヲ受ケタルトキハ其都度寫ヲ以テ警部長ニ報告スヘシ

第十四條 規則第四十八條ノ届ヲ受ケタルトキ正當ナラスト認ムルモノハ詳細ノ事情ヲ具シ意見ヲ附シ進達スヘシ

但違約金處分ノ届書ハ正當ナラスト認ムルモノ、外其署ニ留置キ進達スルニ及ハス

第十五條 規則第五十條ノ届書ヲ受ケタルトキハ正副取締人ノ身元並ニ同業者間ノ信否如何等詳細ノ意見ヲ附シ進達スヘシ

第十六條 人力車賃錢ハ左ノ標準ニ依リ認可スヘシ

人力車賃錢標準

第一 東海道 伊勢街道 伊勢別街道	十八丁	賃	
		一人	二人
第二 何街道	十八丁	金貳錢五厘以内	金三錢五厘以内
第三 右ノ外各街道	十八丁	金三錢以内	金四錢以内
第四 市街 <small>近傍接續</small> 町村トモ	十八丁	金三錢五厘以内	金五錢五厘以内
第五 六時間雇切		金三拾錢以内	金四拾錢以内
第六 雇切七時間以上ハ一時間ヲ加フル 毎ニ		金四錢以内	金五錢以内
第七 雇切ニアラサル客待三十分以上ハ 三十分ヲ加フル毎ニ		金壹錢五厘以内	金壹錢五厘以内

一夜中發車又ハ途中夜ニ入ル時或ハ雨雪ニテ泥濘ノ時ハ本表ニ二割以内ヲ増加ス

一 二人輓ハ本表賃錢ノ三倍以内トス 三人輓以上ハ車夫一人ヲ増ス毎ニ二人輓賃錢ノ半額以内ヲ遞加ス

一 暴風雨又ハ積雪ノ時ハ本表ノ二倍以内トス

一 二人乗ト雖一人ヲ乗載スル時ハ一人ノ賃錢ニ同シ

一十八丁未滿ハ尙ホ十八丁ニ同シ  
 但市街地ハ十八丁ヲ出ツル時ハ其十九丁以上ノ里程ニ限り第一道ノ賃  
 錢ニ據リ計算ス  
 一保護人アル七歳未滿ノ者ハ賃錢ヲ要セス十歳未滿ノ者ハ半額トス  
 但單ニ一人ヲ乗載スル時ハ仍ホ一人ノ賃錢ニ同シ  
 一市街地停車場線等十八丁以上ハ本表ニ據リ可成何所ヨリ何所迄何錢ト規  
 定セシムヘシ  
 一國縣道筋及其他ノ道路其本表ニ據リ可成何驛何所ヨリ何驛何所迄何錢ト規  
 定セシムヘシ

第四款 乗合馬車取締規則取扱手續

▲三重縣訓令甲第三十七號 (明治廿一年四月二十四日)

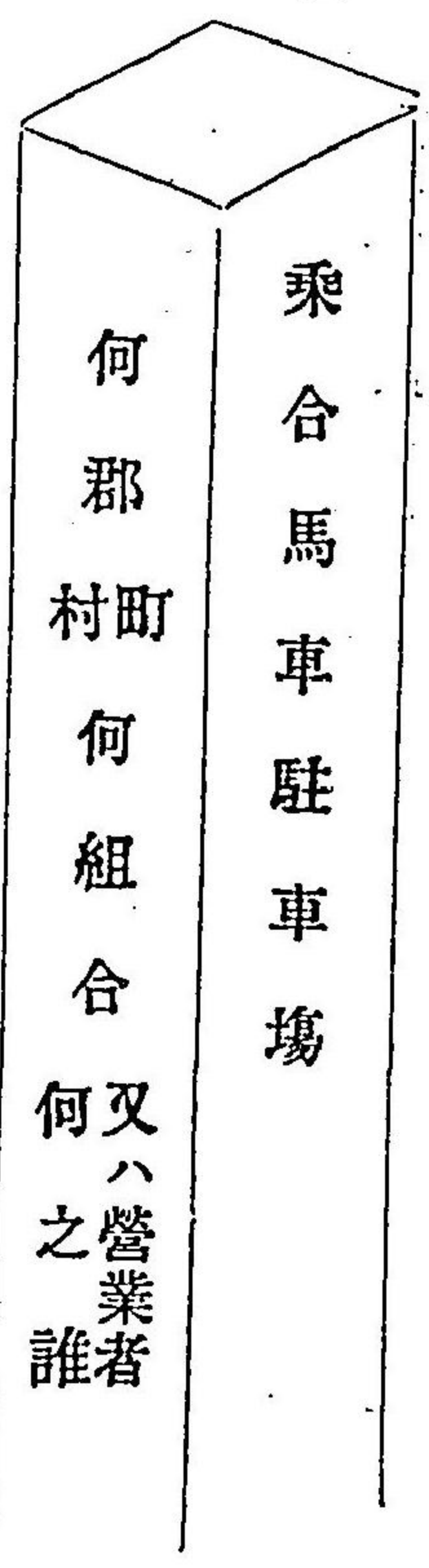
警察署  
 警察分署

乗合馬車取締規則取扱手續左ノ通相定ム

乗合馬車取締規則取扱手續

第一條 營業人力車取締規則取扱手續第一條第二條第三條第四條第五條第  
 六條ハ此取扱ニ適用スヘシ  
 第二條 規則第八條ノ使用ヲ差止ムル場合ハ其抵觸スルモノ、檢査証ヲ引

揚ケ其制限ニ適スルヲ待ツテ之ヲ交付スヘシ  
 第三條 駐車場ハ營業者自己ノ費用ヲ以テ私有地内ニ設ケシメ左ノ標識ヲ  
 建設セシムヘシ  
 用材適宜 地上六尺



第四條 規則第十七條ニ依リ規合規約ヲ設ケ認可ヲ乞フ時ハ精密調査ヲ加  
 ヘ不都合ナシト認ムルモノハ認可スヘシ  
 但認可スヘカラスト認ムルモノハ意見ヲ具シ進達シ指揮ヲ待ツテ處分  
 スヘシ  
 第五條 前條規約ヲ認可シタル時ハ寫ヲ以テ警部長ニ報告スヘシ  
 第六條 規則第十八條馭者馬丁ノ服裝ハ營業人力車取締規則取扱手續第十  
 條車夫ノ例ニ依ルヘシ  
 但組合ノ設ケナキ地ハ營業者ニ指示シテ一定セシムヘシ  
 第七條 馬車賃錢ハ左ノ標準ニ依リテ認可スヘシ

馬車賃錢標準

	質	錢
	一	人 = 付
第一	東海道 伊勢街道 伊勢別街道	十八丁 金壹錢五厘以內
第二	右之外各道	十八丁 貳錢以內
第三	壹臺雇切	六時間 金壹圓貳拾錢以內
第四	壹臺雇切六時間以上ハ一時間ヲ加フル 毎二	金貳拾錢以內

一夜中發車又ハ途中夜ニ入ル時又ハ雨雪ニテ泥濘ノ時ハ本表ニ二割以內ヲ增加ス

一 壹臺雇切二頭輓ナル時ハ本表ニ五割以內ヲ增加ス

一 十八丁未滿ハ仍ホ十八丁ニ同シ

一 保護人アル七歳未滿ノ者ハ賃錢ヲ要セス十歳未滿ノ者ハ半額トス  
但單ニ一人ヲ乗載スル時ハ仍ホ一人ノ賃錢ニ同シ

一 國縣道筋及其他ノ道路共本表ニ據リ可成何驛何所ヨリ何驛何所迄何錢ト規定セシムヘシ

第五款 車夫馭者馬丁形裝ノ件

▲警訓第十七號 (明治廿七年四月二十八日)

營業人力車取締規則乘合馬車取締規則改定相成車夫馭者馬丁ハ不体裁ノ形裝ヲナスヘカラスト有之候處煩冠リ鉢巻端折等ハ右包含スルモノナルニ付嚴重制止スル義ト心得フ可シ  
右各署ニ訓示ス

第五章 渡船及汽船舢舨取締規則

第一款 渡船營業取締規則

▲三重縣令第五十八號 (明治二十年六月三十一日)

陸運受負營業取締規則渡船營業取締規則左之通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス(本令中陸運受負營業取締規則ハ明治二十三年十二月縣令五十四號ニテ削除)

但營業人ハ九月卅日マテニ出願許可ヲ請フヘシ

渡船營業取締規則

第一條 渡船營業ヲ爲サントスル者ハ其國縣道線ニ係ル者ハ縣廳、里道ニ係ル者ハ郡役所へ願出許可ヲ請ケ廢業スルハ其旨ヲ届出ヘシ

第二條 渡船營業出願ノ際ハ左ノ各項ヲ詳記シタル書面並ニ關係町村ノ承

諾書ヲ添付スヘシ

一 人馬車等運テ渡舟賃ノ定額

一 渡舟ノ構造

一 渡守ノ人員(平素何人出水ノ際何人ト記スルヲ要ス)

一 河幅及其水量(平水何程出水ノ際何程ト記スヘシ)

第三條 渡舟場ニハ賃錢額ヲ明記シタル標札ヲ建設スヘシ

第四條 旅人渡舟ヲ要スルハ速ニ之ニ應シ故ナクシテ延滞セシムヘカラス

第五條 出水ニ際シ危險ノ虞アルハ決シテ舟ヲ出スヘカス

第六條 旅人群到ノ際ト雖モ猥リニ多數ノ牛馬車ヲ乗載シ轉覆ヲ招ク等ノ事ナキ様注意スヘシ

第七條 如何ナル口實アルモ定限外ノ渡舟賃錢ヲ請クヘカラス

第八條 渡舟賃錢ヲ増減セントスルトキハ第一條ノ手續ニヨリ許可ヲ請クヘシ

第九條 渡舟營業ノ許可ヲ受ケ又ハ廢業シタルトキハ其書面ノ寫ヲ添ヘ所轄警察署ヘ届出ヘシ

但第八條ノ場合ニ於テモ亦本條ニ準ス

### 第二款 汽船及舢舨切符販賣取締規則

▲三重縣訓令甲第二十二號 (明治二十六年四月七日)

汽船及舢舨切符販賣取締規則執行手續左ノ通相定ム

汽船及舢舨切符販賣取締規則

第一條 汽船航運營業ニ係ル願届書ヲ受理シタルトキハ速ニ調査ヲ加ヘ若シ規則ニ適セサル廉アラバ其事由ヲ諭示シテ訂正セシメ進達ノ手續ヲ爲スヘシ

但營業願書ニハ年齢ヲ記入セシムルヲ要ス

第二條 汽船及舢舨切符販賣營業者臺帳ヲ調製シ左ノ手續ニ依テ記載スヘシ

一 臺帳ハ汽船、航運營業、舢舨營業、水夫、切符販賣ノ六部門ニ分ツ者トス  
二 汽船ノ部ニハ規則第一條ノ事項及免許年月日營業者ノ業名姓名ヲ記入スルモノトス

三 舢舨ノ部ニハ其檢査證ニ掲記スヘキ事項及賃錢ヲ記入スルモノトス

四 舢舨ニハ一二三ノ番號ヲ起記ス番號ハ數年通シテ用フヘシ廢舢其他欠番號ヲ生シタルハ新規番號ヲ付スル毎ニ之ヲ補填スルモノトス  
五 航運營業舢舨營業水夫切符販賣ノ部ニハ各其業名免許又ハ届出年月日生所姓名ヲ記入スヘキモノトス

但航運營業者代理人ヲ定メテ届出タルトキハ本文ニ準シ其營業者ノ部ニ記スヘキモノトス

六 検査證面ノ異動若クハ其訂正再渡又ハ之ヲ返納シタルトキハ其事由年月日等ヲ記入スヘキモノトス

七 以上ノ外漁船乗客定員解舟賃錢乗船場所其他署長ニ於テ必要トスル事項ハ便宜記入スルモノトス

第三條 規則第一條ニ掲グル船員ノ外水夫其他乗組人ノ姓名ハ豫テ調査シ置キ異動ノ都度加除訂正スヘシ

第四條 解舟検査証ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製スヘシ  
用材適宜 横九寸 縦六寸

第何號 何縣何郡市大字何町村 何番地 營業者何ノ誰解舟	明治何年 何月何日交付
表 舟檢査証 乗客定員何名 未滿ノ者ハ定員外トス 貨物積量 水夫定員何名 風浪ノ際ニハ何名ヲ増加ス	裏 某 署 署名印

第五條 解舟乗客ノ定員ハ舟体ノ強弱ニ依リ相當ノ人員ヲ定ムヘシ  
其乗客ノ座席ニ供シ難キ場所及一人ノ座席ニ足ラサル端數ハ除棄スヘシ

第六條 航路ノ延長ナル神社ノ如キ場所ニ在テハ一坪ニ付乗客六人ノ割ヲ以テ定メシメ且ツ雨雪ノ際ニハ不潔ナラサル屋根ヲ設ケシムヘシ

第七條 水夫ノ定員ハ解舟ノ大小乗客定員ノ多寡ニ依リ之ヲ定メ且ツ風浪ノ際ニハ相當ノ員數ヲ増サシムヘシ

第八條 汽船解舟ノ検査及切符販賣ノ視察ハ必要ニ應ジ隨時之ヲ行フベシ  
但汽船検査ヲナシタルトキハ其日時ヲ關係各警察署長ニ内報スベシ

第九條 切符ハ乗船セシメ得ベキ員數ニ超過シテ發賣スベカラザルヲ以テ切符販賣者ニ於テハ其員數ヲ豫知シ得ヘキ方法ヲ設ケシムヘシ

第十條 乗客人名簿ハ甲乙二帳ヲ製シ毎日一帳ヲ出シテ交換セシメ且ツ巡查派出所若クハ駐在所ニ於テモ検査ヲ行フ等可成營業者ノ迷惑セサル様取扱フベシ

但同業ノ乗客ハ各自ノ住所姓名ヲ畧シ何地何某外同行幾人ト記スルモ妨ケナシ

第十一條 乗客貨物ノ積載及陸揚ヲ爲スベキ場所ハ實地検査ヲ行ヒ乗客ノ便宜ヲ缺クカ又ハ警察取締上適當ナラズト認ムルトキハ諭示シテ更定セシムヘシ

第十二條 舢舨賃錢ハ一艘雇切若干風浪増若干何歳以下若干手荷物何程迄ハ無賃等詳細ニ定メシメ明瞭ニ揭示セシムヘシ

第三款 漁船舢舨切符販賣取締規則

▲三重縣令第三十二號 (明治二十六年四月七日)

漁船及舢舨切符販賣取締規則左之通相定ム

漁船及舢舨切符販賣取締規則

第一章 漁船

第一條 漁船ニ旅客ヲ乗載シ本縣下ニ定繫場又ハ寄航場ヲ設ケ航運ノ業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記シタル書面ヲ添ヘ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ爾後其船數ヲ増加シ又ハ寄航場若クハ出港定日及時刻ヲ變更セントスルトキ亦同シ

但四日市、鳥羽、ヨリ神奈川縣下横濱ニ直航スルモノハ此限ニアラス

- 一 漁船名
- 二 定繫場
- 三 船主ノ族籍氏名
- 四 船長ノ族籍氏名
- 五 運轉手ノ族籍氏名
- 六 機關手ノ族籍氏名

七 登簿噸數

八 航路ノ定限

九 檢査證有効期限

十 旅客定員 上等、中等、下等

十一 公稱馬力

十二 最大氣壓

十三 漁機種類

十四 一時間速力

十五 寄港場

十六 出港定日及時刻

十七 乗客及貨物運賃表

第二條 臨時ニ出港スヘキ漁船ニシテ出港定日及時刻ヲ豫定スルコト能ハサルモノハ該地ヲ發スヘキ他ノ漁船ノ出港時刻前後一時間以上ヲ隔テ之ヲ定メ遅クトモ發船二十分前ニ警察署ニ届出ツヘシ

第三條 左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ縣廳ニ届出ツヘシ

- 一 第一條ノ各項(出願ヲ要スルモノヲ除ク)ニ變更アリタルトキ
- 二 廢船又ハ廢業シタルトキ
- 三 漁船ヲ賣却讓與シタルトキ



四 營業者轉居改姓名ヲナシタルトキ

第四條 營業者定繫場又ハ寄航地ニ居住セサルトキハ公務ヲ辨セシムル爲メ代理者ヲ置キ其住所姓名年齢ヲ記シ連署ヲ以テ縣廳ニ届出ツヘシ其届書面ニ變更アルトキ亦同シ

第五條 各船各室毎ニ等級及定員ヲ記シタル標札ヲ掲グヘシ  
但十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第六條 乗客及貨物運賃ハ明瞭ニ記載シ船中客室毎ニ揭示スヘシ

第七條 漁船發着ノ際ハ十秒ノ漁笛ニ聲ヲ發スヘシ

第八條 漁船ハ一時間内ニ二艘以上同方位ニ向ヒ出港スヘカラス若シ先發スヘキ漁船ニシテ事故ノ爲メニ時限ヲ遲延シダルトキハ後發ノ漁船ニ其時刻ヲ讓ルヘシ又漁船ノ速力ヲ競争シ其他乗客ノ安全ヲ缺クヘキ虞アル所業ヲナスヘカラス

第九條 寄航以外ノ地ニ於テ旅室若クハ貨物ヲ積載シ又ハ陸揚ナスヘカラス  
但難船其他變災ニ際シ不得止場合ハ此限ニアラ

第十條 臨時出船ヲ見合セ又ハ休業スルトキハ定時間前ニ警察署ニ届出ツヘシ

第十一條 漁船乗客ヲ乗載シタル他ノ船舶ヲ曳キ航行スヘカラス  
但難船救助ノ場合ハ此限ニアラス

第十二條 警察官吏ハ航運ノ狀況其他必要ト認ムル事項ニ就キ検査ノ爲メ何時タリトモ乗船スルコトアルヘシ

第十三條 警察官吏ハ甲板積ノ貨物過量ニシテ危険ト思料スルトキハ之ヲ減少セシメ又必要ト認ムルトキハ出航時間ヲ變更セシムルコトアルヘシ  
第十四條 乗客人員ハ等級ニ區別シ各津港發着毎ニ調ヘ置キ警察官吏ノ求メアルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十五條 明治六年八月布告第二百九十二號ノ手續ヲナサスシテ危害品ヲ船積シタルモノト認ムルトキハ警察官吏ハ検査ノタメ其荷造ヲ解カシメ又ハ搭載ヲ差止ルコトアルヘシ

第十六條 船内ニ於テ傳染病患者アリタルトキハ傳染病豫防規則ニ從ヒ消毒法ヲ施シ患者ハ他ノ健康者ト隔離シ置キ着港ノ上ハ旅客貨物ノ陸上ケヲ一時差止メ警察官吏ヘ届出指揮ヲ受クヘシ

第十七條 船内ニ遺留品アルトキハ其旨速ニ所有主ニ通知シ又ハ送り届ケノ手續ヲナスヘシ若シ其主分明ナラサルトキハ警察署ヘ届出ツヘシ  
第十八條 本章ニ依リ縣廳ニ差出スヘキ願届書ハ警察署ヲ經由スヘシ

第二章 艇舟

第十九條 舢舨營業ヲ爲サントスル者ハ水夫ノ族籍住所姓名年齢ヲ記シ警察署ニ届出ツヘシ

但營業者自ラ水夫ノ業ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第二十條 水夫ハ年齢滿十六年以上ノ男子ニシテ身体強壯ナル者ニ限ルヘシ

第二十一條 舢舨ハ一艘毎ニ左ノ事項ヲ定メ警察署ニ届出檢査ヲ受クヘシ爾後變更セントスルトキ亦同シ

但定員ハ壹坪(曲尺六尺四方)ニ付八人以内積量ハ拾五貫ヲ以テ一人ト看做シ水夫ハ二人以上トシテ取調フベシ

一 乘客定員

二 貨物積量

三 水夫人員

第二十二條 舢舨檢査証ハ舟中見易キ所ニ付着スヘシ

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ二日以内ニ警察署ニ届出其訂正又ハ再渡ヲ受クヘシ

一 轉居改姓名其他檢査証面ニ異動ヲ生シタルトキ

二 檢査証ヲ亡失シ又ハ文字不分明ニ至リタルトキ

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ警察署ニ届出檢査証ヲ返納スベシ

一 廢業又ハ廢舢舨シタルトキ

二 舢舨ヲ賣渡シ又ハ讓與シタルトキ

三 水夫ヲ解雇シ又ハ營業者其兼業ヲ止メタルトキ

四 水夫ノ失踪逃亡若クハ死去シタルトキ

第二十五條 舢舨賃錢ハ乘客ト貨物トヲ區別シテ之ヲ一定シ警察署ニ届出ツヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二十六條 舢舨賃錢ハ明瞭ニ記載シ乗船場及舟中見易キ所ニ掲示スベシ

第二十七條 乘客貨物ヲ積載及陸揚ヲ爲スベキ場所ハ之ヲ一定シ警察署ニ届出ツベシ爾後變更セントスルトキ亦同シ

第二十八條 水夫ノ定數ヲ缺キテ舢舨ヲ航行スベカラズ

第二十九條 水夫ハ酔酩シテ業ヲ執リ又ハ乘客ヲシテ遭運セシムベカラズ

第二十條 定リタル員數外ノ乘客又ハ貨物ヲ乗載スベカラズ但第五條但書ハ舢舨ニモ亦準用ス

第三章 切符販賣

第三十一條 航運營業者ニ於テ乗船切符賣捌所ヲ設ケ又ハ其他ノ者ニ於テ之ヲ販賣セントスルトキハ其場所ヲ記シ警察署ニ届出ツヘシ爾後其場所ヲ變更セントスルトキ亦同シ

但販賣ヲ止メタルトキハ七日以内ニ其旨届出ツヘシ

第三十二條 切符ニハ運賃實價及船名ヲ記入シ且其賣捌所名ヲ付記スヘシ

第三十三條 切符ハ船中及賣捌所ノ外ニ於テ販賣スヘカラス

第三十四條 切符ハ各船各室ノ定員ニ應シ該地ニ於テ乗船セシメ得ベキ員數ニ超過シテ販賣スヘカラス

第三十五條 何人ニ拘ハラス強テ乗客ヲ勸誘シ或ハ客引ヲ使用シ其他方法如何ヲ問ハス旅客ノ迷惑トナルヘキ所業ヲ爲スヘカラス

第三十六條 乗客及貨物ノ運賃ハ明瞭ニ記載シテ賣捌所ノ見易キ箇所ニ掲示スヘシ

第三十七條 賣捌所ハ乗客人名簿ヲ調製シ警察署ノ契印ヲ受ケ切符賣捌ノ都度其住所姓名乗船名先行地ヲ記入シ置クヘシ

第三十八條 乗客人名簿ハ警察署ノ指定スル期日場所ニ於テ検査ヲ受クヘシ

第四章 罰則

第三十九條 左ニ掲グルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一 第一條第二條ヲ犯シ航運ヲ爲シタル者

一 第八條第九條第十一條第十六條ヲ犯シタル船長

一 第三十四條ヲ犯シタル切符販賣者及航運業者又ハ其代理者

一 第三十五條ヲ犯シタル者

一 第十二條ニ依リ警察官吏ノ乗船ヲ拒ミ又ハ第十三條第十五條ニ違ヒ其命令ニ從ハサル航運業者又ハ其代理者若クハ船長

第四十條 左ニ掲グルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

一 第四條第十條ヲ犯シタル航運業者又ハ其代理者

一 第十九條ヲ犯シ舢舨ヲ出シタル者

一 第二十一條第二十七條ヲ犯シタル舢舨業者

一 第二十八條第二十九條第三十條ヲ犯シタル水夫

一 第三十一條本文ヲ犯シ切符ヲ販賣シタル者

一 第三十三條ヲ犯シタル切符販賣者及航運業者又ハ其代理者

一 無届ナルニ水夫ノ業ヲ執リ又ハ届出以外ノ場所ニ於テ乗客貨物ノ積載陸揚ヲ爲シタル水夫

第四十一條 左ニ掲グルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一 第三條第一項ヲ犯シタル航運業者又ハ其代理者

一 第七條第十四條ヲ犯シタル船長

一 第二十三條第二十五條ヲ犯シタル舢舨業者

一第三十二條第三十七條第三十八條ヲ犯シタル切符販賣者  
 一第五條本文第六條第二十二條第二十六條第三十六條ニ違ヒ警察官吏ノ  
 督促ニ從ハサル航運營業者又ハ其代理者若クハ舢舨營業者切符販賣者  
 附則  
 一本則ハ明治二十六年四月二十日ヨリ施行ス  
 但現今營業者ハ同十五日ニ本則ニ據リ願届チナスヘシ

○第六編 衛生

第一章 傳染病豫防法

第一款 發疹瘰癧扶私及腸室扶私兩症ノ辨識

▲甲第四百四十四號 (明治十三年十一月一日)

發疹瘰癧扶私腸室扶私辨識方ニ付別冊ノ通り内務省衛生局第十五號ヲ以テ報  
 告相成候條此旨衛生委員醫師ヘ布達候事  
 内務省衛生局報告第十五號 (明治十三年八月十一日發行)

發疹瘰癧扶私及腸室扶私兩症ノ辨識

發疹瘰癧扶私及腸室扶私ノ二病ハ其病候チ同クスル所アルチ以テ爾來此二病  
 チ辨別スルチ得サリシニ二三十年以來病屍剖檢及診斷學ノ進歩セシチ以テ  
 其病ノ疹徵及剖觀ノ大異アルト其傳染性ノ劇易アルトチ知ルチ得タリ今此  
 二病ノ全然其性チ異ニスルチ知ラスシテ唯其名稱ノ畧相似タルヨリ診斷ノ  
 際彼此チ辨別セサルトキハ幸ニシテ其治療ノ法チ誤ルコトナシト雖トモ其  
 ノ豫防ノ方法ニ至リテハ大ニ異ナル所アリ故ニ若シ腸室扶私ノ患者ニ發疹  
 瘰癧扶私豫防ノ嚴法チ遵守セシメハ曾ニ其目的チ達スル能ハサルノミナラス  
 徒ニ病家ノ困苦チ招クヤト多カルヘシ因テ二病相異ル所チ畧記シテ爰ニ報  
 告ス

發疹蜜扶私

- 一 傳染ノ性最モ強烈ナリ
- 二 一回發スレハ蔓延流行スルヲ常トス
- 三 此病ニ罹ルハ其年齒ノ長幼ニ拘ハラスト雖凡亦時アリテ多ク老者ヲ侵スコトアリ
- 四 發病ニ先チ前兆至テ短ク大概寒戰シテ後病候ヲ頓發ス
- 五 顔面潮紅眼目赤色ヲ呈ス
- 六 病初ヨリ讒語及精神痴鈍ヲ發ス
- 七 發疹ノ色暗紅ニシテ全身ニ布滿ス
- 八 体力大ニ虚脱ス
- 九 腹部ノ發症ナシ大抵便秘ス
- 十 肺充血及肺炎ヲ併發ス
- 十一 治癒ニ赴クモノハ病候頓ニ減退シ腦症モ亦速ニ輕快ス
- 十二 本病ノ經過三週ヲ出ツルハ稀ナリ
- 十三 初週ノ終ニ死スル者少ナカラス多クハ二週以前ニ斃ル
- 十四 死体剖觀特異ノ徵ナシ血液暗色ニシテ流動ニシテ流動シ心肉軟化シ但腸ニ病患ノ徵ナシ

腸蜜扶斯

- 一 傳染ノ性甚弱シ
- 二 流行ニ至ラスシテ不斷散在シ又時々大流行ヲ致スコトアリ
- 三 此病ニ罹ルモノハ通常十八年ヨリ卅五年ニ至ルノ間チ多シトス
- 四 發病ニ先チ前兆アルコト數日間ニシテ且病候ノ増進モ亦緩徐ナリ
- 五 面貌初メハ赤色ナレトモ後ニハ忽チ蒼白トナリ且赤目ノ徵著シカラス
- 六 腦症漸次ニ發シ來ル
- 七 發疹淡色ニシテ通常四肢ニ及ホスコトナシ
- 八 身体大ニ羸瘦ス
- 九 腹部鼓脹シ或ハ下痢シ屢下血ス
- 十 氣管支部炎及肪膜炎ヲ合併ス
- 十一 治ニ赴ク者ト雖凡諸症徐ニ退消ス
- 十二 經過必ズ三週ヲ費シ或ハ四週ヲ過グルモノナリ
- 十三 二週以前ニ死スル者ハ稀ニシテ通常二週乃至三週ノ後ニ斃ル
- 十四 腸ノ集腺腫起シ或ハ潰爛シ腸間膜腺モ亦腫シ脾臟軟腫ス

上文記スルカ如ク此二病ノ診候自ラ區別アリト雖トモ亦其二證候交互錯雜シテ病初發疹蜜扶私ノ狀チナシ末期ニ及ンテ腸蜜扶私ノ經過ヲ取ル者又發疹モ初メニ暗紅色ノ者ヲ生シ後ニ淡色ノ者ヲ發シ來ルコトアリ又或

ハ腸窒扶私ノ患者便秘シ發疹窒扶私ノ患者下痢スル者アルカ如キ實ニ彼此ノ辨識至難ナルモノ亦往々無キニ非ストス

### 第二款 船舶検査手續

▲甲第二百十五號 (明治十四年十二月二十三)

明治十三年大政官第三十四號公布傳染病豫防規則第十三條船舶検査ノ儀ハ内務省ヨリ被達候次第有之左ノ通該手續相定候條此旨布達候事

一 虎列刺有病地方ヨリ來ル船舶ハ掛官吏之ヲ検査シ船中ニ該病者死者ナキモノハ乘客積荷共直チニ上陸ヲ許スヘシ

一 虎列刺病者死者アル船舶ハ陸上ニ離レタル場所ニ停置キ先ツ其病者死者消毒法ヲ行ヒテ之ヲ處置シ次ニ乘客ニ消毒法ヲ行ヒテ上陸セシメ始メニ積荷船舶ノ消毒法ヲ行ハシムヘシ而シテ全ク其消毒ヲ終リタルルハ何時ニテモ他港ニ向ケ出帆又ハ他ノ船舶ニ交通スルヲ得ヘシ

### 第三款 刺病發生地交通遮斷ノ爲貧困者救助手續

▲乙第四百四十四號 (明治十五年七月十五日)

郡 役 所  
町 村 役 場

虎列刺病發患者有之明治十四年十月太政官第五十八號公布ニ據リ右遮斷法

舉行中該所へ貧民救助ノ義ハ左ノ通心得ヘシ此旨相達候事

虎列刺病發患者有之交通ヲ絶シムル爲ノ貧困目下生活ニ困ム者救助手續

一 此救助ヲ受クル者ハ赤貧ニシテ即チ其日ノ收利ヲ以テ其日ノ活計ヲ營ミ居リ一町村或ハ一局都ノ交通ヲ絶タシムル爲メ目下ノ生活ニ苦シムモノニ限リ其救助法ハ男子滿十五年以上七十年未滿一日白米五合男子十五年未滿七十一年以上及女子ハ一日白米三合ノ積ヲ以テ交通ヲ許可スル日迄之ヲ支給ス

但米價ハ其地ノ前月下米相場ヲ以テス

一 救助手續ハ其町村町村長ニ於テ本人ノ申出ヲ調査シ事實至當ト見認ムル并ハ本人ヨリ郡長宛願書ヲ爲差出之ニ證書明ヲ附シ直ニ郡役所ニ差出スヘシ

一 郡役所ニ於テハ前條救助願ヲ調査シ不都合ナキ分ハ速ニ之ヲ許可シ其人名年齢等ヲ詳記シ速ニ縣廳ニ報告スヘシ

一 郡役所ニ於テ救助シタル金員ハ一時豫備金ヲ以テ繰替置キ傳染病豫防費規則ニ依リ受取方申出ヘシ

### 第四款 刺病發生地交通遮斷手續

▲乙第四百四十五號 (明治十五年七月二十日)

郡役所  
警察署

虎列刺病遮斷方ノ義ハ明治十四年太政官第五十八號公布ノ次第有之候處該法舉行ノ手續左ノ通相定候條此旨相達候事

虎列刺病發生地交通遮斷手續

- 第一條 市街村落ニ於テ虎列刺病ヲ發生シ連續シテ三四戸ニ傳播シタルハ其他ノ部分ニ及ホサル機遮斷シ得ヘシト認ムルハ其全部若クハ一部分ヲ限リ他所ノ交通ヲ遮斷セシムヘシ
- 第二條 交通ヲ遮斷セシムル場合ニ於テハ縣廳ハ之ヲ所轄郡役所警察署ニ達シ郡役所ハ之ヲ該町村ヘ達シ即時ニ郡役所警察署分署ヨリ掛官吏ヲ派出シ一切ノ事務ヲ執行セシムヘシ
- 第三條 掛官吏ハ便宜ノ場所ヘ見張所(或ハ檢疫所ヲ兼ヌ)ヲ設ケ自余ノ通路ハ應分ノ方法ヲ以テ嚴重ニ閉鎖シ交通ヲ遮斷スヘシ
- 第四條 農業ノ爲メ耕地ニ出ツル者ハ掛官吏ニ於テ取糺ノ上之ヲ許可ス但掛官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行フコトアルヘシ
- 第五條 自己ニアラサレハ處辨スヘカラサル要用アリテ遮斷地ヲ出入セントスル者ハ檢疫所ニ申出テシメ其事情已ムヲ得スト認定スルモノニ限リ之ヲ許可スヘシ尤モ外出ノ者ハ十分ノ消毒法ヲ行ハシムヘシ

第五款 虎列刺病取調書

▲三重縣乙第五十四號 (明治十六年四月六日)

郡役所  
町村役場  
衛生委員

今般虎列刺病取調ノ儀ニ付内務省ヨリ達ノ次第モ有之候ニ付自今該患者有之節ハ別紙書式ニヨリ逐一取調ノ上每一ヶ月分取纏メ翌月五日迄ニ無遲滯可差出此旨相達候事

記載ノ解  
問答ノ體テ上下ニ列  
示シタルハ記載ニ便

虎列制病者取調書

郡區町村番地		職 業	男 女 姓 名
一	發病ハ何日何時頃ナルカ	月 日 午前 午後 時	
二	發病ノ場所ハ如何	強 弱	
三	體格ハ如何	未 既 有 無	配 偶
四	婚姻セシヤ	有 無	
五	發病前ニ罹リタル病ハ無キヤ	畏 否	
六	常ニ虎列刺病ヲ甚クシク畏ル、性ナルカ	有 無	
七	發病ノ誘因ハ如何	有 無	
八	前年其住家ニ同病患者アリシヤ	有 無	
九	前年家族中ニ同病患者アリシヤ	有 無	
十	同病多キ地ニ行キシコアリヤ	有 無	
十一	家内ニ同病患者アリヤ	有 無	
十二	近隣ニ同病患者アリヤ	有 無	

ナラシメタル者ニシテ其法ハ例ヘハ第一項郡區町村トアルニ其郡某村ニテ發病シ者ナレハ區町ノ二字ヲ塗抹スルカ郡村發病シ者ナレバ郡村ノ二字ヲ塗抹スルカ如シ他ノ項目ニモ亦之ニ倣フ

(一) 郡區町村番地ハ本籍寄留ニ拘ラズ本人現住ノ地名ヲ入記シ又職業ハ各本人ノ現業ヲ明記シ例ヘハ農業主(農ニシテ自ラ勞役セザル者)ト自ラ耕作スル者トテ區別シ又婦女老幼等ニシテ職業ナキ者ハ戶主何職業ト記スヘシ

(二) 發病ハ醫師ノ診斷時日ニ拘ラズ發病シタル時日

郡區町村番地		職 業	男 女 姓 名
一	發病ノ場所ハ如何	月 日 午前 午後 時	
二	發病ノ誘因ハ如何	強 弱	
三	體格ハ如何	未 既 有 無	配 偶
四	婚姻セシヤ	有 無	
五	發病前ニ罹リタル病ハ無キヤ	畏 否	
六	常ニ虎列刺病ヲ甚クシク畏ル、性ナルカ	有 無	
七	發病ノ誘因ハ如何	有 無	
八	前年其住家ニ同病患者アリシヤ	有 無	
九	前年家族中ニ同病患者アリシヤ	有 無	
十	同病多キ地ニ行キシコアリヤ	有 無	
十一	家内ニ同病患者アリヤ	有 無	
十二	近隣ニ同病患者アリヤ	有 無	

(三) 發病ノ場所ハ其發病シタル郡區町村名ヲ記シ自宅ナレハ自宅旅籠屋ナレハ旅籠屋學校ナレハ學校途上ナレハ途上等ト明記スヘシ

(八) 發病ノ誘因ハ例ヘハ不良若クハ過度ノ飲食并其品名或非常勞動等渾テ其誘因ト認ムル者ヲ記入スヘシ若シ無キトキハ記入ニ及ハス

(七) 三間以下ナレハ疊敷前現住人ノ數ヲ記入シ四間以上ナレハ記入ニ及ハス

一	同病患者又ハ其汚物等ニ觸レセシヤ	觸 不觸
二	住家及其向ハ如何	上 中 下
三	表一戸建表長屋裏四間以上三間以下疊	東西 南北
四	家屋ハ清潔ナリヤ	清潔 不潔
五	飲料水ハ如何	井 堀 溝 水
六	同一ノ飲料水ヲ用ムル者ニシテ同病ニ罹リシ者ナキヤ	有 無
七	便所ハ如何	一 家用 總雪隠
八	同一ノ便所ヘ同意者ノ行キシノ無キヤ	有 無
九	下水ハ如何	通 阻
十	近傍ノ潔否及燥濕ハ如何	清潔 不潔 燥濕
十一	葦療用ノ場所ハ如何	自宅 病院



### 第六款 刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査手續

▲丙第三號 (明治十六年六月十四日)

警 視 廳

東京府ヲ除ク

沼 海 府 縣

昨十五年太政官第三十一號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則第五條ニ據リ該規則施行ノ義當省ヨリ相達候節内外國船舶トモ検査ノ義ハ左ノ手續ニ據リ可取扱此旨相達候事

#### 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査手續

一船舶入港スルトキハ検査官少クモ二名速ニ其船舶ニ到リ(外國船ニ到ルトキハ英語通辨者一名ヲ伴ヒ且検査官タルノ證書「甲號書式ニ據ルヘシ但検査官各一葉ヲ帶有スヘキモノトス」ヲ船長ニ示シタル後)虎列刺病流行地方ヨリ來レルヤ否ヲ問ヒ該地方ヨリ來レルモノハ其航海中ニ虎列刺病患者若クハ同病ニ罹リシ死屍アラサルヤ否ヲ尋問スヘシ若シ必要ト認ムルトキハ自ラ船内ヲ巡檢スヘシ  
一船舶航海中ニ於テ船内ニ虎列刺病患者若クハ其死屍ナキコトヲ信認スルトキハ(外國形船舶ノ多人數旅客ヲ搭載スルモノハ船長ニ要求シテ其船中ノ健康ヲ證明スル書面ヲ出サシメ)直チニ規則第二條ニ據リ許可ノ証

(乙號書式ニ據ルヘシ)ヲ船長ニ與フヘシ其患者若クハ死屍アルトキハ規則第三條ニ據リ之ヲ處置シ先乗組人船客ノ上陸ヲ許可スルノ證(丙號書式前段ニ據ルヘシ)ヲ船長ニ與ヘ次ニ船舶積荷ノ消毒法全ク終リタル上ハ本條末項ニ據リ進航交通等ヲ許可スルノ証(丙號書式後段ニ據ルヘシ)ヲ速ニ船長ニ與フヘシ

但内海ノ諸港ヲ往復スル内國小蒸氣船及ヒ日本形小船等ノ如キハ別ニ簡易ノ検査手續ヲ設ケ之ニ與フル證書ハ必シモ乙號丙號ノ書式ニ據ラズ簡略ノ證書式ヲ用フルモ苦シカラス

一内外國軍艦モ亦検査ノ手續ヲ爲スヘシト雖艦長及醫官ニ於テ其航海中ニ虎列刺病患者若クハ其死屍ナキコトヲ證明スル片ハ其證明書ヲ要求スルニ止メ其患者若クハ死屍アル片ハ艦長及醫官ト協議ヲ遂ケ規則ニ準據シテ相當ノ處置ヲ爲スヘシ規則第二條及第三條許可ノ証ハ共ニ交付スルニ及ハス

一十五年第三十一號布告ノ全文ヲ英文ニ譯シ謄寫若クハ印刷シ置キ検査官外國船ニ到ル片ハ之ヲ携ヘ行キ其船長ニ一部宛交付スヘシ

甲號證書式 (寸法堅大約六寸餘幅大約八寸餘用紙適宜) 表面

(某)港ニ到着スル船舶ノ船長ニ示ス

(某)府知事廳長官(又ハ警視總監)タル余ハ内務卿ノ命ニ依リ明治十五年六月廿三日附第三十一號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ヲ施行センカ爲メ(何某)ニ命スルニ検査官タルノ任ヲ以テス該官ハ(某)港ニ到着スル諸船舶ノ虎列刺病流行地方ヨリ來リタルヤ否其航海中ニ於テ虎列刺病患者若クハ死屍アラサルヤ否ヲ船長ニ尋問シ且其船内諸人ノ健康ヲ證明スル證書ヲ船長ニ要求シ必要ト認ムルハ船内ヲ巡檢スルノ權ヲ有スルモノナリ

大日本帝國

年月日 (某)府知事廳長官(又ハ警視總監)位勳氏名印

裏面

表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スヘシ

乙號証書式 (寸法大約甲號ニ同シ用紙適宜)

表面

(某)港ニ到着セシ(瀛船風帆船)(某)號ノ船長ニ交付ス

(瀛船風帆船)(某)號ハ虎列刺病流行地方ヨリ來レルヲ以テ(某)港検査官タル余等ハ明治十五年六月廿三日附第三十一號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ニ依リ之ヲ検査セシニ其港海中ニ於テ虎列刺病患者及其死屍ナキコトヲ信認スルヲ以テ該規則第二條ニ依リ直チニ

該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ストテ許可スルモノナリ

大日本帝國(某)府(府縣)下

年月日

(某)港

検査官

氏

名印

裏面

同

氏

名印

外國船ニ與フルモノハ表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スヘシ

丙號証書式 (寸法用紙トモ乙號ニ全クスヘシ)

表面

(某)港ニ到着セシ(瀛船風帆船)(某)號ノ船長ニ交付ス

(瀛船風帆船)(某)號ハ虎列刺病流行地方ヨリ來レルヲ以テ(某)港検査官タル余等ハ明治十五年六月廿三日附第三十一號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ニ依リ之ヲ検査セシニ其航海中ニ於テ虎列刺病患者幾人(又ハ死屍幾個)アルヲ以テ該規則第二條第一項第二項ニ據リ之ヲ處置シ乗組人船客ニ消毒法ヲ施行シ其上陸ヲ許可スルモノナリ(船舶積荷ニ消毒法ヲ施シタル後與フヘキ證書ハ該規則以下ヲ該規則第二條ニ據リ悉ク之ヲ處置シ總テ消毒法ヲ施行シ了リ該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルコトヲ許可スルモノナリニ作ルヘシ)

大日本帝國(某)(府縣)下

年月日

(某)港

檢疫官

氏

名印

裏面

同

氏

名印

外國船ニ與フルモノハ表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スヘシ

第七款

六種傳染病其他流行病貧困患者救療

概則

▲甲第十五號

(明治十八年三月五日)

明治十四年(六月)甲第百號布達窮民救療概則左之通改正候條此旨布達候事

六種傳染病其他流行病貧困患者救療概則

第一條

六種傳染病其他流行病ニ罹リ左ノ箇條ニ適當醫藥辨シ難キ爲メ無

謝ニテ診療ヲ乞ハントスルモノハ戶籍ノ寫ヲ添ヘ町村長ノ證明ヲ受ケ郡

長ニ願出ツヘシ

但近傍ニ天然痘患者アルトキ種痘ヲ爲シ能ハサルモノモ本文ニ準ス

一 地所家屋ヲ有セス極貧ニシテ目下生活ニ苦ムモノ

一 地所家屋ヲ有スト雖トモ獨身若クハ家人七十年以上十五年以下ニシテ

極貧目下生活ニ苦ミ親戚隣保ノ救助己ニ盡キタルモノ

一 地方稅及町村費ヲ免除セラレタルモノ

一 備荒儲蓄法ノ給與ヲ受クル程ノ者ニシテ他ニ助勢ヲ受クル道ナキモノ

第二條 郡長ハ前條ノ願書ヲ適當ト認メ之ヲ許可スルトキハ救療若クハ種痘ヲナサシムヘシ

第三條 醫師ハ救療藥價若クハ種痘料ヲ左ノ雛形ニ照シ請求ヲ作り町村長ノ證明ヲ受ケ藥價ハ一句日毎ニ種痘料ハ其都度郡長ニ請求スヘシ

窮民救療藥價申請書

一金何程

何病

何郡何町村

何

誰

内

金何程

水藥何日分

但一日分金何程

金何程

丸藥何包

但一包金何程

金何程

何々

但何々

右之通御渡被下度候也

年月日

何郡何町村醫師 氏

名印

郡長 宛

窮民種痘料申請書

一金何程

何郡何町村醫師 何

誰

但初種若クハ再三種何月何日種痘

右之通御渡被下度候也

年月日

何郡何町村醫師 氏

名印

郡長宛

第八款 患者救療概則發行ニ付心得書

▲乙第十三號 (明治十八年五月五日)

郡役所

明治十四年(六月)第九拾六號達惡疫流行ノ節貧民救療概則發行ニ付心得左ノ通改正候條此旨相達候事

六種傳染病其他流行病貧困患者救療概則發行ニ付心得書

- 第一條 人民ヨリ無謝診療若クハ種痘ヲ願出成規ニ依リ之ヲ許可シタルトキハ其受救者並ニ醫師ノ住所氏名及醫師ノ手當(手當ハ醫師ヲ雇入レタルトキニ限ル)其他病勢ノ劇易等ヲ詳細記載シ速ニ縣廳ニ報告スヘシ
- 第二條 貧困患者多數ニシテ實際專任ノ醫師ヲ要スル場合ニ限リ雇醫ヲ命スルヲ得其他ハ最寄ノ醫師ニ通報ノ單ニ診療若クハ種痘ヲ爲サシムヘシ
- 第三條 前條雇醫ノ手當一日金七拾錢以下ハ郡長限便宜支給シ若シ此額ヲ超過シタル手當ヲ支給セントスルトキハ其事情ヲ具シ縣廳ヘ伺出ツヘシ但手當ハ勤日數ニ應シ之ヲ給スヘシ
- 第四條 雇醫ニ派出ヲ命シタルトキハ其旅費日當ハ地方稅給與規則ニ依リ支給スヘシ
- 第五條 雇醫ニ派出ヲ命シタルトキハ貧困患者ニ限ラス診療セシムルモ妨

ケナシト雖トモ其藥價ハ請診者ノ自辨タラシムヘシ

第六條 前條々ノ費用ハ總テ明治十六年乙第四百四號傳染病豫防費規則ニ依リ取扱フヘシ

第七條 施藥患者ノ景況ハ時々醫師ヨリ届出サセ毎土曜日之ヲ縣廳ニ報告スヘシ

但病勢劇烈ニシテ著シク患者ニ變動アルトキハ其都度報告スヘシ

第九款 種痘施術心得書

▲甲番外 (明治十八年五月二十一日)

今般其筋ヨリ達ノ次第有之明治十四年六月甲第九十三號諭達傳染病豫防心得書附録トシテ種痘施術心得書左ノ通追加候條此旨諭達候事

種痘施術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採收及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラズ其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

- 第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サ、ルヲ可トス
  - 一 生後七十日ヲ經サル者
  - 二 種痘ノ爲メニ一時増進スヘキ病患アル者
  - 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者

四 蔓延性ノ皮膚病アル者

五 熱性病ニ罹リ居ル者

第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ最良トス然レトモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ケナシ

第二 接種ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊(三稜筋抵止ノ部位)ニ於テ各々三針乃至五針(受痘者ノ年齢體質等ニ隨フ)トシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘疱ノ暈輪五ニ密接セサル様注意スヘシ

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ

第五條 良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレトモ此法ヲ行フコト能ハサルトキハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク新鮮ナルモノヲ撰ヒ用ユヘシ但痂皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三 痘苗採取及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲グル者ヨリ採取スヘカラス

- 一 痘疱ノ成形過度及過大ノモノ發暈非常ニ大ナルモノ痂鏤又ハ暈部ニ水疱ヲ生スルモノ痘疱非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スルモノ一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キモノ

但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正痘モ亦同シ

二 痘漿ノ血液ヲ混セルモノ疱ノ中央ニ在ル痘鏤ノ腐敗ニ向ハントスルモノ痘疱ノ已ニ化膿ニ傾キシモノ爬搔又ハ摩擦ノ爲メニ痘疱破潰セシモノ

三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ルモノ營養不良ノモノ

四 丹毒ヲ併發セルモノ經過不正ニシテ不善感ノ疑アルモノ(第十四條ヲ參觀スヘシ)

五 天然痘ヲ經タル者再三種ノモノ

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日(二十四時間ヲ以テ一日ト算ス下皆同シ)ヲ以テ佳トスト雖トモ時候ノ寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニシテ其含包セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルハシ

第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ疱面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス

第九條 發痘一顆ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモ其一顆ハ傷クヘカラス

第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度

ヲ避ケ貯フヘシ（痘苗ノ貯法甚タ宜シキヲ得ルトキハ五箇月間充分ノ効カアリ）

第四 善感不善感ノ鑑別

- 第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス
  - 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否
  - 二 痘疱常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否
  - 三 紅暈ハ常形ナルヤ否
  - 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否
  - 五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ微候ヲ呈スルヤ否
  - 六 痂皮ハ點褐色又ハ黒色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否
- 第十二條 種痘善感ノ微候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルヲナシ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレテ暫時ニシテ消失ス（或ハ此暈ヲ見サルヲアリ）
- 第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之レニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ（經過緩慢ナルモノハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコトアリ）
- 第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生

ス

- 第五日ニハ結節細小ノ水疱ト爲リ其周圍ニ狹キ紅暈ヲ見ル
- 第六日ニハ水疱稍々増大シ其邊緣隆起シテ疱ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ疱中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍増大ス
- 第七日ニハ諸症増々増進ス
- 第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ焮腫微シシク疼痛アリ疱中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ（或ハ此期以前）微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺ヘ水脈腺腫起スルコトアリ
- 第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル
- 第十日ニハ疱液化膿シテ白濁或ハ黃色ノ膿稠液トナリ疱ノ中央稍々凸隆ス然レテ其形必ス扁圓ナリ
- 第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルヲナク此日ヨリ收斂ヲ始メ疱ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ執固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス爾後點褐色又ハ黒色ニシテ堅實ナル厚痂後八乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル癍痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其又窩内ニハ更ニ數多小凹點ヲ呈ス
- 但一回種痘セシモノニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘顆小ニシテ

七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ諸徴ハ左ノ如シ

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ達セスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘスシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形トナリ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ（時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムルモノアレトモ其經過總テ不整ナルヲ以テ自ラ善感ノモノト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノモノト雖トモ腋下ニ疼痛ヲ覺エ微熱ヲ發スルコトナキニ非ス）
- 二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ疱ヲ生シ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮トナルヲ見ル
- 三 紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル
- 四 第八日ニ至リ數疱相合シテ一大潰瘍トナリ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス
- 五 痂皮剝奪ノ後ニ潰セル癩痕ハ深クシテ不成形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五 種痘ノ注意

第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ルモノナルカ故更ニ三四週ノ後善長ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種ス

ヘシ

第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レトモ受痘者已ニ暗

ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト間々之アリ

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲クルモノモノト雖モ熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

第十款 種痘施行細則

▲甲第百十號 (明治十八年十二月廿八日)

今般第三十四號告示ヲ以テ種痘規則制定相成候ニ付テハ右施行細則左之通相定メ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治十三年十一月甲第百六十四號布達種痘手續ハ此細則施行ノ日ヨリ廢止ス

右布達候事

種痘施行細則

第一條 種痘ノ便利ヲ謀ルガ爲メ一町村役場部内町村協議ノ上種痘ニ適當ナル醫師ヲ撰定シ其人名ハ町村長ヨリ郡役所ニ報告シ郡役所ハ縣廳ニ届

出ヘシ

第二條 町村長ハ部内町村ノ種痘検査人名簿(書式第一號)ヲ製シ之ヲ保管スヘシ

第三條 町村長ハ其部内ニ居住スル初再三ノ種痘ヲ經サルモノハ寄留寓居ヲ論セス總テ前條ノ人名簿ニ登録シ異動アル毎ニ加除訂正シ且天然痘及初再三濟ノ年月日其善感不善感ヲ記入スヘシ

第四條 戸長ハ毎年兩度(三月ヨリ五月迄九月ヨリ十一月)迄前條ノ帳簿ニヨリ初種及再三期ニ相當スルモノ前期初種不善感ノ者又ハ前期事故アツテ種痘セサルモノヲ調査シ種痘帳ヲ作り適宜場所ヲ定メ種痘醫ニ照會シ時日ヲ定メ種痘セシムヘシ

第五條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘証(第二號書式)ヲ製シ與フルノ際不善感ノ者ハ証書ハ書式ノ通朱書シ本人ニ付與スヘシ

但檢診ノ際初種不善感ノ者ハ三四週間ヲ經ルノ後可成直ニ復種シ猶不善感ノ者ハ其旨ヲ記シタル証書ヲ付與スヘシ

第六條 種痘濟ノ者醫師ノ種痘証ヲ受ケレハ之ヲ町村役場ニ差出シ種痘濟ノ旨ヲ届出ヘシ町村長ハ其証書ヲ種痘検査人名簿ト割印シ之ヲ本人ニ返付スヘシ

第七條 定期並天然痘流行ノ際掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘スルノ外

其部内外ノ醫員ニ就キ臨時種痘スルハ妨ケナシト雖總テ此規則ヲ履行スヘシ

第八條

種痘検査人名簿 町村番屋敷

寓居或ハ他管ヨリ寄留ノ者ハ原籍郡村番屋敷ヲモ記入スヘシ 何 某

証書ト割印

天然痘	初種年月	再種年月	三種年月	誕生年月	姓	名
何年何月何日	何年何善感(善感)何年何不善感(不善感)月何日	何年何月何日	同何年何月何日	同何年何月何日	何	之誰

町村役場印

割印

証

國郡町村番  
何某長男或  
ハ何



天然痘濟  
或ハ種痘  
不善感ノ  
モノハ除  
之

右何願  
左何願

何之誰  
何年何月

天然痘濟  
右種痘濟  
或ハ不善感

年月日

國郡町村番  
種痘醫

氏名印

種痘者感	初	種痘醫	姓名	印
國郡町	否	種痘醫	姓名	印
住居		種痘醫	姓名	印
村名	一年二年三年四年五年以上十五年	種痘醫	姓名	印
	未滿未滿未滿未滿未滿以上	種痘醫	姓名	印
郡町村	善感	種痘醫	姓名	印
	不善感	種痘醫	姓名	印
郡町村	善感	種痘醫	姓名	印
	不善感	種痘醫	姓名	印
合計	再種三種小計合計			

明治何年 自月日 至月日 種痘人員表

郡(村)番地 種痘醫 姓名

第十一款 種痘々漿ノ採擇

▲三重縣訓令乙第九十一號 (明治廿四年十二月廿五日)

郡市役所

合計													
計													

種痘々漿ハ極メテ純良ナラサル者ニアラサレハ其病毒ヲ傳ヘ終身羸弱多病  
ノ原トナルニ依リ採擇ノ際ニ在テ最モ健全ナル種痘兒ヲ撰ヒ十八年(三月)  
内務省甲第九號(即チ十八年本縣甲番外諭達種痘施術心得書)達ニ依リ決シ  
テ腺病性ノモノ儼毒皮膚病ノ者其他帶患ノ小兒ヨリ採擇スヘカラサル旨深  
ク注意ノ儀内務省ヨリ移牒ノ儀アリ依テ其郡ニ於テモ此旨ヲ体シ接種營業  
ノモノハ篤ク注意スヘシ本年春期種痘ノ時機ニ當ルナ以テ特ニ此旨訓令ス

第十二款 傳染病豫防心得書

▲三重縣訓令甲第二百二十一號 (明治二十三年十二月二十六日)

七百四

郡 役 所  
監 獄 署  
全 支 署  
警 察 署  
全 分 署  
市 役 所  
町 村 役 場

今般内務大臣ヨリ六種傳染病豫防及消毒心得別冊ノ通訓令相成候ニ付自今六種傳染病豫防及消毒ノ方法ハ該心得書ニ基キ執行スヘシ

但明治十九年五月廿八日第八百八十七號全年五月三十一日第八百八十九號達明治二十三年七月十一日訓令甲第六十五號全年七月十一日訓令甲第六十六號全年八月五日訓令甲第六十九號ハ廢止ス

傳染病豫防心得書  
傳染病ノ流行ハ一人一家ヨリ町村郡市ニ及ヒ遂ニ延テ府縣全國ノ災害トナルモノニシテ之ヲ豫防スルニハ一人一家ノ始メニ於テスルニ非サレハ其全功ヲ收ムルコト能ハス今ヤ郡市町村各其利害ヲ負擔シ處理スルノ日ニ及テハ傳染病ノ如キ其病毒ヲ一人一家ニ撲滅シテ全聚落ノ生命財産ヲ

安全ニ保護スルハ自治事業ノ最モ急要ナルモノトス故ニ若シ其市町村ニ傳染病者發生スルコトアレハ所在ノ醫師ハ成規ノ通報ヲ爲シ豫防上ノ要件ヲ病家ニ示諭シ病家ハ醫師及ヒ當該吏員ノ示諭スル諸件ヲ守リ當該吏員ハ十分ノ注意ヲ以テ豫防消毒ノ處置ニ疎虞遺漏ナカラシムコトヲ務ムヘシ而シテ豫防ノ方法ヲ實際ニ徹底セシメントスルニハ衛生組合ヲ設ケ組合中互ニ警戒扶持スルヲ良シトス蓋シ傳染病ノ流行ハ其初メ些細ノ注意ヲ缺キ或ハ患者ヲ隱蔽シ又ハ吐瀉物ヲ下水、芥溜等ニ投棄シ又ハ病毒感染ノ疑アル雇人稼人等ヲ猥リニ歸郷セシムル等ニ因リ病毒遠近ニ傳播シ復タ防遏スヘカラサルノ勢ヲナスコト其例證一ニシテ足ラス到底衛生組合ノ法ヲ設ケ隣保相互ノ制裁ヲ以テ各人ノ注意戒慎ヲ喚起スルニ非ザレハ市町村共同ノ方法モ其全功ヲ收ムルコト能ハサルナリ

以上ハ豫防實施上市町村ニ於テ擔當スヘキ用意ノ要領ニシテ若シ其流行數市町村ニ及フカ若クハ病性ノ急劇ナル虎列刺ノ如キモノニ在テハ更ニ郡又ハ府縣ノ力ヲ以テ豫防ノ方法ヲ務メサルヘカラス

此心得書ハ主トシテ患者發生セル時ノ處置即チ有病時ノ豫防法ヲ舉ケタルモノナレトモ總テ傳染病ハ地方病トナリテ年々發現スル地ヲ除クノ外ハ概テ數年若クハ數十年ヲ隔テ、流行スルカ故ニ其流行セサル時ニハ永ク本病ノ災害ヲ免カレ得タルカ如キ思フ爲スト雖モ傳染病毒ハ不潔汚穢ノ

七百五

土地ニ入レハ容易ニ蕃殖蔓延スルモノナルヲ以テ平常上水下水ノ改良ニ注意シ掃除ノ方法ヲ設ケル等万全根治ノ策ヲ怠ラス用水ヲ純清ニシ住地ヲ乾淨ナラシムルニ非サレハ決シテ其流行ヲ免カル、能ハス故ニ就中郷會ノ地ニ於テハ銳意上水下水ノ改良工事即チ水道暗渠布設ノ事ヲ計畫シ衛生上百年ノ長計ヲ成スヲ要ス

總則

- 第一條 市町村ニ於テハ便宜衛生組合ヲ設ケ清潔法、衛生法其他傳染病豫防ノ事ニ就キ規約ヲ立テ之ヲ履行スルヲ要ス
- 第二條 醫師傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成規ノ通知ヲ爲スハ勿論此心得書各病ノ部ニ掲ケタル豫防方法ヲ病家ニ懇諭スルヲ要ス
- 第三條 市町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ傳染病者ヲ診斷セル旨醫師ノ通知ニ接シタルトキハ速ニ病室ニ臨ミ病室、器具、被服及ヒ便所ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處分ヲ怠ラサランコトヲ要ス
- 前項醫師ノ通知ニ接セサルモ傳染病ニ疑ハシキ患者アルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前項ノ如クナランコトヲ要ス
- 第四條 傳染病者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員又ハ警察官吏時々之ヲ巡視シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ依リテハ人夫ヲシ

テ病毒ニ汚染セルモノヲ取り集メシメ消毒法ヲ施スヲ要ス

第五條 傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ患者ノ身體若クハ死屍看病人、患者ノ居室其他病毒ニ汚染セル衣服、器具等ニ消毒法ヲ行フヲ要ス

第六條 總テ消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員、人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者運搬器等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヲ要ス

第七條 郡市北海道廳ニ於テハ區長其所轄内ニ傳染病發生シタルトキハ其豫防法ヲ周到ナラシメ又有病地ノ病況ト豫防法實施ノ景況トヲ具シテ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

虎列刺

虎列刺ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當テハ兇暴慘虐至ラサルナキコト世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ舍ルカ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノ、消毒法ニ遺漏ナカラシムルハ勿論患者發生ノ最初即チ病毒ノ未タ散蔓セサル前ニ於テ十分消毒法ヲ行ヒ病災ヲ其一小局部ニ熄滅セサルヘカラス

- 第一條 虎列刺患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス
- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ撰ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ其吐瀉物ハ成ルヘク之ヲ燒却スルコト
- 五 患者ノ上リタル便所ニハ少クモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト
- 六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 七 患者ノ身體、吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト
- 八 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル様注意シ且ツ其吐瀉物及

- ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
  - 九 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト
  - 十 患者ト局ヲ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト
- 第二條 虎列刺發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ成サ、ルコト
  - 二 病家ノ井水他家ニ於テ共用セサルコト但已ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト
  - 三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト
  - 四 飲食物ハ成ルベク熟煮シテ用フルコト
  - 五 總テ下痢ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且ツ其下痢患者ノ上レル便所ニハ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌クコト
- 第三條 虎列刺流行ノ際下痢若クハ吐瀉スル者アルトキハ其瀉下物吐出物

ニ石灰乳、又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌キ醫師ノ診斷ヲ乞フヘシ

第四條 虎列刺發生ノ初ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ

一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹矮ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

二 前項及傳染病豫防規則第十五條第二項ノ場合ニ於テ交通遮斷スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師、掛吏員、人夫等職務上要用アル者ノ外他ト交通ヲ制止スルコト

三 交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト

四 交通遮斷中ハ市町村吏員又ハ警察官吏ニ於テ其区域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ区域内ノ各家ヲ巡診セシメ日豫防法ヲ諭示セシムルコト

五 患者治癒若クハ死亡シ又ハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮斷区域内ノ患者全ク絶テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生ゼルトキハ遮斷ヲ解除スルコト

六 遮斷區域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病毒已ニ他方ニ及ヒタリト認ムルトキハ速ニ遮斷ヲ解除スルコト

第五條 交通遮斷區域内若クハ曾テ虎列刺ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左ノ方法ニ據リテ消毒的清潔法ヲ施行スルコト

一 下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通セシムルコト

二 芥溜ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ燒却シ若シ燒却スルヲ得ザル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周子ク撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尙ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲ爲スコト

一 家付ヲ出シ塵ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具、疊、建具等ハ日光、空氣ニ曝スコト

二 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト

三 衣服臥具ハ殊ニ能ク日光、空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト

第六條 虎列刺流行ノ虞アルトキハ其市町村又ハ郡若クハ府縣ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

- 一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト
  - 二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
  - 三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診ヒシムルコト
- 第七條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、郡市町村吏員等及警察官吏衛生官吏等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ヲ擔當セシムルヲ要ス

腸窒扶私

腸窒扶私ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ舍リ虎列刺病毒ノ如ク不潔汚穢ノ土地ニ蕃殖瀰漫シ廣ク流行ノ勢ヲ成スモノナレハ其豫防ノ方法ニ至テモ虎列刺ト畧ボ其趣ヲ同フス抑モ本病ハ六種傳染病中最モ多キ疾病ニシテ各地方年々其患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見サルコトナシ明治十三年傳染病豫防規則發布以來十年間ノ患者三十一萬餘死亡七萬ノ多キニ及ヒ加フルニ流行時期ノ長キ病症經過ノ久シキヲ以テ公衆ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テハ却テ虎列刺ヨリ甚キモノアラントス故ニ本病流行ノ兆アルニ當テハ速ニ十分ノ力ヲ盡シテ之ヲ撲滅シ併セテ第二ノ流行ヲ豫防センコトニ怠ルナカランヲ要ス

第一條 腸窒扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト
- 五 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ撰ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
- 六 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十一分ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト
- 七 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 八 患者ノ身體、糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ糞便ニ汚染セサル様注意スルコト

九 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル様注意シ且ツ其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

十 患者ト居テ同フスルモノハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ之ヲ用ヒサルコト

第二條 腸窒扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト

三 芥溜ヲ掃除シ他家ヨリ流ル、下水ノ流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ之ヲ改修スルコト

四 飲食物ハ成ルヘク煮熟シテ之ヲ用フルコト

五 總テ熱性病ニ罹リ又ハ下痢ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 腸窒扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ是レヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト

二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲメ各家ニ豫防法ヲ諭サシムルヲ要ス

赤痢

赤痢ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物ニ含リ之ヨリ傳染スルモノニシテ病性大ニ腸窒扶私ト類似スルモノナリ故ニ其豫防消毒ニ於テモ畧ホ腸窒扶私ト同一ノ方法ニ依リ而シテ流行時ニ於テハ瀉下物中ニ血液ヲ混セサル患者ト雖モ本病者ト同様ニ取扱フヲ要ス

抑本病ハ腸窒扶私ト同シク頗ル慘毒ヲ逞クスルモノニシテ明治十三年以來十年間ノ患者數殆ト二拾萬ノ多キニ及ヒ殊ニ九州四國ノ諸縣ノ如キハ一年ニ流行ノ勢ヲナシ病毒漸次ニ全國ニ浸潤セントス故ニ本病ノ年々發現スル地方ニ於テハ土地ノ清潔ヲ力メ殊ニ飲料水ニ注意シ下水ヲ浚渫シ發病時ニ當テハ撲滅ノ方法ニ十分ノ力ヲ尽シテ第二ノ流行ヲ防ク等總テ腸窒扶私ニ於ケルカ如クナランヲ要ス

實布埜里亞

實布埤里亞(格魯布)ハ多クハ未成年者殊ニ幼童嬰兒ヲ侵シ其幼穉ナル者ハ症狀最陰惡ナリ抑モ本病ノ病毒ハ咽頭喉頭ノ如キ部分ニ舍リテ患者ノ痰唾、鼻汁其他患者ノ使用セル衣服、玩具等ノ媒介ニ依リテ傳染ス故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ患者ト健康者殊ニ兒童トチ隔離スルヲ專要トス而シテ小學校、幼稚園等兒童ノ群集スル場所ハ往々本病傳播ノ中心トナルカ故ニ流行ノ兆アル場合ニ於テハ特ニ注意スルヲ緊要トス

第一條 實布埤里亞(格魯布)又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト
- 二 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶チ殊ニ兒童ハ一切立入ラシメサルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看病人ハ他ノ兒童ト接近セサル様注意シ數々硼酸水又ハ鹽酸加里水等ヲ以テ含漱シ且ツ患者ノ居室ヲ出ヅルトキハ先ツ石炭酸又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

- 五 患者ノ痰唾、鼻汁ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ蓋覆チ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルコト又患者ノ含漱シタル藥水モ石炭酸水ヲ加ヘ消毒シタル後所定ノ便所ニ入ル、コト
  - 六 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
  - 七 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
  - 八 患者ノ用ヒタル衣服臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服、其他總テ患者ノ痰唾、鼻汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
  - 九 患者快復ニ趣クモ醫師ニ於テ全治ト認メ且ツ消毒法ヲ行ハサル間ハ他ノ兒動ト遊戯セシメサルコト
- 第二條 實布埤里亞(格魯布)發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
- 一 患者アル家ニハ兒童ヲシテ交通セシメサルコト
  - 二 兒童ヲシテ感冒ニ罹ラシメサル様注意スルコト
  - 三 兒童ノ感冒ニ罹ル者アルトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト
- 第三條 實布埤里亞(格魯布)患者頻々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左



ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

- 一 醫師ヲシテ小學校、幼稚園ニ就キ其兒童ヲ診察セシムルコト
- 二 小學校、幼稚園ノ教員ト協議シテ左ノ豫防法ヲ實行スルコト
  - 一 患者アル家ノ兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家へ避ケタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校、入園ヲ禁スルコト
  - 二 兒童咳嗽或ハ發熱スルモノアルトキハ速ニ退場セシメ且ツ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘキ旨ヲ其家人ニ勸告スルコト
  - 三 生徒ノ缺席數日ニ及ブモノアルトキハ其家ニ就テ缺席ノ理由ヲ問フコト
  - 四 出頭時刻ヲ晚クシ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸レシメサルコト
  - 五 唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ禁スルコト
  - 六 教場ハ一層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ悉皆窓戶ヲ開放シテ十分ニ空氣ヲ流通セシムルコト
  - 七 教場内處々ニ適宜ノ瓶、壺等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒ノ痰唾ハ此器中ニ吐カシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設

ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ依リテハ小學校、幼稚園ヲ開鎖スルヲ要ス

發疹室扶私

發疹室扶私ハ其病毒患者ノ身體ヨリ揮散シ傳染スルモノニシテ傳播ノ最モ迅速ナルモノナリ其一タヒ流行ノ兆チ呈ハスヤ忽チ散漫傳播シ殊ニ貧民部落等群集雜居ノ場所ニ侵入スルトキハ其家屋ノ不潔狹隘ニシテ空氣ノ流通不良ナルヨリ傳播ノ力モ一層猛劇トナリ全部ノ人衆ヲ侵害スルニ至ル故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ速ニ患者ト健康者トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ貧民部落ニ侵入セルトキハ避病院又ハ療養所ノ開設、貧民救療法ノ普及ヲ怠ルヘカラス

第一條 發疹室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院若クハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃シ除テテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ

更ニ淨水ニテ洗フコト

五 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他總テ患者ノ身體ニ接觸セルモノ及ヒ看病人ノ衣服ハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

第二條 癩疹瘰癧私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設アル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二 家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト

三 身體衣服ヲ清潔ニシ過度ノ勞力、露臥、夜行等身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ慎ムコト

四 總テ熱性病ニ罹ル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 發診室扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

二 患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

痘 瘡

痘瘡ノ病毒ハ痘漿、痘痂中ニ含メルハ勿論患者ノ身體ヨリ發出スル蒸發氣中ニモ之ヲ含ミ傳染力ノ強烈ナル遙ニ他病ノ上ニ出ツ故ニ一枚ノ弊衣ヨリ病毒ヲ傳ヘテ遂ニ無數ノ人衆ヲ侵セルガ如キハ往々觀ル所ナリトス抑モ痘瘡ニハ種痘ノ如キ万全ノ豫防法アリテ能ク其患害ヲ未然ニ防制シ得ヘシト雖モ再三之ヲ反復セサレハ其功全カラサルヲ以テ苟クモ本病發生スルトキハ健康者ニハ臨時種痘ヲ普及セシメ患者ニハ密ニ消毒法ヲ行ヒ二者相符テ十分ニ病毒ヲ撲滅センコトヲ要ス而シテ從來ノ經驗ニ據ルニ保姆、看病人タル者親シク患者ヲ介抱シ痘毒ニ汚染セラル、モ其手足衣服等ニ十分ノ消毒法ヲ行ハサルヨリ病毒ヲ傳播セシムルノ例甚タ多シ、深ク戒ムヘキコト、ス

第一條 痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一 患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘ヲ爲スコト

- 二 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト
- 三 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 四 患者自宅ニ於テ消毒看病人届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 五 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ絶ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 六 患者ノ居室ニハ蓋覆ヲ有スル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ容器ト爲シ豫メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル片布、紙片又ハ落茄及ヒ居室内ノ塵埃等ハ必ス此器中ニ入ル、コト但器中ノ汚物ハ糞、飽屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ灌キテ之ヲ燒却スルコト
- 七 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 八 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
- 九 患者ノ玩具、飲食器ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
- 十 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總

- テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
  - 十一 患者ノ身體及ヒ痘漿汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ聚マラサル様之ヲ防クコト
  - 十二 患者ノ痘瘡落茄スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非サレハ他ノ兒童ニ交ハリ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカラス
- 第二條 痘瘡發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
  - 二 未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タルモノハ臨時ニ種痘スルコト
  - 三 痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第三條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ消毒ノ施行ニ一層ノ注意ヲ加ヘ且種痘規則第三條ニ依リ臨時ニ種痘ヲ普及セシムルヲ要ス
- 消毒方
- 傳染病毒ハ其本體已ニ詳ナルアリ未タ詳ナラサルアリト雖トモ要スルニ

生々蕃殖ノ機能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機體ナルハ疑テ容レス此有機體  
タル各病軌レモ其性狀ヲ異ニシ傳染ノ景况一ナラス例ヘハ虎列刺病ノ如  
キハ專ラ患者ノ吐瀉物中ニ舍リテ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染  
シ發疹窒扶私病毒ノ如キハ患者ノ身體及ヒ之ニ接觸セルモノ其他居室內  
ノ空氣ヨリ傳染シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身體、居室內ノ空氣ヨリ又ハ  
痘痂、痘漿及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事ス  
ルモノハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ據リテ火力、瀛熱、藥劑等總テ消  
毒ノ効力ヲ有スルモノ、効用、用法ヲ領得シ決シテ疎漏ノコトナカラン  
コトヲ要ス

第一 火力

消毒ノ効力ヲ有スルモノ、種類及ヒ効用

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死體  
及ヒ病毒ニ汚染スルコト甚クシテ貴重ナラサル品ハ成ルヘク燒却スヘシ  
第二 瀛熱附煮沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱瀛ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒  
後使用スヘキ物品ハ成ルヘク熱氣消毒器中ニ入レテ熱氣ノ內部ニ逢徹シ  
易キ様適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類  
ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ熱氣ヲ周子ク通シテ消毒ス

ヘシ

熱瀛消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒鄉僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖  
モ要スルニ攝氏百度以上ノ熱瀛ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ涵蒸スルヲ得ハ  
足レルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニア  
ラス今其一方ヲ舉クレハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔  
ヲ穿チテ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ  
其蓋ニ一孔ヲ穿チ寒暖計ヲ插入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ此裝  
置タル甚タ簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニモ之ヲ  
設クルヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ得ルモノナリトス  
又熱湯中ニ煮沸スルモ濕熱消毒法ト其理ヲ同フス故ニ市町村ニ於テハ煮  
沸ノ用ニ供スヘキ大釜ヲ備フルトキハ十分消毒ノ目的ヲ達シ得ヘシ但煮  
沸ハ三十分時間以上ヲ持續セサレハ消毒ノ効力全カラストス

第三 藥劑

甲 石炭酸水(二十倍)(結晶石炭酸水五分、水九十五分)

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚タ廣シト雖トモ  
其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成ルヘク他ノ消毒  
藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ(例ヘハ石灰乳ヲ用フレハ光澤ヲ損シ昇汞水  
ヲ用フレハ危險ノ虞アル等)其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ缺乏セル場

合ニノミ使用スヘシ本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レモ場  
合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭  
酸水ハ消毒後班點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ構造精緻ノ家屋、貴重ノ物品等  
ノ消毒ニハ使用スヘカラス

本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ランコトヲ要ス

一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以  
テ更ニ洗濯スヘシ

二 本品ヲ以テ器具、室内ヲ消毒スルニハ拭淨又撒布シテ後淨水ヲ以テ  
更ニ拭淨スヘシ

三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以  
テ洗淨スヘシ

本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ  
、徐々ニ水ヲ注キ全量ニ至ラシムヘシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ  
速カナリ但衣類等ニ使用スルヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ  
酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シトス

乙 昇汞水(千倍)昇汞一分、鹽酸五分水九百九十四分

昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危  
險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防

カンカ爲メ本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又ハ昇汞ノ効  
ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス

又本品ハ飲食器、玩具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラ  
ス金屬若クハ糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フ  
ノ虞アルヲ以テ金屬製器、糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又タ金  
屬製器ニ貯フヘカラス

本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ  
必ス淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

甲乙兩種ノ消毒藥ニハ劇しき藥ナリ飲むベカラズト票記スヘシ

丙 生石灰石灰乳(十倍)生石灰一分水九分

生石灰及ヒ石灰及ヒ石灰乳ハ虎列刺、腸室扶私等ノ病毒ヲ消滅スルノ効  
力アルモノナレハ吐瀉物、瀉下物、下水等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ  
畏トス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物、瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク  
攪拌スヘシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シ崩壊  
スルモノヲ用フヘシ又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水  
ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘク用ニ臨テ之ヲ製シ使用ノ際ハ

毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁 格魯兒石灰水(即チ鹽化水)「廿倍」(格魯兒石灰五分水九十五分) 格魯兒石灰水ハ便所、下水、芥溜、床、床下及ヒ土間等ノ消毒ニ用フ本品ハ 用ニ臨テ製スルヲ可トス

戊 硫酸若クハ粗製硫酸(同量ノ水ニ溶解シタルモノ)

硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳、石灰酸水等ノ代用品トシテ糞池下水等ノ 消毒ニ用フルヲ得ヘシ但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ 際能ク注意スヘシ本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト同量ノ本品ヲ注 テ攪拌スヘシ(本品ヲ糞池ニ入ルレハ糞便沸騰シテ溢液スルノ恐アルヲ 以テ其糞便多量ナル場合ニハ其幾分ヲ他器ニ分チテ各別ニ消毒スルヲ可 トシ又本品ハ漆喰、敲金屬製器ヲ損傷スルノ恐アルヲ以テ糞池ノ周邊漆喰 敲ナルトキハ消毒ノ際特ニ注意シ又金屬製器ニ容ルヘカラス) 本品ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取り絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐 ヲニ硫酸若クハ粗製硫酸五十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注 加スヘカラス

消毒ノ方法

第一 患者

傳染病者治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シ

タル後直ニ浴ヲ取ラシムヘシ

第二 死體

傳染病者ノ死體ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ歛ムヘシ但成ルヘク 火葬スルヲ良シトス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病家ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事シタル吏 員、人夫等ハ手足ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人、吏員、 人夫等ハ豫メ爪ヲ剪リ其間ニ污垢ナキ様注意シ置クヘシ

第四 患者、死體等運搬器

患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、戸板ハ使用ノ都度周子ク昇汞水又 ハ石炭酸水ヲ灌クヘシ

第五 便所、芥溜、下水等虎列刺患者ノ吐瀉物、腸管扶私、赤痢患者ノ瀉下物

ノ入りタル便所ノ糞池、大糞池、肥料溜等ニハ少ナクモ糞便ノ量十分ノ一 石灰乳水若クハ格魯兒石灰水(此用量ハ量低度ヲ示シタル者ナレハ多キ ニ過クルハ固ヨリ妨ナシ)ヲ灌キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周子ク 右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ但此消毒法ヲ施行シタル糞溜、肥料等ノ糞便ニ ン爾後新タニ患者ノ吐瀉物又ハ瀉物ヲ混入セサル片ハ一週間ノ後普通ノ 糞便同様肥料ニ供スルモ妨ケナシ又其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ケナシ

虎列刺患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ吐瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘リ取リテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘクハ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ盡ク取除キテ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キテ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ灌テ疏通セシムヘシ  
第六 衣服、器具、敷物等

一傳染患者ノ着用セル衣服及患者ノ用ニ供シタル臥具、蚊帳、飲食器、藥用、玩具其他患者ノ居室内ニ在リタル諸器具ノ類

一看病人其他病毒ニ汚染セル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事セル吏員人夫等ノ着用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等

一患者ノ居室内ニ用ヒタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ

右ノ内衣服、臥具、蚊帳等テ織總物、綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但シ汚染甚シク且ツ高價ナル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

(一) 涼熱(消毒スヘキ物品ニ應シ攝氏百度以上ノ熱氣ヲ三十分乃至一

時間以上周子ク通セシム)

(二) 煮沸(熱湯中ニ三十分時間以上煮沸ス)

(三) 石炭酸水浸漬(石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス)

(四) 昇汞水浸漬(昇汞水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス)

陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

(一) 石炭酸水拭淨(石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス)

(二) 乾布拭淨(屢々乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能ク拭擦シ其乾布ハ速ニ燒却ス)

其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製器ニ用フヘカラス

木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

革製品ニハ石炭酸水拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊、蓆、絨緞、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル後日光大氣ニ曝シ乾燥セ

シムヘシ但汚染甚シキモノ(例之ハ患者ノ吐瀉物、瀉下物ノ浸潤セルモノ  
虎列刺、發疹靈扶私、痘瘡患者ノ病室内ニ敷キアリタル者ノ類ハ燒却スヘシ  
第七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ疊、敷物ヲ揚  
ケ(此疊、敷物ノ消毒ハ前項ニ據ルヘシ)室内各部床及ヒ床下ヲ掃除シテ  
其塵芥ヲ燒却シ(床及ヒ床下ニ吐瀉物滲漏セルトキハ石灰乳若クハ格魯  
兒石灰水ヲ十分ニ撒注スヘシ)掃除後昇汞水又ハ石炭酸水ヲ以テ室内各  
部ヲ叩嚙ニ拭淨スヘシ

右ノ消毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾  
燥スル迄家人ノ起臥ヲ爲サシメサルヲ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ  
以テ乾燥セシムヘシ

第八 瀛車

虎列刺患者アリタル瀛車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメサル  
爲メ石灰石炭焚屑、灰、砂、鋸屑等ヲ撒布シ之ヲ取り除キテ燒却シ車内ノ  
消毒ハ前項患者居室ノ消毒法ニ準スヘシ但車室ニ附屬スル便所ハ石灰乳  
又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

傳染患者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ消毒法ヲ行

フニ先チ人家及ヒ他ノ船舶ニ隔タリタル所ニ廻航セシムルヲ要ス

一患者アリタル船舶ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依  
リテ消毒シ室内各部ヲ掃除シ次ニ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ周子ク室内ニ  
撒布シテ後水ヲ以テ叩嚙ニ洗淨シ爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ  
流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リ  
テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ  
一患者アリタル室ノ外ト雖モ病毒汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水  
ヲ以テ洗淨スヘシ

虎列刺ニ於テハ前二項ノ他尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ

一患者ノ上リタル便所ハ石炭乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分  
ニ洗滌スヘシ  
一吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥ヲ灌キ船底ニ滯留セル汚水ヲ排除シ  
タル後水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ  
一船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換其際充分ニ其貯器ヲ洗淨スヘシ

第十三款 赤痢病豫防法

▲赤痢病豫防法 (明治二十八年七月)

一 儀石灰(可成新鮮ノモノヲ撰フヘシ)

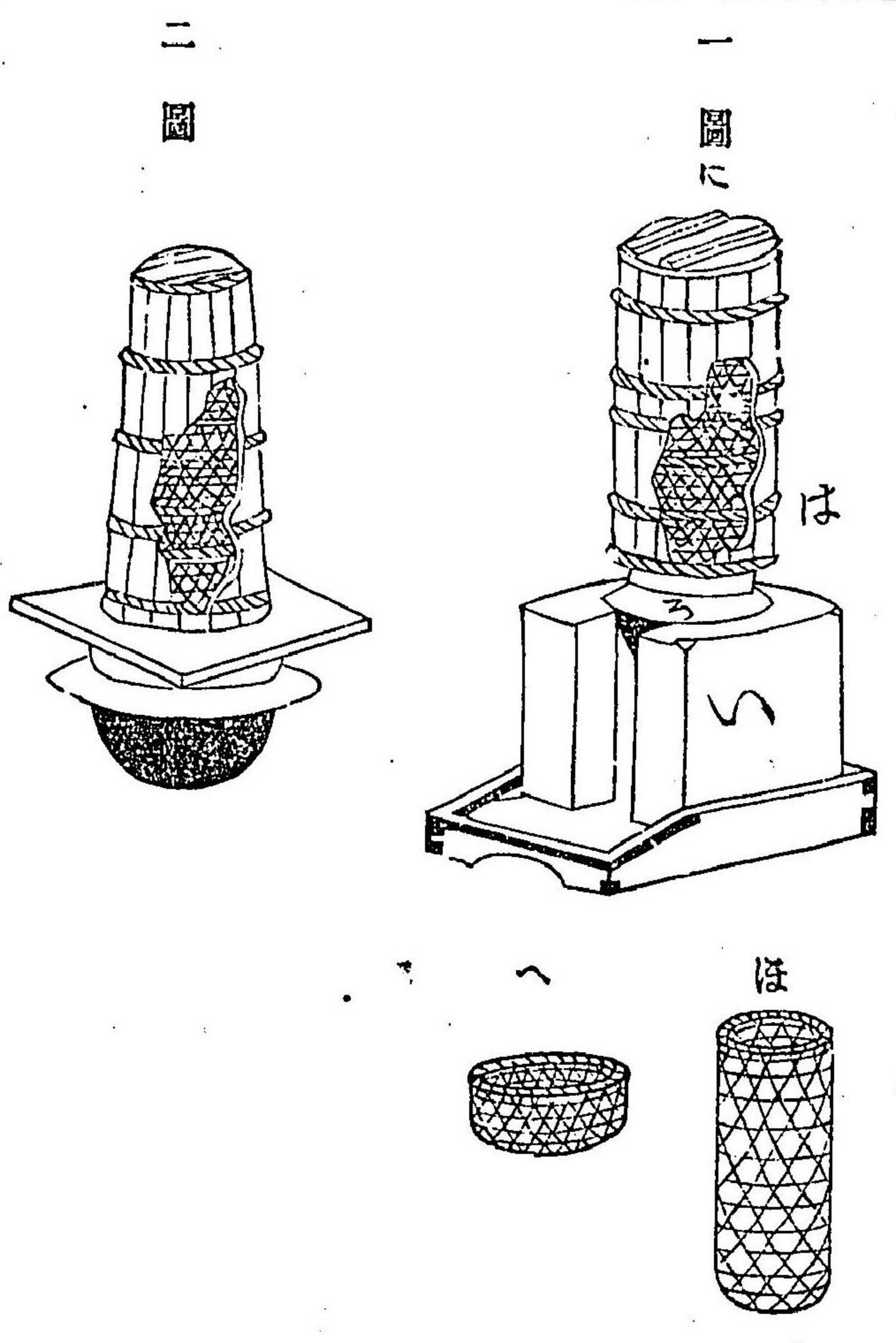
此石灰ハ通常建築用(壁、叩、漆喰等)ニ用ユルモノニシテ何レノ地方ニテ



モ整ヒ易ク且廉價ナリ故ニ生石灰ノ手ニ入り難キ場合ニ於テハ生石灰ノ  
 二倍以上ヲ使用スルトキハ充分ノ効アリ  
 一 牡蠣灰(可成新鮮ノモノヲ撰ブヘシ)  
 此ノ灰ハ肥シニ使用スルモノニシテ生石灰若クハ煖石灰ノ手ニ入り難キ  
 場合ニ於テ生石灰ノ三倍以上使用スルトキハ充分ノ効アリ  
 一 熱氣消毒法

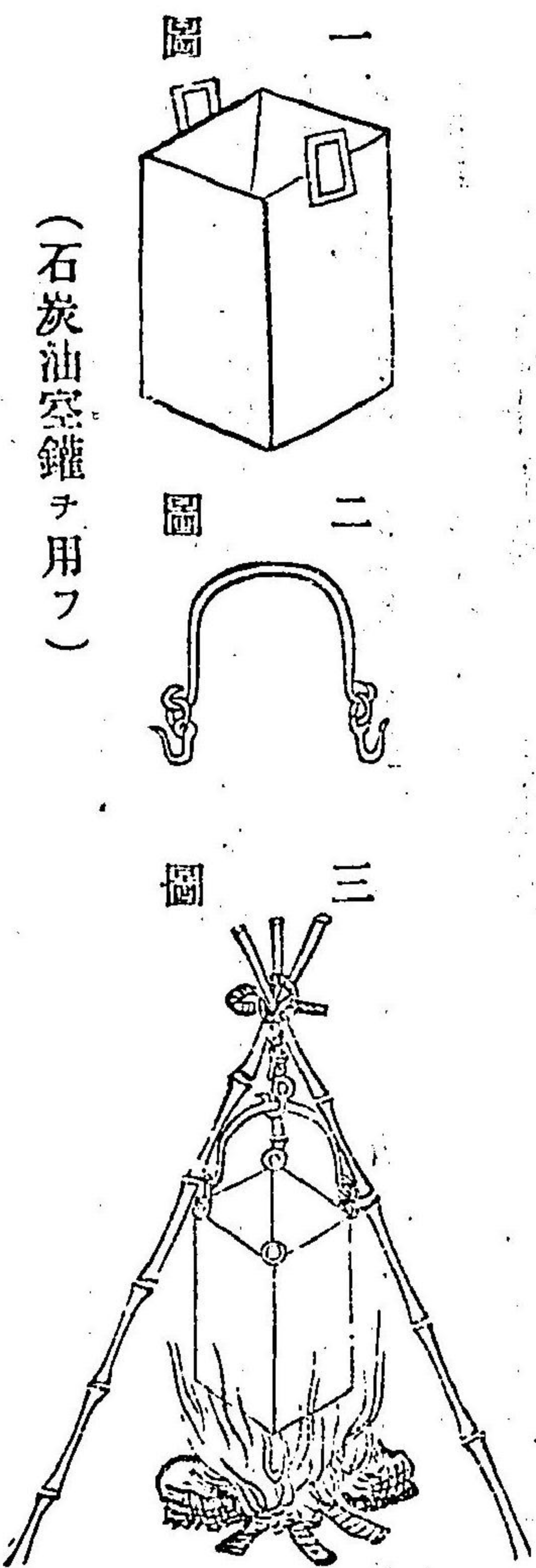
熱氣消毒ハ消毒法最モ有力ノモノトス左ノ方法ハ簡易ニシテ最モ有効ナ  
 リ  
 其構造ハ民間常ニ用ユル處ノ燒酎蒸溜器又ハ楮皮苧皮等ヲ蒸スルモノト  
 粗ホ同様ノモノニシテ何レノ地ニ於テモ容易ニ制作スルコトヲ得ヘシ  
 小孔ヲ穿チ以テ蒸氣ヲ通セシムヘシ而シテナル蓋ト桶底ニ接スル處ト  
 ハ供ニ密着ナラシメ蒸氣ノ漏レヌ様ニ爲スヘシ又二圖ノ如ク桶ト釜トノ  
 間ニ一枚ノ蓋ヲ置キ蓋ノ中央ニ孔ヲ穿チ桶ヲ底無シト爲ス等實際ノ便宜  
 ニ從フヘシ

桶ハ大約高サ三尺五寸横徑二尺釜ノ横徑ハ桶ノ横徑ヨリ稍小ナルヲ要ス  
 ほノ大籠ハはノ桶ニ自由ニ出入シ得ヘキ大サ即チ高サ三尺二寸許横徑一  
 尺九寸許トシヘノ小籠ハ五箇ヲ重テ殆ド大籠同様ノ高サトス即チ六寸



許ニシテ横徑ハ同ク一尺九寸トス此器ニテ消毒スルノ方法ハ一圖ノ如ク  
 裝置シ釜ノ湯ヲ沸カシ其沸騰スルヲ待テにノ上蓋ヲ開キ消毒スヘキ物品  
 ヲ盛リタル大籠又ハ小籠ニ容レ蓋ヲ閉チ一時間以上之ヲ蒸スヘシ其熱度

ハ攝氏百度以上タラシムルヘカラス大籠ハ衣服夜具救物等大ナルモノニ消毒スルニ用ヒ小籠ハ襪褌布片ヲ消毒スルニ用ユルモノナリ  
 百度以上ノ熱ニテ一時間以上ヲ蒸ストキハ十二分ニ消毒ノ効ヲ奏スルカ故ニ病毒ニ汚染シタルモノト雖モ普通洗濯ヲ爲スト同様ニ淡水ヲ以テ洗ヒ其水ハ下水ニ流スモ差支ナシ  
 熱氣消毒具ハ既ニ調製ノ向有之モ縣下ニ於テハ未タ實驗ニ乏シキニ付實際使用スルニ望ミ差支ナキ様豫メ熱度等ノ試験ヲ爲シ置クヲ必要トス  
 一 赤痢病患者糞便ノ處置  
 赤痢ノ病毒ハ全ク糞便中ニ含有スルモノナルヲ以テ其糞便ノ處置ヲ完全ニスル時ハ病毒ノ傳播ヲ防遏スルコトヲ得（蚊蠅ハ病毒傳播ノ媒介ヲ爲スモノニ付便器ニハ必ズ蓋ヲ爲スヲ要ス）  
 左ノ方法ヲ以テ患者ノ糞便ニ石灰ヲ混シ二十分乃至三十分間沸煮ストキハ病毒全ク死滅ニ至ル  
 右ノ如クシテ死滅ニ至ラシメタル糞便ハ尋常ノ便所ニ投スルモ又田畑ニ棄ツルモ差支ナシ且ツ石灰ヲ混シタル糞便ハ煮沸スルモ左程臭氣ヲ發スルコトナシ患者ヲシテ右武力罐中ニ糞便ヲ爲サシムルモノ又ハ他ノ便器ヲ使用シテ武力罐中ニ移ス等實際ノ便宜タルヘシト雖モ糞便ヲ爲シタル都度石灰ヲ投入スルコトハ怠ルヘカラス



(石炭油空罐ヲ用フ)

以上消毒方法ハ獨リ赤痢病ニ効アルノミナラズ虎列刺腸チブス等ニモ充分ノ効アリトス且ツ以上ノ方法ハ簡易ナルモノヲ掲ケタルモノニシテ明治卅三年十二月訓令甲第百二十一號豫防心得書中ニ掲クル處ノ消毒法ハ總テ有カナルコトハ勿論トス

第十四款

下痢患者ノ届出ヲ受ケタルトキノ手續

▲三重縣訓令甲第六十五號

(明治廿七年七月十五日)

郡 役 所  
 警 察 署  
 同 分 署

市役所  
町村役場

本日縣令第四十八號ニ依リ下痢患者ノ届出ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ニ依リ處理スヘシ

一市町村役場ニ於テ下痢患者ノ届出ヲ受ケタルトキハ速ニ警察署分署若クハ駐在巡查ニ通報シ且ツ其患者ノ病名住所氏名發病ノ月日ヲ記シ町村役場ヨリ郡役所ニ報告スヘシ

一郡市役所ハ該患者ノ病名住所氏名發病ノ月日ヲ記シ一週間毎ニ縣廳ニ報告スヘシ

一下痢患者ニ對シテハ充分ニ注意ヲナシ若シ疑ハシキ患者ナルトキハ注意上豫防消毒法ヲ行ハシメ且ツ家人ノ交通上充分ノ注意ヲナスヘシ  
一下痢患者ニシテ赤痢ニ疑ハシキモノハ可成他ニ移轉セシメサル様注意スヘシ

一下痢患者ニシテ醫治ヲ受ケサルモノアルトキハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケシムヘシ

一市町村役場ニ於テハ尙ホ衛生組合長ニ通知シ本年五月訓令甲第五十五號第五項ノ取扱ヲナサシムヘシ

第十五款 下痢患者ヲ診察シタル醫師ノ届出方

▲三重縣令第四十八號 (明治二十七年七月十五日)  
赤痢病豫防上必要ニ付當分ノ内醫師ニ於テ下痢患者ヲ診察シタルトキハ直ニ口頭若シクハ書面ヲ以テ其病名住所氏名發病ノ月日ヲ市役所町村役場ニ届出ツヘシ

第十六款 醫師吐瀉病若クハ下痢患者ヲ診察

シタルトキノ手續

▲三重縣令第三十三號 (明治二十八年七月四日)  
醫師吐瀉若クハ下痢患者ヲ診察シタルトキハ其排泄物ニ充分消毒ヲ行ハシメ且患者ノ住所氏名ヲ即時警察署分署駐在巡查市役所町村役場又ハ巡行ノ警察官吏ニ便宜書面若クハ口頭ヲ以テ届出ツヘシ

第十七款 虎列刺病赤痢病患者ニ關スル遮斷

及消毒清潔法

▲三重縣令第三十四號 (明治二十八年七月四日)  
虎列刺病赤痢病患者ニ關スル遮斷及消毒清潔法等ニ係ル件左ノ通り相定ム  
一 虎列刺病赤痢患者アリタル爲メ交通遮斷ヲ受ケタルモノハ其遮斷中警察官吏若クハ檢疫委員ノ認可ヲ受クルニアラサレバ如何ナル物品ト雖モ遮斷地外ニ持出スコトヲ得ズ

- 二 虎列刺病赤痢病患者ノ吐瀉物ニ汚染シタルモノハ勿論患者ノ物品ハ河川溝池又ハ共用ノ井戸側等ニ於テ洗濯シ若クハ其汚物ヲ河川溝池塵溜等ニ投棄スヘカラス
  - 三 虎列刺病赤痢病患者ノ井戸并ニ其共用シ居タル井戸ハ警察官吏檢疫委員ノ認可ヲ受クルニアラサレハ一切使用スルコトヲ得ス
  - 四 俄ニ吐瀉ヲ發スル患者アリタルトキハ戸主又ハ家族若クハ家主ヨリ口頭若クハ書面ヲ以テ直ニ警察署分署駐在巡查市役所町村役場又ハ巡行警察官吏等ニ便宜届出ツヘシ
  - 五 虎列刺病赤痢病患者或ハ其死体ニ觸接シタルモノ並ニ汚物ヲ取扱フタルモノ若クハ患者ニ同居或ハ宿泊シ居リタルモノハ必ス消毒ヲ受クヘシ
  - 六 虎列刺病赤痢病患者或ハ死体ニ觸接シタル夜具衣類器物其他病毒ニ汚染シタルモノハ必ス消毒ヲ受クヘシ
  - 七 各戸ノ便所塵溜下水溝汚水溜等不潔ノ場所ニ對シ郡吏警察官吏檢疫委員市町村吏員ヨリ清潔法又ハ消毒の清潔法ヲ爲スヘキ旨ノ督促ヲ受ケタルトキハ其指定ノ時間内ニ之ヲ行フヘシ若シ之ヲ行ハサルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徴收スヘシ
- 本令第七項ヲ除クノ外違フ者ハ刑法第四百廿六條第四項ニ依リ處分ス

第十八款 吐瀉及下痢患者ノ届出ヲ受ケタル

ノ際手續

▲三重縣訓令中第四十號 (明治二十八年七月四日)

郡	役	所	
警	察	署	
同	分	署	
市	役	所	
町	村	役	場

本月本日縣令第三十三號同第三十四號ニ依リ吐瀉若クハ下痢患者ノ届出ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ニ依リ處理スヘシ

- 一 吐瀉若クハ下痢患者ノ届出ヲ受ケタルトキハ始メ届出ヲ受ケタル處ヨリ郡役所警察署分署市役所町村役場ノ間ニ患者ノ病名住所氏名發病月日等相互通報スルモノトス
- 一 郡市役所ハ患者病名住所氏名發病ノ月日ヲ其都度臨時檢疫部ニ報告スヘシ
- 一 吐瀉病若クハ下痢患者ノ排泄物ハ充分ニ消毒ヲ行ハシメ且家人ノ交通上充分ノ注意ヲ爲スヘシ
- 一 吐瀉若クハ下痢患者ハ可成他ニ移轉セサル様注意ヲ爲スヘシ